

腺

セン

腺 腺

腺字、分泌作用を管む体内の器官

一〇畫

腿

タイ

腿 腿

脛と股の總稱

膀

ハウ

膀 膀

膀胱は小便ぶくろ

脊

リヨ

脊 脊

せなかの骨、せほね(ち)から、筋肉の力

脛

フツ

脛

膈

カク

膈

膈膈は北海産の海獣の名

胸と脾との間(鐘をつるす木

膏

カウ

膏 膏

めぐみの廣くわたること

一一畫

腸

腸の俗字

腸 腸

膚

フ

膚 膚

はだ、はだへ(う)はつら、表面(四本の指をならべた長さ)うるはし(美)おほいなり(大)うはつらのみにて奥底が無い、あさい

膜

バク マク

膜

まく(動植物の体内の器官を包むうすき皮)膜の如く物をおほふ薄きもの(両手をあげ地に伏して拜す

膝

シツ

膝 膝

ひざ

膠

カウ

膠 膠

にかは、にかはす、にかはて接ぐ(かたし(固)つ(附著)なかによくて離れぬ(や)はらぐさま(動)くさま(も)とる、まがる(周代の學校

一二畫

膨

ハウ

膨

ふくる(服)ふとる、はれる

臑

臑

あぶら、あぶらあか、化粧するあぶら(あぶらぎる、あぶらが多い)なめらか(滑)

膳

膳

ひもろぎ、供物の熟肉

膳

膳

備へ供する食物、供食(くらふ(食)料理した供食をのせる臺、ぜん、又飲食物(めし、食事(茶碗に盛)つた飯を敷へる語(箸一對の稱

臑

臑

土地のこえたさま、又うるはしきさま(ぼじ、骨のなき乾肉(のり(法)

一三畫

膺 ヨウ 膺

①むね(胸)口引く、引きうける、あたる(馬のはらおび)うつ

臄 タン 臄 臄 臄

①六腑の一、きも口こゝろ、きもだま(ふきとる、ぬぐふ)

臄 クワイ 臄 臄 臄

①なます、細くきつた生肉口なますにす

臄 ドウ ノウ 臄 臄 臄

らみ、らみしる

臄 トン ドン 臄 臄 臄

①しり、みさらみ口物の下部、又はそこ

臄 ヒ 臄 臄 臄

①ひぢ、うで、かひな口肘より肩までの稱、にのうで(肘より手首までの稱)

臄 オク 臄 臄 臄

①むね口こゝろ、意中(國訓おくる(氣おくれがしておちける))

一四一九畫

臄 セイ ザイ 臄 臄 臄

①へそ、ほど、果や瓜の蕊口ほぞの形してゐるもの、總稱

臄 ラフ ロフ 臄 臄 臄

①陰曆十二月の異名(冬至の後第三の戌の日に百神をまつる祭)とし(年)二倍の得度以後に於ける年數

臄 エン 臄 臄 臄

①べに(化粧用の紅色の顔料)口のんど(咽)のど

臄 リョ ロ 臄 臄 臄

①つらなる、ならべる口つらぬ、ついで、陳列する(つたはる(傳)つたふ)

臄 サウ ザウ 臄 臄 臄

はらわた(臄)

臄 レン 臄 臄 臄

①きりみ、細く切つた肉片口やす(瘦)口國訓みそなはず(見るの敬語)

臣部

臣 シン ジン 臣 臣 臣

①おみ、めしつかひ、けらい口統治権下にある一般の人民(けらいの自稱(我君に對していふ)又他國の君に對する卑下の稱)けらいとなる、臣事す(けらいの本分をつくす)けらいとする(國訓おみ(古代氏姓の一))

二一一畫

臥

グ

臥 臥 臥 臥

①ふす、ねる、よこたはる、横になる、やすむ②ふしど、ねま

臧

サウ  
ザウ

臧

①よし(善)②まひなひ、賄賂③かくす、をさむ、かくる④しもべ(奴僕)⑤はらわた(臧)⑥くら(藏)

臨

リン

臨 臨 臨 臨

①のぞむ、上の者が下の者に對す、尊き者が卑しき者の所に行く、又其敬語、其場所に出る②とりしまる、をさめる③いくさ車④易の卦の名⑤葬式の時衆人が哭き悲しむこと

自部

自

ジ

自 自 自 自

①おのづから、おのづと、天然に②みづから、おのれ、じぶんで、われと③より、から④至と受けて「何々から何々まで」の意に用ゐる⑤よりす⑥何々からはじまる⑦よりは⑧従ふ、よる⑨出來する、もとづく

四畫

臭

シウ  
キウ

臭 臭 臭

①かほり、にほひ②くさし、わるい③かざがする④くさる(腐敗)又その物⑤わるい名、醜聞⑥けがる、けがす⑦かぐ(嗅)

至部

至

シ

至 至 至 至

①いたる、ゆく(行)到着する、とどく②到來する、ふりかゝる③きはまる、十分の點まで達す④いたり、いたつて、きはめて⑤時期の名(太陽が南又は北に行き極まつた時)

三一〇畫

致

チ

致 致 致 致

①いたす、來らしめる、至らしめる②得させる、おくる、やる、つかはす③つける、つたへる④しかける、

至部 至・致・臺・臻

白部

臺

ダイ

臺 臺 臺 臺

①うてな、ものみ②高く平かなる土地③物を載せるだ④一人を呼ぶ尊稱⑤中央政府の官省、又其高官⑥めしつかひ、賤しい者⑦音に類する草⑧物事のどだいとなるもの

臻

シン

臻 臻 臻

①いたる(至)とどく、及ぶ②來る、あつまる

白 キウ

旧 白

うす、つきうす

二一五畫

史 ユウ

史 史

しばらく(口)す、む(勅)

昇 キョ

昇 昇

かく、かつぎあげる、もち挙げる

春 ショウ

春 春

白で物をつく、うすづく(口)太陽が没する(口)従に通ず、又しづか(口)つく(衝)

舅 キウ

舅 舅

七一二畫

しうと(口)をち(口)天子諸侯が異姓の者を親しみて言ふ語

興 ヨ

興 興

いと、ともに、ともんぐに、いつしよに(口)くみ、なかま、同類(口)結びつける詞、および(口)ともにす、なかまになる(口)一しよに行く、いつしよに爲す(口)くみす(口)賛成する、ゆるす、したがふ(口)たすける(口)もつて(以)(口)比較の接續詞、何々と、いづれぞ(口)ために(爲)(口)あたふ、授ける(口)よりは(口)あづかる、參與す(口)心の決せぬさま(口)か(歎)疑問の語辭(口)姿勢の、びく(口)せるさま

興 キョウ

興 興

コウ

おきる、始まる、生ず、盛んになる(口)おこす、用ゐる、ひきたてる、盛んにする(口)よることぶ、感ず(口)おもむき、おもしろみ(口)詩句の構造法の一

舊 キウ

舊 舊

もと、ひさしく、ふるく(口)ふるし、新規でない、年を経ること久し(口)むかし、ふるい當時(口)ふるい物事(口)なじみ、ふるいまじはり(口)知人、しりあひ、としより

舌部

舌 セツ

舌 舌

五官の一、した、又物に附屬して舌の形をなし又はその如き作用をなすもの(口)ことば、くちまへ

白部 舊 舌部 舌・舍・舐・舒

舍 シヤ

舍 舍

二一〇畫

やどり、やど、やすむ所、星のぬどころ、行軍の時宿營する所(口)軍隊の行軍は一日三十清里にして宿營するより行程三十里のこと(口)いへ、居宅(口)休む、やどる、やどりにつく、やどす、とめる(口)おく、すつ、さしおく、廢する(口)施しめぐむ(口)はなつ(放)(口)ゆるす(赦)(口)すつ(廢)やむ(息)(口)釋に通ず

舐 シ

舐 舐

なめる、ねぶる

舒 ショ

舒 舒

のぶ、ひろげる、のびる、ひろがる(口)ゆるし、おだやかである(口)おそい、のろい(口)ゆるやかに、おもむろに

舖 舖の誤字

舖 舖

館 館の俗字

館 館

舛部

舛 セン

舛 舛 舛 舛

たがふ(違)そむく(背)みだる(亂)みだす

六一八畫

舜 シュン

舜 舜

①木の名、むくげ、もくげ、木槿②人名(支那古代の聖者)

舞 ム

舞 舞

①まふ、まはる、めぐる②大いに喜ぶさま③まはす、自由に變へる④をどり、まひ

舟部

舟 シウ

舟 舟 舟

①ふね(船)②おぶ(帶)③國訓ふね(水・湯・酒などを盛る箱)

四畫

航 カウ

航 航 航

①ふね、もやひぶね、兩舟並び行く舟②舟で水を渡る、舟を進める

舫 ハウ

舫 舫 舫

ふね、もやひぶね

般 ハン

般 般 般

①はこぶ(運)うつす(移)②めぐらす(旋)めぐる③物事を數へる稱④たのしむ(樂)⑤かへす、かへる(反)⑥かへつて、かへりて⑦物事をすべくつていふ語⑧般若は佛教にて智慧の義

舟部 航・舫・般・舳・舳・舳・舳・舳

五畫

舳 チク

舳 舳 舳

①とも、船尾②かぢ(舵)③みよし、へさき、船首

舳 タク

舳 舳 舳

こぶね、小船

舳 舵に同じ

舳 舳 舳

舳 ハク

舳 舳 舳

舳 舳

舳 舳 舳

五六三

ふなべり、ふなばた、船側

舸

カ

舸

舸

舸

おほぶね

船

セン

船

船

船

ふね(支那關東にては舟、關西にては船といふ)

七一三畫

舩

フ

舩

舩

舩

たけ短く底の深い小舟(國訓はしけ(本船と陸地との間を往來して用を足す小舟、はしけぶね))

艇

テイ

艇

艇

艇

ほそ長い小形のふね

艘

サウ  
ソウ  
セウ  
シウ

艘

艘

艘

ふね(船舶の總稱)(船を數へる語)

艦

サウ

艦

艦

艦

船中にて貨物を積む所

鐘

トウ  
ドウ

鐘

鐘

鐘

鐘は兵船

舫

ギ

舫

舫

舫

ふなじたく、ふなよそひ

一四一六畫

艦

カン

艦

艦

艦

いくさぶね、兵船

艘

ボウ  
モウ

艘

艘

艘

鐘はいくさぶね

艦

ロ

艦

艦

艦

船の前部、へさき、みよし(船の後部、とも)

艮部

艮

コン

艮

艮

艮

とゞまる(止) (かぎる(限)) (易の卦の名) (うしとら、東北の方角、午後二時から四時までの時刻)

一一二畫

良

リヤウ

良

良

良

よし、おだやか、すなほ(すぐれてゐる、かしい)

美しい、立派である(善きこと、善きもの、よき人)

おつと(夫) (や、よほど、しばらくして(まことに(信)))

艱

カン  
ケン

艱

艱

艱

かたし、むづかしい、なやましい(かたんず、やすからず思ふ) (なやみ、なんぎ) (くるしむ、なやむ) (喪)

色部

色 シヨク  
シキ

①いろ、太陽の七色(紅・朱・黄・綠・藍・青・紫)かほいろ  
②ふう、そぶり、おもふち、やうす③男女間の熱情  
いろどり(采色)④けしき⑤いろす、顔色をかへて怒る、  
おだやかな様子をなす⑥驚くさま⑦五官に感じて心を  
動かす物⑧國訓いろ(喪服の鈍色、又其喪服、許可無く  
ては著られぬ衣服の色、禁色)やうす、傾向、をりあひ

一八畫

艶 エン

①あてやか、なまめかし②つや、光澤③うらやむ(羨)  
④國訓つや(愛嬌、をりあひ、男女間の情事)はなやかに美麗なこと、なまめく、いろめく

艸部

艸 サウ

①くさ(草の古字)②國訓くさかんむり

二一三畫

艾 ガイ  
ゲイ

①山野に自生する一種の一年草、よもぎ②もぐさ③老人、としより④みめよし、うつくし⑤やしなふ(養)⑥つく、つくす(盡)⑦むくゆ(報)⑧かる(刈)草を除く⑨をさむ、をさまる

芫 ホウ

芫

芫 クワン  
グワン

①草木の盛んに生長するさま②尾の長ささま  
芫圃は山野に自生する蔓草、がゝいも

芫 セン

①さかんなり、しげる②青いさま、又色の深いさま

芫 クウ

①いも(さといも)たうのいも・やつがしら・はすいもの類②おほいなり(大)

芫 シヤク

芫薬は宿根草の一、えびすぐさ、牡丹に似たる草花

芫 キ

①粟の一種、もちあは②野菜の一、ちさ

芫 バウ  
クワウ

①禾穀の實の先にある毛、のぎ、とげ、ひかり②ひろびろしたるさま③ほさき(鋸)きつさき④疲れたるさま⑤物事の判然せぬさま⑥國訓すゝき(薄)

四畫

芫 フ

芙蓉は灌木の一、又蓮の異名

芫 シ

①一種のきのこ、さいはひだけ、ひじりだけ、芝茵②國訓しば(小さき蔓草の一、路傍等に發生する小雜草)

芫 サン  
セン

①かる(刈)②かま、大鎌

芥 ケ カイ  
菜の一種、からしな<sup>①</sup>からし(香味食料)<sup>②</sup>あくた<sup>③</sup>不用な物ごと、こまかい物事

芦 カ コ  
草の一、さほひめ<sup>①</sup>がま(蒲葦)<sup>②</sup>蘆の略字

芥 フン  
草のわかば<sup>①</sup>かをり(香氣)<sup>②</sup>おこる(起)又そのさま

芭 ハ バ  
芭蕉は熱帯地原産の植物の一

苳 ゼイ  
夏・殷・周三時代の國名(今の山西省芮城縣)<sup>①</sup>みづぎは<sup>②</sup>楸のひも

苳 シン  
蘭の一種、ほそみ、橙心草

苳 キ  
菱の一種、ひし

花 ケ クワ  
草木のはな、總て花の形したもの、すべて花の如く美しきものはななく<sup>①</sup>娼妓の異名<sup>②</sup>つかひへらす<sup>③</sup>國訓はな(櫻のはな、梅の花、佛にたむけるしきみ等、藝人などに與へる祝儀、はなあはせ、いけばなの略、美しいこと、最も善き時、最も盛んの時、最も適當なる時、最も美しき時)

芳 ハウ  
芳芳芳

止 シ  
かをり<sup>①</sup>よし、香氣が善い、かんばし<sup>②</sup>ほまれ(名譽)<sup>③</sup>賢者また能士<sup>④</sup>他人の物ごと冠して用ゐる敬稱

苳 シ  
水に生ずる一種の香草、よろひぐさ(根は薬用に供せらる)

苳 ウン  
苳

苳 キン  
①香草の一種物事の多くあるさま<sup>②</sup>くさぎる(耘)<sup>③</sup>花の黄色なる形容、又盛んなる貌

芡 ス  
水中に生ずる一種の草、せり

芡 スウ  
①草を刈る、くさかり、又その人<sup>②</sup>草食動物の總稱<sup>③</sup>まぐさ、まぐさを與へて飼ふ<sup>④</sup>わら(藜)<sup>⑤</sup>まこも

苳 モウ  
とる、擇り分けてとる<sup>①</sup>肉と野菜とをませた食物

苳 ガ  
め、草木のめ<sup>①</sup>きざし、おこり<sup>②</sup>めぐむ、めざす

苳 ヒツ  
小さきさま<sup>①</sup>しげる、又そのさま<sup>②</sup>ひざかけ

五 畫

苑 エン  
その、かこひを設けて禽獸を飼ふには、草木花卉を栽培するかこひのうち<sup>①</sup>物事の集まれる所<sup>②</sup>鬱に同じ

苳 ゼン  
苳



①草の盛んに茂るさま②時間がのびくくなる

苔 レイ  
リヤウ

①菜の一、をなもみ②茯苓は菌の一種

苔 タイ

こけ(藓)

苔 テウ

①えんどう(豌豆)②陵苻はのうぜんかづら

苗 ベウ  
メウ

①なへ②たね、ちすぢ、後裔③種族の名

苛 カ

①きびし、からし、峻厳、剛しい、きつい②わづらはし③かゆし④とがむ、せむ、しかる⑤みだす

首 ボク  
モク

首指は豆科の植物、うまごやし

苞 ハウ

①わら等につまんだ物品、つと②草木のむらがり生ずるさま③木の根④國訓つと(みやげ、みやげもの)

苟 コウ

①かりそめ、いさゝか、ちよつと②いやしくも③まこと

若 ジャク  
ジャ  
ニヤ

①ごとし(如)②したがふ(順)③なんぢ(汝)④しく(如)⑤かく、しかく、このやうに、さやうに、かくのごとし⑥假定のことば、もし⑦もしくは⑧形容詞の下に添へる助辭⑨わたつみ、海の神⑩又長きさま、垂れさが

るさま①わかし(弱)②かわいた草③梵語の音譯に用ゐる④國訓わかし(新しい、幼い、わかい、未熟である、思慮技術等が幼稚である)

苦 ク

①にがし②にがな(茶)③くるし、せつない、貧しい④くるしみ、なやみ、くるしむ⑤ねんごろ(懇)⑥にがいあぢ⑦月色がさえる⑧無常の煩累、生病老死等⑨器がもろく損じ易い

苺 チョ

①麻の一種、からむし②國訓を(からむしや麻の皮から採つた繊維)

苔 セン

①菅又茅などで編んだ席、とま②むしろの敷物、こもおほふ(覆)

英 エイ

①はな(草木の花にして開きて後みのらぬもの)草木の華②秀て、美しき所③はなぶさ(蔞)④は(葉)⑤草木のめばえ⑥人なみすぐれる、又其人⑦矛を飾つた羽根⑧うるはしきさま⑨雲の盛んなるさま⑩英吉利國の略

苺 ショ

①しく(草を履の中にしく)②つと(苞)③あさ(麻の一種)④水上に浮ぶ枯れた草木⑤肥料に混和する草

苺 ハイ  
ビヤウ

①蒿の一種、よもぎ②華果はりんご(林檎)

苺 バイ

山野に自生する一種の草、いちご

苻 フ

葛に似たる一種の草(苳さや(莢))

苳 ヒツ

かをる、かんばし、又かをり

苳 ホツ

草が生え茂るさま(苳をさむ(治))  
婦人のかんざしの類(婦人用の車のおほひ(さい)はひ(幸福))  
ふさがる(塞)強く盛んなる貌(苳)ひつぎなは(縛)いきをす

苳 サツ

草の生え出る貌(動物の生長する貌)萌芽、めばえ

苳 ボウ

しげし、多い(苳)しげる、盛んになる、多くなる(才) 徳勝れること(苳)つとむ

苳 ハン

蛇の一種、はち(縛)口のり(範)かた

苳 カ

なすび、なす(苳)はすの莖

苳 バウ

六 畫

茗 ベイ

ちや、茶の芽、又其飲物(特に晩く採取した茶(ばんちや))

苳 レイ

蒲に似た一種の草

苳 セン

蔓草の一、あかね(苳)あかい、絳色

苳 シ

ふく(苳)かや、屋根を葺くかや(うばら、いばら)地に布き生ずる一種の蔓草、はまびし(苳)つむ(積)

苳 バウ

遠くひろきさま(苳)うつとりした貌、ほんやりしたさま(苳)ばつとせるさま

苳 フク

茯苓は松の根に寄生する菌類

苳 シユ

茶黄は喬木の一(國訓ぐみ(灌木の一、胡頹子))

苳 シ

ますく(苳)むしろ(席)この、これ、こゝ、こゝに(とし(年))

苳 タサ

ちや、灌木の一、ちやの木、ちやのめ、茶の若葉、それを飲物の原料に製したもの(しんちや、特に早く採取した茶)

苳 ジョウ

しげし、しげる(苳)草や毛などの亂れたるさま(鹿茸)は薬の一(賤しき者、おろかなもの(國訓たけ(茸、又たけの如く生え出るもの))

如

ジヨ

茹

①草木の根の連なるさま、又其根はかる(度)②くらふ(食)③くさる(腐)④あかね(茜)⑤ゆびく、ゆてる、うてる⑥ひたしもの、ゆびきな

荀

ジュン

荀

人の姓(春秋戰國趙の人)

荃

セン

荃

①香草の一日ふしづけ(荃)魚を捕へるしかけ②ほそぬの

荊

ケイ

荊

①うばら(茨)いばら②しもと(刑杖)③自分の妻の謙辭④地名(古九州の一)

荇

カウ

荇

水草の一、あさゞ

草

サウ

草

①植物の二類別の一、くさ②あらし、そまつ③いやし(鄙)④詩文のしたがり⑤書體の一⑥うれへるさま⑦いそがしきさま

荇

ジン

荇

①まめ(豆)②紫蘇の一種(元)③やはらか

荇

セン

荇

①しきりにくさ(草)②すゝむ(蕨)

荇

テイ

荇

①茅の初生のもの、つばな、又茅の類②稗の一種、いぬびえ

荒

クラウ

荒

①ある、蕪穢、穀物果類などがみのらぬ、物事が亂れて整頓せぬ、あらず②ふける、又すさむ、おろそかにす③國のあて④畿内を中心とし五百里づゝに區劃したる五等地のうち最外周の地⑤おほいなり(大)⑥おほふ(掩)⑦うつとりするさま⑧國訓あらし(てあら、亂暴、勇猛、風雨等のはげしきこと、粗大なること)あれる、又あれ

七 畫

荳

トウ

荳

①まめ(豆)②荳蔻は草の一

荷

カ

荷

①はす②蓮荷は藥草の一③になふ、引きうける、恩をありがたく感ず④になひ物、に、にもつ⑤怒り怒る聲、又しわがれ聲の形容⑥國訓に(にもつ、じやまもの、荷物を敷へる語)

荻

テキ

荻

荻の類、をぎ

茶

タ

茶

①一種の野草、のげし②茅の一種にて白色の花を著けるもの③あれくさ④物事をそこなふもの⑤いつはる(替)

莊

シャウ

莊

①おごそか(嚴)②かざる(飾)③つじ、六達の街④しもやしき、ひかへやしき⑤あなな、むらざと⑥みせ、店肆、田地⑦臺灣の行政區劃の一⑧國訓しやう(莊園の略)

莎 サ 莎 莎

①海邊に生ずる草の一、はますげ ②莎雞は蟋蟀の屬、はたをりむし

莠 キヨ 莠

①いも(芋) ②周の國(今の山東省莒州)

莓 メイ 莓 莠 莠

①こけ(苔) ②いちごの一種、きいちご ③田地のあををあしたる貌

莖 カウ キヤウ 莖 莖 莖

①草木植物のみき、くき ②葉の軸、花の柄、くきの形したるもの ③根と枝葉との中間にありて養分を貯蔵する部分 ④はしら(柱) ⑤さを ⑥物品の柄、又は細きものを數へる語

莖 シン 莖 莖

①長きさま ②物事の多きさま ③細莖は藥草の一

莖 エン 莖 莖 莖

①つゞく(續) ②國訓むしろ(莖)

莖 クワン 莖 莖

①濕地に生ずる一種の草、むらほゝゑむさま

莖 イウ 莖 莖 莖

①稻に似た雜草、はぐさ ②善に似て害悪をなすもの

莖 ケフ 莖 莖 莖

①豆類の實を包んでゐる殼、さや ②錢の名

莖 ラウ 莖 莖 莖

①牛馬の食料となる草の一種 ②莠若はをめきぐさ、はしりどころ ③國訓たばこ(煙草)

莠 ガ 莠 莠 莠

莠の一種、つものよもぎ

莫 バク マク 莫 莫 莫

①否定の語、なし(無) ②なかれ ③なからんや ④はかる(誤) ⑤さだまる(定) ⑥物事に賛成せぬこと ⑦草木の茂る貌 ⑧ひろき貌 ⑨やすむ、やむ ⑩暮に通ずるしづかなるさま ⑪きよし(淨) ⑫暮に通ずる菜の一種

八 畫

莠 バウ マウ 莠 莠

①くさ、くさむら ②草ぶかきさま ③とほし、かすか ④おろそか、あらし

莖 セイ 莖 莖 莖

①かぶら、かぶ、かぶらな(蕪) ②茅の一、たまな ③はな ④草木の茂れる貌

莖 クワン 莖 莖 莖

茅の一種、すげ、すが

莖 キク 莖 莖 莖

花卉の一、きく

莖 キン 莖 莖

①たけ、きのこ、くさびら(藪) ②極めて微細なる下等植物

莖 シ サイ 莖 莖

① 耕さぬ田地、あれち、又雑草の生えてゐる田地、開拓して未だ種をまかぬ田、開拓後一年目の新田(田)たちがれ、たちがる(樹が立つたまゝ、かれること)② さく(割裂)③ わざはひ(災)

菜 クワ 菜 菜 菜 菜

④ くだもの、このみ、果實(食)以外に用ゐる娯樂性の食品、くわし

菖 シヤウ 菖 菖 菖

⑤ 水邊に生ずる香草の一、しやうぶ、あやめぐさ(菖)あやめ草の一種、あやめ

菜 サイ 菜

⑥ 菜をもの、な、やさい(菜)かな、おかぢ

菟 ツト 菟 菟 菟

① 菟絲は蔓草の一、ねなし(虎)ら(う)さぎ(兔)② 於菟はとら(虎)

菩 ボ 菩 菩 菩

菩提は梵語(Bodhi)の音譯にて佛道、佛智、正覺等に譯す

董 キン 董 董 董

③ 原野に自生する草、すみれ(毒)草の一、とりかぶと

華 クワ 華 華 華

④ はな(花)の古字(花)さく(は)な(は)な(は)な(は)な(は)なり(う)は(べ)し(ろ)し(白)又(白)き(粉)支那人が自國を稱する語(山の名(陝西省華陰縣所在))

菰 コ 菰 菰 菰

池沼に生ずる水草の一、まこも(菰)

菱 リョウ 菱 菱 菱

⑦ 水草の一、ひし(菱)ひしがた、扁平なる四角形

菲 ヒ 菲 菲 菲

⑧ うすくす、うすし(菲)さうり(草履)⑨ 菜の一(菲)からばしきさま⑩ 花の美しき貌、又草の茂るさま⑪ 亂雑なるさま

菴 庵に 同 菴

菹 シヤ 菹 菹 菹

⑫ つけもの、かうのもの、鹽や酢に漬けたる生の菜蔬果實(菹)草の深き澤(鹽肉)にすること

葵 タン 葵

あし(一種)

菽 シュク 菽

まめ(豆類の總稱)

萃 スキ 萃 萃 萃

⑬ あつむ、あつまる、あつまり(萃)⑭ やつる(萃)

萄 タウ 萄 萄 萄

⑮ 蔓生果樹の一

菜 ライ 菜 菜 菜

⑯ あかさ(藜)⑰ くさむら(地味不良にして年々植付の出来ぬ田)⑱ 草を除くこと⑲ 菜菔はだいこん

① 草木の盛んに茂る貌。妻の行くさま。美しき模様。うや／＼しきさま、つゝしむ。

② 萌

① きざし、めばえ、めざし、おこり。きざす、もゆ、芽を出す、又おこる、はじまる。たみ(民) 動かさるさま。たがやす(耕)

② 萍

① 草木が衰へしほむ、しをれる。支へる力が無くなる、なゆ。衰微する、衰へ疲れる。病氣になる、やみつ。宿草の一

② 萎

① 草木が衰へしほむ、しをれる。支へる力が無くなる、なゆ。衰微する、衰へ疲れる。病氣になる、やみつ。宿草の一

① 蒼

② 萩

九 畫

① はぎ、自生の灌木。よもぎ(蕭)くさよもぎ。ひさぎ(萩)

② 萬

① よろづ、千の十倍、多い數を示す語。舞樂の名。し、まんに一つも、ばん／＼、決して

② 菅

① 宿根草の一、わすれぐさ。國訓かや(葦に似た一種の宿根草)

① 落

① おつ、草木の葉や花が散る、さがる、くだる、へる、少くなる。手にはひる、其人の物となる。はまる、落込む、死ぬ、たふれる、ぬける、脱卻する。しづむ、かくれる、又くづれる、衰へる。おとす、さげる、くだす、攻めとる、ぬきとる。くだく、あらす、やぶる。うしなふ、なくする。おちぶれる。家を新築する時に行ふ儀式。竣工する、できあがる。むら、人のあつまり。へい、まがき。雨だれのしづく。國訓おつ(やむ、静まる、なくなる、わかる、會得する、白狀する、逃げ延びる)おとす(にがす、話の結果をしゃれて附ける、寇の火を消す)おち(おとしばなしの結末、おちること)

② 萼

① は、綠色扁平にして植物の莖幹又は枝から支出するもの。葉の如く薄きもの。世又は時代。わかれ、すえ、末端。かみふだ。紙數を數へるにいふ語。春秋時代の楚國の邑

② 葆

① 雜草の一、むぐら

② 封

かぶら、かぶ、燕苔

著

チ ヨ チヤク  
ヂヤク

著

①あらはる、名高くなる、明かになる  
②あらはす、いぢるしくする、ひろく知らせる、表面に出して示す  
③書物をえらび作る、文書金石等に書きのせる  
④いぢるし、かくれがない、あきらかである  
⑤たくはふ(貯)  
⑥朝廷の席次につける、きる  
⑦つく、すみつく、接する、草木が花をもつ  
⑧圍棋で棋子を下し置く、物ごとくに失敗する  
⑨物にきまりがつく  
⑩語助として詩又俗語に用ゐる字  
⑪とゞく、至りつく  
⑫衣服を數へる語

葛

カッ  
葛 葛 葛

山野に自生する蔓草の一、くず

葡

ブ  
葡 葡 葡

①葡萄は蔓生果樹の一  
②歐洲の國名、葡萄牙の略

董

トウ  
董 董 董

葦

キ  
葦 葦 葦

①たゞす、監督する、特に法務又は佛寺内の大衆を監督すること  
②はかる  
③はすのね、蓮根  
④骨董は古道具

葩

ハ  
葩 葩 葩

①葩の大きなもの、あし、一説に葩と同物ともいふ  
②はな(華)

葍

サウ  
葍 葍 葍

①はうむる、轉じて見えなくなる  
②はうむり(葬儀)

葍

カ  
葍 葍 葍

①あし、よし  
②笛の一種、あしぶえ

葱

ソウ  
葱 葱 葱

①菜蔬の一、ねぎ  
②草木の青々と茂るさま  
③にぐるま、輜車

葍

キ  
葍 葍 葍

①葍は草木の花、又葉などの茂る貌  
②盛んに垂れさがる貌  
③葍の名、あまどころ  
④葍はのうぜんかづら

葵

キ  
葵 葵 葵

①花卉の一、あふひ  
②はかる(揆)  
③國訓あふひ(花卉の一、紋所の名)

葍

コン  
葍 葍 葍

①葍・葱等の如き味のかき菜、又香の臭い菜の總稱  
②肉食、なまぐさきもの  
③人種の名

葱

シ  
葱 葱

おそる(懼)

葍

シフ  
葍 葍 葍

①ふく、つくるふ、おほふ  
②重疊する、かさなる

一〇畫

葱

シウ  
葱 葱 葱

①かくす(隠)  
②あつむ(聚)  
③かり、春の田獵

葍

ジ  
葍 葍 葍

①葍は茴香の一種  
②らう(植)  
③國訓まく(たねを下す、播種する、粉末を散らす)

蒙

ボウ  
モウ  
蒙 蒙 蒙

①うける、かうむる、かうむらす、うけたまはる  
②をかす、進んでひきうける  
③いたゞく、かぶる  
④おほひかくす、つゝむ  
⑤あざむく(欺)  
⑥くらし(暗)  
⑦ことども

(小兒)無智(自己の謙稱)せらる(彼)らる(易の卦名)  
蒙古の略稱(まじりばね(雜羽))

蒭 ク 蒭 蒭 蒭 蒭

蒭蒭は宿根草の一、こんにやく、菟蒭

蒭 ハウ 蒭 蒭

午蒭は蔬菜の一

蒲 ホブ 蒲 蒲 蒲

水草の一、がま、かば、かま(かはやなぎ(楊))はらばふ(匍)

蒸 ショウ 蒸 蒸 蒸

たみぐさ、多くの人民(細い)しほの木(むす、ふかす、湯氣をあてゝ煮る)すゝむ(進)冬(祭禮の名)

蒭 ケン 蒭 蒭 蒭

蒭の別名

蒭 ジャク 蒭 蒭

蒭蒭と連用す、こんにやく

蒼 サウ 蒼

あを、草のあをき色、一般に青色の意、あをし(草木の茂れるさま)髪(白髪まじりの貌)あわてるさま(老いたる貌)

蒿 カウ 蒿 蒿 蒿

艾(の類)、よもぎ(精神のたかぶるさま)つかる(疲)憂へ視る

蓀 ソン 蓀

蓀の一、はなあやめ

蓀 シン 蓀 蓀

物事の多く集まるさま(葉の盛んに茂るさま)

蓀 ベイ 蓀 蓀

蓀はめでたきしるしの草、月の朔日より毎日一葉づつ葉を出し十六日目よりは一葉づつ落葉して晦日に至るより之を基礎として曆を作りしといふ

蓄 チク 蓄 蓄 蓄

たくはふ(畜)やしなふ(養)藏する、かこふ(たくは)冬(の野菜)

蓆 セキ 蓆 蓆 蓆

しきもの、むしろ(蓆)おほいなり(大)

蓉 ヨウ 蓉 蓉 蓉

芙蓉は灌木の一

蒭 ヲウ 蒭 蒭 蒭

花の莖に細かい葉のむらがり生ずるもの、たう(草木のさかんに茂るさま)

蓋 カイ 蓋 蓋

かぶせる、おほふ(かさ、傘の形したもの)ふた、口のおほひ(とま(苦)推量することば、又婉曲に言ふことば、又發語の詞)なんぞ何々せざると讀返す意を表はす(地名)

蓆 シ 蓆 蓆

草の一、めどぎ(筵竹、占に用ゐる五十本の竹の棒)



蓐 ジョク

蓐 蓐

しとね、敷物の總稱

蓑 サ

蓑 蓑 蓑

①雨具の一、みの②おぼふ(覆)

一一畫

蓆 テウ

蓆 蓆

土を運ぶ農具、あじか

蓬 ホウ

蓬 蓬 蓬

①艾の一種、よもぎ②物事の盛んなさま③風の吹く貌④生え亂れたる貌

蓮 レン

蓮 蓮 蓮

①水草の一、はちす、はす②はすのみ

蓴 ジュン

蓴 蓴

水草の一、ぬなは、じゆんさい(蓴菜)

蓂 レウ

蓂 蓂

①草の一、たて②草の長大なる貌

蓎 シュク

蓎 蓎

首蓎はうまごやし

蓏 ソク

蓏 蓏

①な、野菜類の總名②つや／＼しき貌③風の強く吹く貌

蓐 ベツ

蓐 蓐 蓐

①なし(無)あらず②ないがしろにす、あなどる、なみす③すつ(葉)④こまやか(微小)

蔓 マン

蔓 蔓 蔓

①草の他物に巻きつくもの、つる②かづら、つるくさ③つるを生ず、つるが出る④はびこる、のぶ⑤蓐昔はかぶら

蓐 フク

蓐 蓐

菜蓐はだいこん

蓐 タイ

蓐 蓐 蓐

①果實が枝又莖に結びつく所、へた②とげ、わづかのさしさはり③ねもと、もと

蓐 シヤ

蓐 蓐

①暖地産の禾本草、きたうきび、甘蔗②うまし、よし

蓐 キ

蓐 蓐

①草木の盛んなるさま②くさむら③をとこよもぎ④模様⑤細かにして美しきさま⑥地名(直隸省所在)⑦體に通ず

蓐 ソク

蓐 蓐 蓐

①まぶし(蓐)②あつまる、むらがる(蓐)③音楽の十二律の一(太蓐)④正月の異名

蓐 サイ

蓐 蓐 蓐

①かめ(卜筮用の大蓐)②周代の國名(今の河南省汝寧府)③はなつ(放)④ころす(殺)

蔣 シヤウ 蔣 蔣 蔣

①蕪の類、まこも ②國の名、山の名、水の名、又姓

蔦 テウ 蔦 蔦 蔦

寄生性の蔓草、つた

蔬 ショ 蔞 蔞 蔞

な、あをもの、食用になる草の稱

一二畫

蔭 イン 蔭 蔭 蔭

①かげ、こかげ ②おかげ、たすけ ③日かげ、日影 ④かばふ、おほふ

蔽 ヘイ 蔽 蔽 蔽

①おほふ、かくす、さゝへ ②庇ふ ③まとめる、たばねる ④おほひ ⑤さだむ(定) ⑥はらふ(拂)

蕃 ハン 蕃 蕃 蕃

①しげる(繁) ②おほし(多) ③しげし ④かき(藩) ⑤えびす

蕪 ジン 蕪 蕪 蕪

①、きのこ(菌)くさびら

蕉 セウ 蕉 蕉 蕉

①芭蕉は草の一種 ②たき(薪) ③あくと(芥) ④塞れたる貌

蕊 ズキ 蕊 蕊 蕊

①花の生殖機官、しべ ②つぼみ、花の開かぬもの、又花

蔞 俗字 蔞 蔞 蔞

猶 イウ 猶 猶 猶

臭気ある草、草に對して臭きもの、又は悪人に喩ふ

蕪 キョ 蕪 蕪 蕪

芙蓉はす(蓮)

蔞 ロ 蔞 蔞 蔞

①草の一、つるむらさき ②かんざう(甘草) ③國訓ふき(款冬)

蕪 ゼウ 蕪 蕪 蕪

①たきど、しば ②しばかり

蕪 ケイ 蕪 蕪 蕪

香草の一、蘭の一種

蕪 キ クワイ 蕪 蕪 蕪

①あじか(土などを運ぶかごの類) ②つちくれ(土塊)

蕪 スキ 蕪 蕪 蕪

①花又は葉等の垂れさがるさま ②垂れ下りたる花 ③草の名、あまどころ

蕪 ケツ 蕪 蕪 蕪

草の一、わらび

蕪 タウ 蕪 蕪 蕪

①廣大なるさま ②おだやか(穩) ③うごく(動) ④ゆるぐ、うごかす ⑤ほしいまゝ(恣) ⑥酒色にふける ⑦はらふ(掃) ⑧ばらばらになる、こはれてなくなる ⑨みだれる(亂)

蕪

蕪 菜 蕪

野菜の一、かぶ、かぶら、かぶな曰われる、雑草が生ひ茂る、荒地にしげる(繁)亂れる

蕭

蕭 管

よもぎ(蒿)曰馬のなく聲風の聲淋しく静かなるさま忙しく疲れるさまつゝしむ(蕭)

一三畫

菅

菅 葎

つばみ、花のつばみ

薄

薄 草

うすし、うすくす、すくなくなる、又それ等のもの、いやしむ、かるんず曰ちかづく、せまる、おしつめる、至りとよくまぶし(蕪)くさむらすだれ(蕪)つ(附)馬を走らせる聲しばらく、いさゝか薄荷は薬草の一ひろし(博)國訓すゝき(茅に似た草)

薇

薇 薔 薇

山野に自生する草、ぜんまい曰紫薇は喬木の一、さるすべり曰薔薇はばら

薔

薔

穀氣、米穀の氣曰からばし、にほひ穀物香料

薔

薔 薔 薔

はじめかみ、しやうが、生薬

薔

薔 薔 薔

たての一種、みづたて曰薔薇はいばら、ばら

薔

薔 薔

なぐ、草を刈り倒す曰のぞく(除)そる(薔)

薔

薔

海邊に生ずる草の一、はますげ曰支那古代の國名

薔

薔 薔

薔薔は蔓草の一、まさきのかづら

薔

薔 薔

薔に似た葎菜、らつきやう

薔

薔 薔 薔

すゝむ、猷ずる、捧げる、人をすゝめあげる曰くさ(雜草)進献する食品茂つた草曰しとね、こもしくしきりに(荐)身分ある人

薔

薔 薔 薔

みまかる、大名の死、日本にては皇族大臣などの死曰多く集まるさま早きさま

薔

薔 薔 薔

まさき、たき曰くさ、しば

薔

薔 薔 薔

菩薩は佛語にて悟り

薔

薔 薔 薔

薔薔は蔓草の一、やまいも曰甘藷はさつまいも、甘藷

薰 クン 蕪 薺 藜 藜 藜 藜 藜

① 香草の一、かをりぐさ②にほふ、かをる③のどか、風のふきわたるさま④他の良風に化せられる⑤たく(蕪)いぶす、くすべる⑥えびすの名

薺 セイ 薺 薺

菜の一、なづな

藜 カウ 藜 藜 藜 藜

わら、禾本科植物の莖

藜 シヤ セキ 藜 藜 藜 藜

① しく、しきもの口か(借)口實とする、かす②なくさむ③おだやか(藜)おたとへ、もし④ふみにじる、ふむ⑤亂れるさま⑥天子親ら耕し給ふ田⑦なほ(藜)

藍 ラン 藍 藍 藍 藍

① 草の一、あゐ②あざやかな青色③ぼろ(藍)④かんがみる(藍)

藍 シン ジン 藍

① すゝむ(進)②もえさし(燼)③草の一、かりやす

藏 サウ ザウ 藏 藏 藏 藏

① かくれる、姿をくらす②かくす、をさめる③くらはらわた(藏)④國名、西藏の略

貌 ベウ バク 貌

① 小きき貌②さげすむ、かるんず③遠く離れたるさま④美しき貌⑤人の教に注意せぬ貌

一五畫

藕 ゴウ グ 藕

はすのね、はちす、はす

藜 レイ 藜 藜 藜 藜

草の一、あかざ

藜 ゲイ 藜 藜 藜 藜

① わざ②うゑる、植付け③はて、きはまり④めあて、のり、準法

藤 トウ 藤 藤 藤 藤

① 蔓生落葉樹の一、ふち②四姓の一たる藤原の略稱

藜 ヤク 藜 藜 藜 藜

① くすり、くすりになる草木②どく、毒薬、他物に作用を及ぼす力あるもの③くすりを飲みて病氣をなほす

藩 ハン 藩 藩 藩 藩

① かき、まがき②おほひ(屏)③封建時代の諸侯大名④まもる(護)

藪 ソウ ス 藪 藪 藪 藪

① さは、大なるさは②くさむら、やぶ③物事の多く集まる所④國訓やぶ(たけやぶ、竹林)

一六畫

藪 藪 藪 藪

藪 アイ 藪 藪 藪 藪

① しげくして多し、さかななり②おだやかなる貌

蘭 リン 蘗 蘗 蘗 蘗

光の一種、わ、わぐさ

藻 サウ 蘗 蘗 蘗 蘗

①も、水草の總稱②藻の繪模様を畫く③もやう、あや  
④詩歌文章等のあやある詞

蘗 蘗 蘗 蘗 蘗

蘗に 同

蘗 蘗 蘗 蘗

蘗の 誤字

蘗 カウ 蘗 蘗 蘗

杜蘗は香草の一、かんあふひ

蘗 蘗 蘗 蘗

①よし、あし(葉のまだ穂を出さぬもの)②蘗苔は藥草  
の一③蘗蕪はだいこん(蘗蕪)

蘗 ス 蘗 蘗 蘗

①よみがへる、いきを吹きかへす、回復する②とる、  
かる(刈)③いこふ④おそれるさま⑤紫蘗は草の一⑥ふ  
さ⑦人の姓

蘗 ウン 蘗 蘗 蘗

①つむ(蓄積)②も(海藻)③おくそこ(極奥)④おだやか  
(溫和)

一七一九畫

蘗 ゲツ 蘗 蘗

①ひこばえ②きりかぶ

蘗 蘗 蘗 蘗

一説に蘗の俗字

蘗 セン 蘗 蘗 蘗

蘗の一種、こけ

蘗 キョ 蘗 蘗 蘗

①形あるさま、自得のさま②驚くさま③蘗蘗は、たご  
や、旅舎

蘗 ハン 蘗 蘗 蘗

①蒿の一種、しろよもぎ②蘗蘗は雑目の一、はこべ

蘭 ラン 蘗 蘗 蘗

①香草の一、らん②木蘭は喬木の一、あらよぎ③歐羅  
巴の國名、和蘭の略

蘗 ラ 蘗 蘗 蘗

①かづら、つた②蘗蘗はだいこん、すゞしろ

虎部

二一四畫

虎 コ 角 角 角

①猛獸の一、とら②とらの如くわる強く荒きこと

虎 ギヤク 虎 虞 處

①しへだく、そこなふ②あらひ、むごい③わざはひ(災禍)

虞 ケン 虞 虞

①ころす(殺)②つゝしむ(敬)

五—六畫

處 リョ 處 虞 虞

①すむ、をる、其境遇にある、その位置を占める②安んずる、おちつく③おく、其地位におく、その場所にするまはせる④とりはからふ、とりきめる⑤あてる(當)⑥ところ、場所⑦國訓ところ(何々したれども、いへども、然るに等の意)

虚 キョ 虚 虚 虚

①からである、むなし②むなしくす、からにする③天空、そら④すきま、準備のないこと⑤そらごと、うそ⑥よわし(弱)⑦しろあと(墟)

虜 リョ 虜 虜 虜

①いけどり、とりこ、とりこにす、いけどる②めしつかひ、やつこ③あびす

七—二畫

虞 ゲ 虞 虞 虞

①前以て用意する、はかる②そなへ③たのしむ(樂)④山澤をつかさどる官⑤しんばい、おそれ⑥父母の葬式を終へし當日に行ふ祭⑦朝の名(舜が堯の禪を受けて建てたもの)⑧國名(今の山西省平陸縣)

號 カウ 號 號 號

①さけぶ(叫)②なく(泣)③なまへ、となへ④本名・字・通稱等の外に附ける雅名⑤なづく、となへる⑥言ひふらす、宣傳す、又公言する⑦さしづ、いひつけ、命令するし(記號)⑧商店の名稱⑨船舶の名の下に添へる語⑩數詞の下に添へて等級をあらはす語

虧 キ 虧 虧 虧

①かく(缺)損す、へる、かける②かけ、缺損

虫部

虫 キ 虫 虫

俗に蟲の略字③魚介類の總名④まむし(虺の古字)

蚪 キウ 蚪 蚪 蚪

みづち(龍の子にて角あるもの)

虱 シツ 虱 虱 虱

しらみ

三畫

虹 コウ 虹 虹 虹

①にじ(太陽の光線が空中の水蒸氣に分解せられて生ずる色彩ある橋狀の現象、又空中の水蒸氣に映じて生ずる白氣)②はし(橋)③みだす(虹)

虺 キ  
クワイ

虺 虺

①まむし(腹蛇)②小さきへび③雷の轟く音④疲れる貌

虺 バウ

⑤蛇の一種、あぶ草の一種、あみがさゆり

四 畫

蚊 ブン

蚊 蚊 蚊

か(子子の羽化したもの)

蚌 ハウ  
ボウ

蚌 蚌

①蛤の一種、はまぐり②からすがひ、どぶがひ

蚶 イン

蚶 蚶 蚶

蟲の一、みまず(蛭)

蚤 サウ  
ソウ

蚤 蚤 蚤

①害蟲の一、のみ②はやし(早)つとに③つめ(爪)

蚪 トウ  
ツ

蚪 蚪

蚪蚪は蛙の子、おたまじやくし

五 畫

蛭 キウ

蛭 蛭 蛭

蛭蛭は蟲の名、みまず

蛞 コ

蛞 蛞 蛞

①蛞蝓は蟲の一、けら(螻)②蛞蝓はなつぜみ

蛇 ジヤ  
タ  
ダ  
イ

蛇 蛇 蛇

①くちなは、へび②委蛇は泥鰌の異名③ゆつくりと落つく貌④蛇のうねりゆく貌

蛉 レイ

蛉 蛉 蛉

①蜻蛉はとんぼ②螟蛉はあをむし

蛋 タン

蛋 蛋 蛋

①南蠻人のたまご、鳥の卵

六 畫

蛔 クワイ

蛔 蛔 蛔

寄生蟲の一、はらのむし、蛔蟲

蛙 ア  
リ

蛙 蛙 蛙

①兩棲動物の一、かへる、かはづ②みだり(淫)

蛛 チユ

蛛 蛛

蜘蛛はくも、蟲の一

蛟 カウ

蛟 蛟 蛟

龍の類、みづち

蛤 カフ

蛤 蛤 蛤

海産貝の一、はまぐり

蛞 クワツ

蛞 蛞

蛞蛞は軟體動物の一、なめくぢ

蛭

キヨウ

蛭 蛭 蛭

①こほろぎ(蚕)②いなご(蝗)③歌の名④うれへ思ふ貌

蚕

キヨウ

蚕 蚕

きりくす、こほろぎ(蚕)

蛭

シツ  
チツ

蛭 蛭

池溝田沼等に生ずる水蟲の一、ひる

七 畫

蛭

サウ  
セウ

蛭 蛭

①蠟蛭はあしたかぐも②蠟蛭は烏賊の一種③國訓たこ(海産の軟體動物の一、土工具の一)

蛹

ヨウ

蛹 蛹 蛹

蠶の一變體、さなき

蛻

ゼイ

蛻 蛻

①もぬけ、ぬけがら②蟲類が外皮を脱ぐこと

蛾

ギガ

蛾 蛾

①蠶のてふ②毛蟲の蛹の羽化したもの、ひとりむしの類③蛾の觸鬚に似たる美しい眉毛④にはかに(俄)⑤あり(蟻)

蜀

シヨク

蜀 蜀 蜀

①いもむし②國名(今の四川省地方)

蜂

ホウ

蜂 蜂 蜂

昆蟲の一、はち

蜃

シン

蜃 蜃 蜃

①はまぐり、蛤の大きなもの②蚊の一種

蜈

ゴ

蜈 蜈

蜈蚣は毒蟲の一、むかて

蜉

フ

蜉 蜉 蜉

①蜉蝣はおほあり(蜉)②蜉蝣はかげろふ、時間の短いこと又は人生のはかないことに喩へる

蛸

リ

蛸 蛸

①蛤蛸は、まぐりの一種、しほふき②國訓あさり(淺蛸)

蛛

シヨ

蛛 蛛

①蜘蛛はひきがへる②月の異名

蟻

タン

蟻 蟻

①南方野蠻人の一②國訓あま、海人

八 畫

蜘蛛

チ

蜘蛛 蜘蛛

蟻

ヒ

蟻 蟻

蜜

ビツ  
ミツ

蜜 蜜

蜜

ミツ

蜜 蜜

①稻の害虫②蜜蠅は害虫の一、あぶらわし③とぶ(飛)



みつ、はちみつ、さたらみつ

蝟 サ ショ

十二月に萬神をまつる祭

蝟 セキ

蝟はやもりに似た蟲、とかげ

蝟 テウ

せみ(蟬の總名)ひぐらし(茅蝟)つくく(ぼうし(寒蝟)おほぜみ(馬蝟)

蝟 エキ

蝟はとかげ

蝟 セイ

蝟の一、とんぼう、とんぼ、あきつ

蝟 クワ

蝟は蜂の一種、すがる、じかばち

蝟 エン

蝟などのうねり行く貌 蝟は蝟の異名 山勢などの屈して長くつくさま 山路などのよぢくとなるさま

蝟 トウ

蝟はにじ(虹)

蝟 テイ

にじ(蝟)蝟に比して男女の淫奔又は淫悪の意

九 畫

蝟 クワ

蝟の幼蟲、おたまじやくし(蝟) 支那古代の文字の書體

蝟 シヨク

蝟・月食(日が月に遮られ又は月が地球の影をうけて光を失ふこと、又その現象) 蝟むしばむ、むしくひくひこむ、使す

蝟 クワウ

蝟の一、いなご

蝟 ヘン

小獸の一、かうもり、かはほり(蝟)

蝟 フク

蝟かうもり、かはほり(蝟) 蝟まむし(蝟)

蝟 キ

鼠に似た小獸、はりねずみ

蝟 イウ

蝟の一、かげらふ(蝟)

蝟 カ

蝟(蝟)海老 蝟(蝟)がま 蝟(蝟)の大なるもの、總稱 我國で關東から奥羽・北海道地方までに居住した蠻民、えみし、えぞ(蝟夷)

蝮 フク

蝮 蝮 蝮 蝮 蝮 蝮

毒蛇の一、まむし(普通の蛇より體が太く短く背に圓形の斑文あるもの)

蝮 コ

蝮 蝮 蝮 蝮

てふ(蝮蝮)

蝮 テフ

蝮 蝮 蝮 蝮

こてふ、てふく、毛蟲類の羽化したるもの

蝮 クワ

蝮 蝮 蝮 蝮

軟體動物の一、かたつむり、かたつぶり(蝮牛)

一〇畫

蝮 ニウ

蝮 蝮 蝮 蝮

とく、とかす、とける、固體が液状になること(和)とほる、とほり(和)やはらぐ(和)甚だ明かなるさま

蝮 シン

蝮 蝮 蝮 蝮

蟬の一種、なつぜみ、又美人のひたひの形容

蝮 ベイ ミヤウ

蝮 蝮 蝮 蝮

① 稻の莖を食ふ害蟲、くきむし、ずむむし(あをむし)(螟蛉)

蝮 ケイ

蝮 蝮 蝮 蝮

初夏の頃水邊に生ずる飛蟲、ほたる

一一畫

蝮 チ

蝮 蝮 蝮 蝮

① 角のなき龍、みづち、一説に黄色の龍、又龍の雌(龍の形したる山神(龍))

蝮 タウ

蝮 蝮 蝮 蝮

蟲の一、かまきり(蝮螂)いぼむしり

蝮 ラ

蝮 蝮 蝮 蝮

① 介殼類の一、にし(和)特に法螺貝のこと

蝮 ロウ

蝮 蝮 蝮 蝮

いなごに似た蟲、けら(蝮蝮)

虫部 蝮・蝮・蝮・蝮・蝮・蝮・蝮・蝮

蝮 シニウ

蝮 蝮 蝮 蝮

蝮類の總稱、いなご

蝮 シユツ

蝮 蝮 蝮 蝮

蟲の一種、きりくす、こほろぎ

蝮 チフ

蝮 蝮 蝮 蝮

① かくる(蟲類が土中等に隠れる)轉じて人がとちこもる(和)和ぎ集まる貌

蝮 マ

蝮 蝮 蝮 蝮

がま、ひきがへる

蝮 シツ

蝮 蝮 蝮 蝮

こほろぎ(蝮蝮)きりくす

一二畫

蟬

パウ  
マウ

蟬 蟬

蛇の大なるもの、うはばみ、おろち

蟻

ケウ

蟻

人名(舜の祖父) 天蟻は頻りに伸びるさま、龍のわだかまるさま

蟻

ハン  
バン

蟻

蟻

わだかまる、かぢみ伏す

蟻

ケイ

蟻

蟻の一種、なつぜみ

蟬

セン  
ゼン

蟬 蟬

蟬の羽化したる昆蟲の總稱、せみ

虫

チュウ

虫 虫

むし、人・禽獸・魚介を除いた他の動物の總稱 かつきさま、蒸暑し 國訓むし(愛らしい聲で鳴く蟲、物を損ふむし、病氣のもととなる蟲、心を支配するもの、出産時の腹痛) 虫は別字

一三一—一四畫

蟹

カイ

蟹

蟹

水中又は水陸兩棲方にむ一種の蟲、かに、無腸公子

蟻

ギ

蟻 蟻

昆蟲の一、あり

蟻

セン

蟻

蛙の一種、ひきがへる(蟾蜍) 月の異名

蟻

ヨウ

蟻

蟻

蟻

蛆の羽化した小さき飛蟲、はへ

蟻

タイ

蟻

さそり 蟻蛉の幼蟲、たいこむし(水蓼)

蟻

ワク  
クワク

蟻

蟻

蟻

蟻に似た蟲、しやくとりむし 暗く亂れるさま 退きかくれる貌

一五畫

蟻

ラフ  
ロフ

蟻

蟻

蜜蜂の巢・黄蘗の實・重油等より採る硬性の脂肪にして蠟燭の原料又塗料等に用ゐる ちらふの如き性状あるもの、總稱 ちらふをひく、ちらふを塗る ちらふそく

蟻

レイ

蟻

蟻

木をかむ蟲 蟲がくふ、むしばむ ひさご(蠟) 皮膚病の名、ひぜんがさ

蟻

シユン

蟻

蟻

うごめく、蟲のうごくさま ちらるか(無智)

蟻

レイ

蟻

蟻

貝の一種、かき

一六一一七畫

蠹

ト

蠹 蠹 蠹 蠹

①木のしんを食ふ蟲、きくひむし②衣服や書物を食ふ蟲、しみ、きらゝむし③むしばむ、蟲が食ふ、又そのこと④物事を害する者をいふ

蠹

コ

蠹 蠹 蠹 蠹

①腹の蟲、又穀の中の蟲、轉じて物事をそこなふもの②こと(事)ことがら③まどはす(惑)④まじない(禁呪)みこ(易)の卦の名

蠹

ケン

蠹 蠹 蠹 蠹

①あきらか、あきらかにす(明)②いさぎよし(潔)

一八一一九畫

蠹

サン

蠹 蠹 蠹 蠹

①蟲の一、かひこ②かひこを飼ふ、又其わざ

蠹

バン

蠹 蠹 蠹 蠹

①えびす、南方のえびす②文化の開けぬこと、暴勇を好み道理にくらきこと③古く外國の意味にも用ゐる④鳥の鳴く聲

血部

血

ケツ

血 血 血 血

①(体内の脈管に流動循環する赤色液体)ちしほ②ちをつける、ちぬる③血を分けし間柄④強く盛んにして生氣あること

三一五畫

血

デク

血 血 血 血

①はなぢ、鼻の穴より出る血②やぶる、軍に負ける、挫ける

衆

シユウ

衆 衆 衆 衆

①おほし(多)多いこと②もろく、多くの人、衆人の心 衆人の心

蟻

ベツ

蟻 蟻 蟻 蟻

①けがす、よごす、はづかしめる②きたなき血③はなぢ(血)

血部 蠹・衆・蟻 行部 行

行部

行

カウ

ギヤウ

行 行 行 行

①ゆく、歩む、あるく、進む、至る、去る②めぐ(巡)へる(經)③やる、ゆかす、ゆく、みちすがら、めあて④たび、かどで⑤みち(道)⑥漢詩の一體⑦書體の一、ぎやう⑧おこなふ、おこなひ、ふるまひ、なされる、おこなはる⑨もてる、利く、うける⑩まさに⑪身口意の三業に因つてなす一切の所業、僧侶又は修験者の修めるぎやう⑫つら、ならび(列)⑬古代の兵制にて二十五人一組の稱⑭くだり、文字のならび、又涙にいふ⑮年齢の順序⑯つよきさま(剛健)⑰位と職との間に置きて位が高く職が卑きことをあらはす語

三一五畫

行

エン

街 街 街 街

① 充ちひろがる、はびこる ② よけいである、まちがつて多い ③ ひろげる ④ 肥えたる土地

街

ケン

街 街 街

① ひけらかす、てらふ ② 自ら自分をとりもつ、自ら宣傳す

術

シユツ

術 術 術 術

① わざ、手わざ、學問 ② てだて、すべ、方法 ③ はかりごと、權略 ④ 神仙の法、まじなひ、魔法 ⑤ みち(道路) ⑥ のぶ(述) ⑦ 支那周代の自治團體にて二千五百戸一組の稱

六一九畫

街

カイ

街 街 街 街

① ちまた、まち、まちの大通り ② 臺灣の行政區劃

街

ガ

街 街 街 街

① やくば、やくしよ ② 天子の護衛兵 ③ きたる、まゐる (參)

街

ショウ

街 街 街 街

① おほち、大なるみちすぢ、又其所 ② つきあたり ③ つく(突)ぶつかる、つきやぶる、つき上げる ④ いくさぐるま、兵車 ⑤ 兵船、敵艦に突撃するやうに作つたいくさぶね

一〇一八畫

衡

カウ

衡 衡 衡 衡

① はかりさを、はかり(重さを計る器) ② はかる(物の輕重をめかたにかける) ③ たひらか、ひとしい(均) ④ 馬車の馬をつける横木 ⑤ 渾天儀の横木、天文を見る器械 ⑥ てすり(欄干) ⑦ 冠を頭にとめる鉾の類 ⑧ 山林を掌る役人 ⑨ よこ(横)

衛

エイ

衛 衛 衛 衛

① まもる(守)ふせぐ、まもり、又その者 ② 國のはて、國境 ③ 明の太祖時代の兵制にて五千六百人一組の稱 ④ 周代の國名(今の直隸省大名府開州以西から河南省の衛輝府懷慶附近に至るまでの地域)

衢

ク

衢 衢

ちまた、四辻の道

衣部

衣

エイ

衣 衣 衣 衣

① ころも、きぬ、きもの、腰より上をおほふきもの ② 著物の如く物の表面をおほふ皮 ③ 僧侶のきる法服、ころも、袈裟 ④ きる、きものを被る ⑤ きす、きものをきせる ⑥ 服膺する、行ふ

三畫

表

ヘウ

表 表 表 表

① おもて、うはべ、そと、うはつら ② しるし、目標のうはぎ、うはぎを著る ③ あらはす ④ 目だつ ⑤ 時間、計るため目を盛りたる棒 ⑥ 議論・祝辭・辭職などの意味

を記して君主又は政府に上る書<sup>①</sup>母方又は妻の方の親類<sup>②</sup>混雑せる事物を分類排列し一目してよく分かるやうにしたもの<sup>③</sup>國訓おもて(おほやけ、外面に取りつけるもの、家の外、相撲の本手、家の勝手の間に対して主たる室、ところ、もと)

衫 サン 衫 衫 衫 衫

①帷子類の通稱、單衣<sup>②</sup>小さきそでなしじゆばん

四畫

袷 スキ シ サイ サ 袷 袷 袷 袷

①盛の對、おとろふ、かたむく(傾)勢力がなくなる<sup>②</sup>そぐ、へらす<sup>③</sup>喪服の名<sup>④</sup>みの

袖 ダフ ナフ 袖

①ころも(法衣)②僧侶の自稱

衾 チュウ 衾 衾 衾 衾

①まごころ、本性<sup>②</sup>中心、こころ(うち)まんなか、うちにす<sup>③</sup>まこと(誠)<sup>④</sup>かなふ、適當する

衿 ジン 衿 衿 衿 衿

①おくび、おくみ<sup>②</sup>すそ(裾)<sup>③</sup>ひとへのしとぬ<sup>④</sup>下にしく、しとねにす<sup>⑤</sup>ホえりを正す

衾 キン 衾 衾 衾 衾

よぎ、ふすま

衿 キン 衿 衿 衿 衿

えり(襟)衣服の上部の首筋にあたる所

衾 エン 衾 衾 衾 衾

姓(漢末の英雄)

袂 ベイ 袂 袂 袂 袂

①たもと、袖の下の垂れたる部分、又袖の意<sup>②</sup>國訓たもと、みぎり、きは

五畫

袷 ケ カ 袷 袷 袷 袷

袷は僧服の名

袋 タイ テイ 袋 袋 袋 袋

①ふくろ(囊の類)<sup>②</sup>國訓ふくろ(一方に口ありて奥が行きつまるもの)

袍 ハウ 袍 袍 袍 袍

衣部 袂・袷・袋・袍・祖・袖・衿・衾

袒 タン 袒 袒 袒 袒

①長きしだぎ、ながじゆばん<sup>②</sup>うはぎ<sup>③</sup>わたいれ<sup>④</sup>古昔束帶用の上著

はだぬぐ(褌)禮の一にて左肩をぬぐこと、意思を表す爲に片肌をぬぐこと

袖 シウ 袖 袖 袖 袖

①そで、衣の兩そで<sup>②</sup>そでにす、袖の中にかくす、袂に入れる

衿 シン 衿

①ひとへ、單衣<sup>②</sup>ぬひとりせし著物

衾 コン 衾 衾

①天子の御衣にして龍の形をぬひとりしたもの<sup>②</sup>懇切に説く<sup>③</sup>引續くさま

袂 チツ 袷 袷

①かたなぶくろ(剣衣)②ふみぶくろ(軼)③袷に同じ、ふち、俵給④秩序、ついで

袷 ハン 袷 袷 袷

①ひきしめる②夏の短き著物③短き下著、じゆばん

袷 ボウ 袷

ひろき、ながさ

袷 キヨ 袷 袷 袷

①たもと(袂)そで(袖)②そでぐち(袖口)③そでを擧げる貌

袷 ヒ 袷 袷 袷

①ねまき(寝衣)②よぎ、ふすま③婦人の髪飾④かうむる、かぶる、まとふ、著る、負ふ、傷をうける⑤あふ(漕)うける(受)しきおよぶ、ふりみだす⑥かうむらす、かぶせる⑦おほふ(覆)⑧受身の助字、る、らる、せらる

六 畫

袷 フク 袷 袷 袷

ふくき、ふるしき、物をつゝむ巾

袴 コ 袴 袴 袴

はかま、づぼん、もゝひき

袷 カフ 袷 袷 袷

①衣服の一、あはせ②えり(衣領)

袷 ケツ 袷 袷 袷

つまどる、つまをもつ

袷 ケイ 袷 袷 袷

①うちかけ、しかけ、婦人のうはぎ、袷襦②國訓うちき(古の婦人の禮服にて裝束の下に著たもの)

袷 イン 袷 袷 袷

①褥の上に敷くもの、しとね(茵)②みごろ(衣身)

裁 サイ 裁 裁 裁

①たつ、切斷する、きり放す②節減する、適宜にへらす③はかる、見積る④さばき、さばく、きりもりする⑤わづかに(織)

裂 レツ 裂 裂 裂

袷 國字 袷

①さく、ばら／＼にする、破れちぎれる、さきはなす、わかる②きものよきれ、たちあまり

七 畫

袷 デウ 袷 袷

しなやか、たをやか(弱)

裏 裏 裏 裏

①うら、内側、表の反対のかは②なか、うち

袷 裏の 俗字 袷 袷 袷

哀 ホウ 哀 集

①おほし(多)②あつまる(聚)あつむ③へらす(減)へる

齋 エイ 齋 齋 齋

①もすそ、すそ②すそ、子孫③はて、邊境④除行のさま 飛び流れる貌

裕 ユウ 裕 祐 祐

①ゆたか、ありあまる②ゆるやか(寛)ゆつくりせる貌

表 キウ 表 表 表

けごろも、かはごろも

裱 クン 裱 裱 裱

①もすそ、下裳②はだき、したぎ

補 フホ 補 補 補

①おぎなふ、つくろふ、缺けたる所を足す②たゞしなくふ(匡救)③おぎなひ、うめあはせ、たすけ④官職を授けること

装 シヤウ 装 装 装

①よそほふ、けしやうをする、旅支度をする、しかけをする、又よそほひ、衣服②旅行に必要な物③かくす(藏)

裳 サ 裳 裳 裳

袷装は法衣

八 畫

裱 ヒ 裱 裱 裱

①たすく(輔)おぎなふ、つくろふ②たすけ、輔佐、その人、又利益③ちひさし(小)

裱 チウ 裱 裱

①ねまき、ひとへのふすま②汗とりの襦袢

綴 タツ 綴 綴 綴

①つとる(綴)つくろひ縫ふ②直綴は僧衣の一

裱 ヘウ 裱 裱

①ひれ(領巾)②へうぐ、表装

裱 リヤウ 裱 裱

①補襦は衣服の一、そでなし②國調うちかけ、かいどり(近古の婦女の禮服の一)

衣部 裱・裱・綴・裱・裱・表・裱・裱・裱

裳 シヤウ 裳 裳 裳

①もすそ、も、下袴②うつくしきさま、さかんなるさま

裴 ハイ 裴 裴 裴

①人の姓(唐代の名臣)②古く俳に通ず

裸 ラ 裸 裸 裸

はだか、はだかになる、はだかにする

裏 クワ 裏 裏 裏

①包む②つみみ、又包みたるもの

裱 セキ 裱 裱

テイ

①はだぬぐ、かたをぬぐ②禮服に用ゐる一種の上衣③むつき(襦袢)



製 セイ 製 製

①衣服をしたてる口つくる(造)こしらへる②詩文をつくる、特に天子の御作になる詩文③かはごろも④こしらへ、つくり⑤雨衣、雨具⑥かた、形式⑦すがた、容姿

裾 キヨ 裾 裾 裾

①すそ、もすそ②おごる(裾)③國訓すそ(山のふもと)

袴 國字 袴 袴

衣服のおくみの腰より下のへり、つま

九 畫

複 フク 複 複

①かさなる(重)かさぬ②一つでない、単一でない③か

さね、二重にする

褌 ヘン 褌 褌 褌

せまし(狭)ちひさし(小)

褌 コン 褌 褌 褌

ふんどし、したおび

褌 シウ 褌 褌 褌

①そで(袖)そもと②立派に衣服を著たる貌③笑ふさま④稻の盛んなるさま

褌 カツ 褌 褌 褌

①賤者の服、あらし毛の著物②賤しい人③かち(黄黒にて艶なき色)

褌 ハウ ホウ 褌 褌 褌

むつき、小兒のかいまき、小兒の寝る時のしきもの

褌 キ キ 褌

①祭祀の時の皇后の衣服②婦人の持つ香囊③うつくし(美)④ひざかけ

褌 チョ 褌 褌

①わた(綿)又綿入の着物②たくはふ

一〇 畫

褌 ウン オン 褌 褌

①ころも(衣)②うはぎ(鞋)③そまつなるきもの(裾衣)

褌 ジョク 褌 褌

しとね、しきもの、ふとん

褌 ケイ 褌

ひとへもの(單衣)

褌 トン タイ 褌 褌

①ぬぐ、おろす、衣服をぬぐ②さむ、あす、色がさめる③進まんとして御つて後にさがる

褌 チ 褌 褌

①うばふ(奪)はぐ②氣をおとす③ぬぐ(脱)とく(解)

褌 ケン 褌

①かゝぐ、衣服をまくりあげる②はかま(袴)

一一畫

禮 ロル 褌 褌 褌 褌

つゞれ、ぼろ、敵衣

褌 セツ 褌 褌 褌

①ふだんぎ、平服②したぎ、はだぎ③なる、心やすくなる④押れ侮る⑤きたない、けがらはし、けがる、又けがす(褌)

褌 キヤウ 褌 褌 褌

①むつき(褌)むつきにて小兒を負ふ②國訓おしめ、おむつ(小兒の糞尿をしまつする布巾)

褌 ハウ 褌 褌 褌

①ほむ、ほめた、へる②ほめ、はらび③大なるすその衣服④あつまる、あつむ

褌 シヤウ 褌 褌 褌

①あがる(上)のぼる②しとげる、なす③はらふ(褌)④星がうつる⑤のりもの(駕)⑥たすく(贊)

褌 雑に 褌 褌 褌

褌 同じ 褌 褌 褌

褌 アウ 褌 褌 褌

①うはぎ(袍)②國訓ふすま(からかみ、ふすましやうじ)あを(昔の衣服、袍の一種、裏のある狩衣)

褌 キン 褌 褌 褌

一四一一五畫

褌 タウ 褌 褌 褌

①褌褌はうちかけ②したおび、ふんどし③國訓まち(衣服の布の足らぬ所に別の布を添へるもの、袴の内股の部分)

褌 ラン 褌 褌 褌

①つゞれ、ぼろ②へりをとらぬ衣服

褌 ジュ 褌 褌 褌

はだぎ、じゆばん

一六一一七畫

褌 シン 褌 褌 褌

①はだぎ②したしむ、ちかづく③ほどこす(施)

褌 シフ 褌 褌 褌

①おそふ、不意うち、他人の文章等を取りて自分のものとす②服す、依る③よる(因)したがふ④つぐ、うけつぐ⑤かさなる、かさぬ、同様の事を二度行ふ、重疊する⑥あふ(合)⑦衣服の一そろひ、かさね⑧むらがり集まる⑨國訓かさね(袍の下着)

褌 ラン 褌 褌 褌

①衣と裳とを聯ねた単衣②國訓らん(織物の一種、錦の類、錦褌)

褌 國字 褌 褌 褌

たすき、二筋の紐を斜に交叉して袖をからげるもの

西部

西

サイ  
セイ

あ

あ

あ

①四方の一、にし、にしの方、西にむかふ、にしす、西の方に行く②西洋の略

三一六畫

要

エウ

あ

あ

①もとむ②おびやかす(脅)③さへざる(遮)④ちぎる(契)ちぎり⑤正し明かにす⑥まとめる、あつめる⑦しおび⑧こし(腰)⑨王城を去ること五百里の土地⑩かなめ、主たること、かんじん、物事のしめく、り、扇の

覃

タン  
エン

覃 覃 覃 覃

①およぶ(及)ひく②ふかし(深)③のぶ(延)④するどい、とし(利)

二二一九畫

西復

フク  
フウ

復 復 復

①くつがへす、ひつくりかへす、戦に負かす、くつがへる、まける②かへつて、あべこべに③くりかへす(復)④もどる、かへる⑤まうす(白)⑥かぶせる、おぼふ⑦普く届く、ゆきわたる⑧おほはる、おほはれる⑨伏兵、

西朝

ハ

朝

はたかしら、大名のかしら

西教

カク

教 教 教

①しらべる、考へる、あきらかにす②きびしい(嚴)

西鞫

鞫の  
本字

鞫 鞫

鞫に作る

西鞫

前に  
同じ

鞫

見部

見

ケン  
ゲン

見 見 見

①みる、目にとめる、つきとめる、みつめる、顔をあはせる、対面②一目みる、あふ③かんがへる、おもふ④みえる、眼に入る⑤あらる、せらる⑥みること、みる所、みえ⑦現に同じ、あらはる、ばれる、あらはにな

規

キ

規 規 規

る、きざす①あらはす、しめす(示)②紹介す、ひきあはせる③まみゆ、お目にかゝる④げんに、まのあたり

四畫

覓

ベキ

覓 覓

もとむ(求)探したづねる

視

シ

視 視 視

五畫

①みる、注意して見る。②あしらふ、とりしまる。③なぞらへる、くらべる(比)見比べる。④目をくれる、又手本とする(示)しめす(示)

視 シ 視

(視)うかゞふ(伺)

覘 テン

のぞく、うかゞふ、ひそかに視る

覘 覘 覘 覘

六一九畫

覘 テウ

覘

①周代に諸侯が三年目ごとに會して天子に謁見せし儀式。②天子にめみえすること、謁見(な)がむ(謁)

覘 ユ

覘 覘

うかゞふ、ねらふ

覘 ト 覘

みる、みとめる

覘 シン

覘 覘 覘

①おや(父母)②みうち、しんるゐ(した)したしむ、いつくしむ、むつまじくす③むつまじ、したし、したしみ、又なじみ④ちかづく⑤みづから、まのあたり、われと⑥國訓おや(子を生ずる本、秀で、大なるもの)

一〇一三畫

覘 コウ

覘 覘

、思ひがけなくあひみる

覘 キ

覘 覘 覘

のぞむ、こひねがふ、低きに居て高きをのぞみ願ふ

覘 キン

覘 覘 覘

みる、まみゆ、謁見

覺 カク

覺 覺 覺

①さとり、察し知る、かんづく、さとす、又さとり口さとりたる人②あらはる(發)あきらかにす③大なるさま、又まつすぐなる貌④さめる、おきる、さます⑤おぼゆ(感ずる、記憶する、思はれる、想像される)おぼえ(おぼゆの名詞、名望、龍遇、おぼえがきの略)

一五一八畫

覽 ラン

覽 覽 覽

①みる(觀)廣く見とはす②かんがへる、考へ察す

覘 テキ

覘 覘

みる、まみえる、面會する、又物を贈りて面謁す

覘 クワン

覘 覘 覘

①みる、念を入れて見る、見物する、遠くみわたす②かんがへる③みもの、すがた、ありさま④人にみせる、しめす⑤見解、みかた⑥城門のやぐら、ものみ⑦道士の居る所⑧鳥の名、こふのとりに⑨易の卦の名

角部

角 カク

角 角 角

①つの、又角の形したもので、又角を工作の材料とする場合にいふ②すみ、かど、物の尖れるさま③ひたひの骨④小兒の髪の方、あげまき⑤くらべる(比)きそふ(觥)⑥つのあり、つのとる(獸の角をひつかけて生捕る)⑦五音の一(宮商徵羽に配するもの)⑧支那量にて四升を容れる容器⑨軍中の樂器⑩幾何學にて一點に交はる兩線にて形づくられたる間隙⑪星の名、すばるほし⑫元銀の十分の一(我が拾錢にあたる)⑬人名(商山四棊の一人)⑭かく、しかく、こごちの方形なる材木、將皓の駒の一目道の折れ曲る所、人と和合し難き性癖

五 畫

觥

ケツ

觥

①あきたらぬ、不満足に思ふ②あばく(扶)かゝげる、摘發

觥

コ

觥

觥

①さかづき(二升を容れるものを觥といひ、一升を容れるものを爵といふ)②古代文字を記したる四角の木札③かど(方)

觥

テイ

觥

ふる(紙)觸紙す

六 九 畫

觥

カイ

觥

①とく、ほどく、ばらばらにす、ぬぐ、ぶわけにする、きりはなす②無事にさめる、なほす、わかるやうにする③申しひらく、いひわけをする④さとる、えとくする⑤ゆるめる、自由にする、又ゆるまる⑥やめる、免す⑦文章の一體、又樂曲の一節⑧易の卦の名⑨おこたる(觥)⑩あふ(避)⑪やくしよ(解)⑫地方人にして學問德行のすぐれたる者を都に送り出して試験を受けさせること、轉じて總て送り出す意

觥

クツウ

觥

①さかづき(兕牛の角にて造り七升を容れる大杯)②強くしてたゞし、剛直

觥

ヒツ

觥

①鑿篋は笛に似たる一種の樂器②風の寒き貌③泉のわき出る貌

二 一 一 三 畫

觥

シヤウ

觥

①さかづき(酒杯の總名)②盃をさす、酒をすゝめる

觥

シヨク

觥

①ふる、さばる、つきあたる、をかす②心にうつる、感ず③いたる、すがる④けがれ(汚濁)⑤國訓ふる(さはる、遭遇する、令を發して廣く告げる、ひろく言ひふらす、布達する)⑥ふれ(公からの布達、布令)

言部

言

ゲン

言

①ものいふ、いふ、口をきく、ことばで思を發表す②まをす、申し上げる③こと、ことば、いふところ④詩文などの一句の稱⑤一字の稱⑥有益なることば、善きことば⑦いふこゝろ、いふ意味⑧語辭にて詩經に多く用ゐる語、こゝに⑨われ(我)⑩高大なる貌⑪和ぎつゝしむ貌

二 畫

訂 テイ 訂 訂

①たゞす(文字文章等の誤等を正す)②むすぶ、さだむ、とりきめる

訃 フ 訃 訃 訃

つげ、つぐ、人の死去を知らせる

計 ケイ 計 計

①はか、數へる、企てる、見つめる、はかる(謀)②はかるに、おもふに③はかりごと(策略)爲すべき事④かんぢやう、しめ、しめだか、又それを記したる帳簿(算術、數學)⑤國訓はからふ、はからひ(處置、處分)ばかり(ほど、其のみ、而已)

三 畫

訛 シン 訛 訛 訛

①たづぬ、とふ(問)下の者にたづねる、罪を取調べる②おとづれる(訪)③いさむ(諫)つぐ④せむ(責)とがめる(おとづれ(音信))

訛 コウ 訛

みだる(亂)みだれ、もめごと

訃 タウ 訃 訃 訃

①うつ(伐)②たづぬ(訊)きはめる(究)③をさむ

訃 ケツ 訃 訃 訃

あばく、隠れたる事を探り出す

訓 クン 訓 訓 訓 訓

①をしふ(教)をしへ、いましめ(誡)②したがふ(順)③よみ(註解)よむ④國訓よみ(漢字にあてた國語)

訛 サン 訛 訛

そしる(誹)又その言

託 タク 託 託 託

①まかせる、たのむ、委任する、よす(寄)②ことよせる、かこつける③たのみ④かこつけ

記 キ 記 記 記

①しるす(録)心におぼえる②文書、かきもの③しるし(標識)④漢文の一體にして事實をしるすもの⑤古事記の略稱として用ゐる語

訃 キツ 訃 訃 訃

①をふ(了)をはる②いたる(到)及ぶ、まで③つひに、かつて④ことごとく(悉)

四 畫

訛 クワ 訛 訛 訛

①あやまり(謬)あやまる②いつはり(偽)③なまり、なまつた言

訃 ガ 訃 訃 訃

①むかふ(逐)てむかへる②いぶかる、けいんに思ふ

訃 ショウ 訃 訃 訃

①うつつたへ、法廷にて是非曲直を争ふこと、又うつつたへる②言ひ争ふ③かへりみる、自らせめる④おほやけ(公)⑤おほめることば(頌)⑥易の卦の名

訃 キン ギン 訃

①よるこぶ(欣)②和らぎつゝしむ貌③むす(蒸)

訣 ケツ 訣

①わかるる、わかれ、いとまごひ②おくぎ、おくので

訥 トツ トツ 訥

どもる(吃)口が重い、よくしやべられぬ

訪 ハウ 訪 訪 訪

①たづねる、とふ②おとづれる、人をたづねる、見舞ふ、さがし求む③まさに(方)やがて、いまや

設 セツ 設 設 設

①そなへならべる、まうく、まうける、こしらへ作る②まうけ、こしらへ、そなへ③たとひ、もし、萬一

許 キョ コ 許 許 許

①ゆるす、認可する、承知する、罪過を宥す②ゆるし、許可③ばかり(幾許)④もと、ところ、がり⑤如許と連用して「かくのごとし」と訓ず⑥衆人が共に労働する時のかけごゑ

五 畫

訃 ソ 訃 訃

①うつつたふ、ぐちをこぼす、不平をもらして同情を求め、又うつつたへ②いひつける、讒言する③或物事につき其解決を求めること

訶 カ 訶 訶

しかる、なじり責める、

診 シン シン 診 診 診

①脈をとる、みる②うらなふ

註 チユウ チユウ 註 註 註

①文字の意味のときあかし、解釋②ときあかす、解釋す③書き記す、記入する

証 セイ シヤウ ショウ ショウ 証 証

①いさむ(諫)②俗に證の略字

訾 シ 訾 訾 訾

詆 テイ 詆 詆 詆

①そしる(謗)又そのさま、わるくちをいふ②おこたる(意)又そのさま③はかる(量)ますにてはかる④缺點、短所⑤かね、もとで

詈 リ 詈 詈 詈

①そしる(謗)しかり咎める②はづかしめ

詎 キョ 詎 詎

①なんぞ(豈)あに②詎幾と連用して「いくばく」と訓ず

詐 サ 記 詐 記

① だます、いつはる(偽) ② いつはり、うそ

訛 イ タ 訛

① あざむく ② 自らほこる、得意になるさま

詒 イ タ イ 詒

① おくる(贈) ② のこす(遺) ③ あざむく(給)

詔 セ ウ 詔 詔 詔

① みことのり(古代は一般に上から下への命令をいひ秦漢以後は天子の専用となる) ② みことのりす ③ つぐ(告)をしへ告げる ④ 南方の野蠻人の王號 ⑤ 應接を掌る役、又その者

評 ヘ イ ビヤウ 評 評 評

① しなさだめ(物事の是非優劣を定める公平なる議論) ② しなさだめす

訛 ヒ 訛

かたよる、ねぢける、不正

詛 ク ッ チユツ 詛 詛 詛

① かむ(屈) ② しりぞく(黜)

詡 シ ヨ ソ 詡 詡 詡

① のろふ(呪)のろひ ② ちかふ(誓)

詞 シ 詞 詞 詞

① ことば(辭)あやある言語文章 ② つぐ(告) ③ 韻文の一

六 畫

詠 エ イ エイ 詠 詠 詠

① うたふ、聲を永く引きて詩歌を歌ふこと、又詩歌をつくる、鳥が鳴く ② うた(詩歌又は歌ふべき詞章) ③ 國訓ながむ(みわたす、眺望)ながめ(みはらし)よむ(和歌をつくること)

詡 ク 詡

① ほこる(誇)ほちをふく ② あまねし(普) ③ はきくと物をいふ、氣が利いていさまし

詢 シ ユン ジュン 詢 詢 詢

はかる(謀)とふ(咨)

詣 ケイ 詣 詣 詣

試 シ 試 試 試

① いたる(造)達す ② まうづ(神佛にまゐる) ③ 到達した所、學問技術などの道に達したるところ

詩 シ 詩 詩 詩

① からうた(支那の韻文の一體にして古詩・今様の二體に分る) ② 各句が一定の音律に基づきて作られし文 ③ 經書の名(五經の一にして孔子が選定したりといふ古代の詩三百十一篇を收めしもの)

訛 タ 訛 訛

① ほこる(誇)大言を吐いて人を驚かす、又あざむく(欺) ② おどろきあやしむ ③ 國訓わぶ、わび(過を謝す)



詭 コウ  
のゝしる(罵)

詭 詭

詭 キ

詭 詭 詭

①あざむく、いつはる(詐)②いつはり(詭)③せむ(責)④そむく、たがふ(違)もとる(戻)⑤あやし(怪)又其さま

詭 セン

詭 詭

①こまかに事理を説きあかす(事理を説きて明らかにすること)②かひ、せん、しるし、又つまる所

詰 キツ

詰 詰 詰

①なじる、問ひつめる、責問(詰)をさむ(治)②夜のあけがた(詰)かどむ、まがる、屈曲(詰)國訓つむ(満たし入れる、

追ひこめて動かれぬやうにす、ひきしめる、おしちよめる(つまる)①いつばいになる、切迫する、行き止まる、きはまる(詰め)きは、はし、はて、かぎり)

詭 クワイエ

詭 詭 詭

①ものがたり、はなし(詭)はなす、はなしをする、かたゝる、つげる(詭)よき言葉、善言、嘉言

詭 カイ

詭 詭 詭

①かね(兼)そなふ(備)博く有す(詭)すべし、べし(俗文に宜の代用をなす)②あたる(當)③その(其)

詳 シヤウ

詳 詳 詳

①つまびらか、くはしい、細密(詭)つまびらかにす、明細にす、又よく知る(詭)くはしきこと、つまびらかなること(詭)ことごとく(盡)②さいはい(祥)③いつはる(伴)

詭 セン

詭 詭 詭

①言葉多きさま(詭)みる(瞻)②いたる(至)③うらなふ(占)④たる(瞻)十分である、満足する

詭 クワイ

詭 詭

①おどけ、ふざけ、をかしみあること(詭)あざける(嘲)たはむる(戯)からかふ、ふざける

詭 テウ

詭 詭 詭

①いどむ(挑)いざなふ(誘)②にはか(卒然)③國訓あつらふ(特に注文して作らせる、又其物)

詭 ルキ

詭 詭 詭

①しのびごと、死人の生前の功德を述べる詞、又詭を述べること(詭)神に祈り幸福を求める詞

詭 チユウ

詭 詭 詭

①兵力を以て罪人をせめうつ、罪人をこらす(詭)とがめる、せむ(責)②とが、つみ、又つみす、罰す(詭)のぞく(除)

詭 クワ

詭 詭 詭

①ほこる、たかぶる、自慢す(詭)ほこり、自負

七 畫

詭 シ

詭 詭 詭

①事實を記したる文章、記事(詭)しるす(記)かきつける(詭)あざ(詭)

詭 ジン

詭 詭 詭

①みとめる、見つける、自らきめる②はつきりと見わけ、みきはめる③ゆるす(認可)承知する④國訓したむ(たべる、喫する、書きしるす、見とける)みとめ(認印の略)

誑 キョウ  
誑 誑 誑 誑

たぶらかす、まどはす、あざむく、かたる

誓 セイ  
誓 誓 誓 誓

①ちかひ、やくそく(約束)又神佛に告げて信義を守ること②衆人をいましめ注意を與へる、訓誡③ちかふ、約束す、ちぎる、むすぶ④ちかつて、せひとも、かならず、相違なく

誕 タン  
誕 誕 誕 誕

①そらごと、うそ、ねなしごと、人を欺く大言②あざむく(欺)③わがま、ほしいまま、④うるま(生)うむ、まうける⑤おほいに(大)ひろし(闊)⑥發語の詞、こゝに

誘 イウ  
誘 誘 誘 誘

①さそふ、いざなふ、又教へみちびく②つれだす、よひだす③いざなひ、誘引

語 ギョ  
語 語 語 語

①かたる(大言を言といひ、小言を語といふ、又自言を言・答言を語といふ)ものがたる、はなしをする、ものいふ、口にす②ことば、言辭、もんく③生物の發する聲④告げる、かたる、をしへる

誠 ビイ  
誠 誠 誠 誠

①まこと、まごころ(赤心)純一にして公平無私なること②まことにす、誠實をあらはす③まことに、眞に、實に④はたして、もし

誣 フ  
誣 誣 誣 誣

①いましむ、注意を與へる、警戒させる、注意して慎む、警戒する②いましめ、をしへ、又其ことば或は文書

誤 ゴ  
誤 誤 誤 誤

①あやまる、あやまつ、まちがへる、しそこなふ、人をまどはす②あやまり、しそこなひ、まちがひ

誥 カウ  
誥 誥 誥 誥

①つぐ(告)②上からの申し渡し、又其言或は文書③上級の官吏を任免する辭令書

誦 ショウ  
誦 誦 誦 誦

誣 フ  
誣 誣 誣 誣

①となふ、そらんじ唱へる、唱へ讀む②うたふ、聲に節をつけてよむ③はなしをする、とく④詩歌の如く節をつけて歌はれることば⑤そしる(誹謗)

誣 クワイ  
誣 誣 誣 誣

①をしふ(教)さとし導く②をしへ、さとし

説 セツ  
説 説 説 説

①とく、述べ言ふ、理義を解釋す②ときあかしたる文章、又議論③文章の一體、論説文④とく、とき論して従はしめる⑤とまる、やどる⑥よろこぶ(悅)よろこばし⑦愛しめどる⑧ぬぐ(脱)

誰 スキ  
誰 誰 誰 誰

八 畫

①不明の人名に用ゐる代名詞、又姓名を尋ね問ふ時の名詞、たれ、だれ②發語の助辭として用ゐる字

課 クワ

①わりあて②わりあてる、租税をわりあてる、物事につき法則を定めて人々にわりあてる、又仕事の結果を試みて優劣を決す③わりあてたる定め、ほど④官省中の事務の一區分

課 課 課 課 課 課 課 課 課 課

誹 ヒ

①(非)そしり

誹 誹 誹 誹 誹 誹 誹 誹 誹 誹

詔 ギ

よしみ、したしみ②古く仁義の義、又は議論の議に通ず

詔 詔 詔 詔 詔 詔 詔 詔 詔 詔

調 テウ

テウ

調 調 調 調 調 調 調 調 調 調

①やはらぐ、とよふ②かなふ(適)③なつける、ならす④あざける(嘲)⑤木の葉の動く貌⑥まもる(護)もりたてる⑦めしだす(徴發)⑧官職を授かる、轉任する⑨はかる、しらべる⑩樂器のてうしを合せる⑪つき(唐代貢物として納める土地の産物布帛の類)⑫しらべ(音樂詩歌等のてうし)⑬おもむき、やうす⑭あさ(朝)⑮國訓とよふ(物を買ふ、事を辨ず、こしらへる)⑯しらぶ(罪狀を檢按する、ためしみる、はかる、檢閲する)⑰しらべ(以上の名詞、動力を傳へる爲に車輪と車輪とを連接する帶、又は紐)

詔 テン

詔 詔 詔 詔 詔 詔 詔 詔 詔 詔

諄 ジュン

シユン

諄 諄 諄 諄 諄 諄 諄 諄 諄 諄

諄 シユン

①くりかへして教へ諭す、又そのさま②たすく(佐)③まめやか、ねんごろ(懇)

談 タン

①ものがたり、はなし②かたる、はなす

談 談 談 談 談 談 談 談 談 談

諉 キ

①めんだうをかける、わづらはす②かこつける、ことよせる

諉 諉 諉 諉 諉 諉 諉 諉 諉 諉

請 セイ

①こふ、ねがひ求める、とひたづねる②祈る、許されんことをねがふ③人をまねく、お目にかゝる④願はくは、どうぞ⑤漢代の制度にて諸侯が秋天子に參内すること⑥國訓うく(こひ受ける、ひきうける)

請 請 請 請 請 請 請 請 請 請

諍 サウ

①あらさふ(争)②いさむ(諫)

諍 諍 諍 諍 諍 諍 諍 諍 諍 諍

諷 シユ

①相談する、はかる

諷 諷 諷 諷 諷 諷 諷 諷 諷 諷

諒 リヤウ

①まこと(誠)②小節を固く守る③おもひやる、察す④眞實に、まことに(信)

諒 諒 諒 諒 諒 諒 諒 諒 諒 諒

論 ロン

①理を述べる、意志をのべあかす②善惡を批評す③言ひ争ふ、あげつらふ、とやかくいふ④さばく、罪を決す⑤文章の一體⑥すぢみち、條理

論 論 論 論 論 論 論 論 論 論

諄 シン

①つゞ(告)のべる(述)

諄 諄 諄 諄 諄 諄 諄 諄 諄 諄

諛  
チヤウ  
詭

國字、命令、上のいひつけ

九  
畫

諛  
ユ  
使  
使  
使  
使

へつらふ(詭)へつらひ、おもねる、追従

諛  
テフ  
諛  
諛  
諛  
諛

①うかゞふ(窺)敵の様子をさぐり密かに味方に知らず、しめす②しのび、まはしもの③文字を記したるふだ(諛)④しやべる(喋)

諛  
ケン  
諛  
諛  
諛  
諛

①わする、忘卻②やかまし、かまびすし(喧)

諛  
シ  
諛  
諛  
諛  
諛

①死者に贈るよび名、おくり名(諛號)②おくり名を附ける、おくりなす

諛  
ガク  
諛  
諛

直言する、忌み憚らず正しく言ふ

諛  
テイ  
諛  
諛

①つまびらかにする、あきららかにす②あきらか、つまびらか③まこと、佛道のきとり④國訓あきらむ、あきらめ(思ひきる、断念する)

諛  
カイ  
諛  
諛  
諛  
諛

①かなふ、調和する、とよふ②やはらぐ(和)物價を適當にきめる③おどけ、じやうだん、戲謔

諛  
カン  
諛  
諛  
諛  
諛

①人の悪事をさとしたとす、いさめる、忠告する我②前非を悔い咎める③いさめ、いけん

諛  
ユ  
諛  
諛  
諛  
諛

①さとす、教へ悟らしめる②悟り知る、さとる、又さと③たとふ、たとへ(喩)④官より人民に言ひきかすこと、ふれしめす、又その文書

諛  
シ  
諛  
諛  
諛  
諛

はかる(咨)とふ、上より下に相談すること

諛  
キ  
諛  
諛  
諛  
諛

①かくす、いむ②よける、さける(避)尊者の本名を呼ぶを避ける③きらふ(嫌)又おそれる、遠慮する④いみな、生前の本名(生者は名、死者は諱といふ)

諛  
アン  
諛  
諛  
諛  
諛

①そらんず、そらにて覚える、十分心得て居る、熟達してゐる②そらよみ、ちうよみ、又そのこと

諛  
ダン  
諛  
諛  
諛  
諛

よくしやべる、喋々

諛  
シン  
諛  
諛

①まこと(眞實)②信ず、あてにす、まことにす③まことに、ほんたうに

諛  
フウ  
諛  
諛  
諛  
諛

①そらんず、そらでよむ②とほまはしにいふ、あてにす、又そのこと

諸

シヨ

諸 諸 諸

①もろ、もろく、衆多②「之於」の略、これ又「之乎」の略③無意味の助辭、や

諺

ゲン  
ウン

諺 諺 諺

①世俗に言ひ傳へてゐる説、ことわざ②さとびたる言葉、俚言

諛

ケン

諛

①あざむく(欺)②いはる(詐)③わする(忘)④わすれぐさ(萱)

諾

ダク

諾 諾 諾

①はいと答へること、返答、がつてん、よし、又人に呼ばれたる時ゆつくりと答へる(返答の遅速は敬意の多少による、唯は早くこたへること)②うべなひ、うべ

謀

ボウ

謀 謀 謀

なふ、うけひく、うけあふ、承知する②こゝろよく人の言に従ふさま

諷

エツ

諷 諷

①はかる、思案する、おもんげかる②問ふ、他に相談す③もくろむ、はかりごとを立てる、企てる④もくろみ、はかりごと、術策

謂

キ

謂 謂 謂

①おめみえ、貴人に面謁する②おめどほり、めどほりす③まゐる、まうづ(詣)④まうす(申)言上す⑤とりつき、應接⑥なふだ、名札、名刺

諷

ハウ

諷 諷 諷

①いふ、つげる(告)うはさす、評論す②名づける、となへ③おもへらく、おもふ、思ふに④いはれ、理由⑤所謂と連用して「いはゆる」と訓み世間で言ふ所の意に用ゐる、謂何と連用して「いかん」と讀む、又「なんとか

一〇畫

謄

トウ

謄 謄 謄

うつす(寫)原本より寫しとる

謎

ベイ  
メイ

謎 謎 謎

別の意味を藏して人をして迷はしめる詞、なぞ、なぞ

謚

ビツ

謚 謚 謚

やすらか(泰)しづか(寂)おだやか(穩)

諛

キヤク  
ギヤク

諛 諛 諛

①おどけ、じやうだん②じやうだんをいふ、戯言す

諷

ハウ

諷 諷 諷

そしる、そしり、惡口、誹謗

謙

ケン

謙 謙 謙

①人に讓る、へりくだる、抑損す、又そのこと②きらひ(嫌)うたがひ(疑)③易の卦の名④こゝろよし(快)あきたる(慚)

講

カウ

講 講 講

①物事の意味を究めあかす②稽古する、ならふ(習)③もくろむ、はかる④和解す、なかなほり⑤神佛の信仰者が結ぶ團體、こう⑥金錢融通の目的にて組織する一種の團體、頼母子講の類

謝

シヤ

謝 謝 謝

御禮をのべる、又おれい<sup>①</sup>いなむ、ことわる<sup>②</sup>あやまる、わびる<sup>③</sup>しほむ、おとろへる、退き去る<sup>④</sup>いとまごひす<sup>⑤</sup>申し立つ、或事情を言ひ立て、官を辭す

謠

エウ

謠 謠 謠 謠

うたふ、うた(樂曲樂器に合さず)に歌ふもの<sup>①</sup>流言、うはさ<sup>②</sup>國訓うたひ(猿樂の能に合せて歌ふうたひもの、又其歌詞、謠曲)

一一畫

謨

ボ ム

謨 謨 謨 謨

はかりごと、謀策、大きなはかりごと<sup>①</sup>はかりごとを定める、はかる<sup>②</sup>なし(莫)

謫

タク

謫

とがめる、せめる、譴責する<sup>①</sup>役人が官位をおとされて遠方にやられること<sup>②</sup>怪しき雲氣

譚

ビウ

譚 譚 譚 譚

あやまる(譚)たがふ(違)あやまり、まちがひ<sup>①</sup>つはる(詐)だます、あざむく

譚

オウ

譚 譚 譚 譚

うた(吟歌)うたふ、口を揃へてうたふこと

譚

キン

譚 譚 譚 譚

つゝしむ、自ら戒める、恐れかしこむ<sup>①</sup>つゝしみ、かしこみ

譚

マン

譚 譚 譚 譚

いつはる、あざむく(欺)おこたる(怠)あなどる(慢)見さげる<sup>①</sup>ひろし(莫)とりとめなき貌

一二畫

譚

クワ

譚 譚

やかましい、かまびすし

證

ショウ

證 證 證 證

しるしをあげる、あかす<sup>①</sup>しるし、あかし、證據

譚

ケツ

譚 譚

いつはる(詐)あざむく(欺)たくんでだます<sup>①</sup>たくらみ、いつはり

譚

キ

譚 譚

そしり、そしる(譚)けみする、たどす、とがめる

譚

セン

譚

えらび(撰)ほめたゝへる

譚

シン

譚

そしる、悪口をいふ、誣ひ告げる、譚言<sup>①</sup>いつはる

譚

シキ

譚 譚

しる、心得る、さとる(悟)おぼえ(覺)みとめる<sup>①</sup>しりあひになる、しられる、見知られる<sup>②</sup>以上の名詞、又ちよ、かんがへ、しりあひ<sup>③</sup>前生の煩惱により現在を生じたる結生の初念<sup>④</sup>しるす(誌)金屬製の道具にきざみつけたる凹刻の文字<sup>⑤</sup>はたじるし(職)

譚

セウ

譚

とがめる、せめる、しかる<sup>①</sup>やぐら、戌樓、城門のものみ<sup>②</sup>鳥の羽の破れ裂けたる貌

譚

同

譚 譚

一三畫

譜 フ

譜 譜 譜

①系統の順序に書き記したものを、系圖、又次第順序をたて、記したるものを、總稱②系圖をつくる、系統を立てる③音楽の曲を記したるもの

諫 サウ

諫 諫 諫

さわぐ(騒)がや〜いふ

警 ケイ

警 警 警

①いましむ、氣をつける、用心する、注意する②いましめ、用心、軍事上のそなへ、軍備③非常を知らせいましめる④さきばらひ、さきおひ、行幸の時道路を衛り行人をよけさせること⑤さとし(敏)⑥さめる、さます(覺)

讒 ヒ

讒 讒 讒

①たとへ、たとへる、比する②さととる、さとす(曉)③譬使と連用して「もし」と訓む

譯 エキ

譯 譯 譯

①外國の言語文字を國語になほして意味を通ぜしめること、又其なほしたる言語文章の稱②義理を説く、わけを解く③國訓わけ(むね、ゆゑ、よし、理由、いはれ)

議 ギ

議 議 議

①相談する、はかる、立案す、かんがへる(慮)②あげつらふ、論ず③批評す、又其事④周制にて刑罰を斟酌すること⑤文章の一體、論文

一四一五畫

讒 ケン

讒 讒 讒

①せむ、しかる、とがめる、訶責する②しかり、とがめ、叱責

護 コ

護 護 護

①まもる、すくふ(救)たすける、かばふ②統轄する、つきそひて警戒す③まもり、たすけ

譽 ヨ

譽 譽 譽

①ほむ、ほめ、た〜へる②ほまれ、令聞③たのしむ

讒 シン

讒

讒の俗字、くるし、未來の吉凶の前兆

讀 トク

讀 讀 讀

一六畫

變 ヘン

變 變 變

①かはる、うつる、改まる②かへる、あらためる、化す③はかりごと、一大事④人をあざむく手段、方便⑤平素とかはつた事、わざはひ、不時の災異⑥みだれ、戦亂

讒 エン

讒 讒 讒

①集まつて話をする、又そのさま②さかもりす(醜)③さかもり(酒宴)

讒

シウ

讒 讒 讒 讒

①かたき、あだ(仇)②こたへる、むくゆ、つぐのふ(償)  
③文章をよみ照し合せて字句の誤を正す④あたる(當)  
示ひとし(等)

一七一八畫

讓

サン

讓 讓 讓 讓

①他の善をにくみ能を忌みてそしる②さんげんす、告  
口する

讓

ジャウ

讓 讓 讓 讓

①へりくだる、ゆづる②授ける、與へる、わたす③こ  
とわる、辭退④ゆづり、さづけ⑤詰問する、なじり責  
める

讒

クワン

讒 讒 讒 讒

①よろこぶ(歡)②やかましい、かまびすし

一九二〇畫

讓

サン

讓 讓 讓 讓

讓の本字①たへる、ほめる、又其ほめことば②文章  
の一體にて人の功德をほめたへるもの

讓

タウ

讓 讓 讓 讓

正直なる言、正言

讓

ゲツ

讓 讓 讓 讓

谷部

谷

コク  
ヨク

谷 谷 谷 谷

①たに、山間のくぼみ②山間のながれ、溪流③きはま  
る(窮)④こち、ひがしかぜ、東風⑤谷蠡は匈奴の藩王  
の封號⑥國の名(青海地方鮮卑族の國)

一〇畫

谿

ケイ

谿 谿 谿 谿

たに(谷)谷の流(水なきを谷といひ水あるを谿といふ)

谷部 谷・谿・谿 豆部 豆

谿

クワツ

谿 谿 谿 谿

①ひらけたる谷②うつろ、通じたる貌、開きたるさま  
③廣きさま④さとり、明かに知る、そのさま

豆部

豆

トウ

豆 豆 豆 豆

①穀物の一、まめ②たかつきに似たる木製の食器③支  
那古代のますめの稱④國調まめ(特に大豆の稱、すべて  
豆の形したもの、皮膚に生ずる粒状の水腫、物事の小  
さい形容)

三一二畫



豨

カイ

豨 豨 豨 豨

①あに、いかでか、まさか、何とて、なんすれぞ、いづくんぞ等の意を表はす反語②凱又は愷に通ず

豨

ジュ

豨 豨 豨 豨

①たつ(立)立てる②たて(縦)③こども、こぞう、轉じて人を輕蔑して呼ぶ語④宮廷内のめしつかひ

豨

ホウ

豨 豨 豨

①とよ、ゆたか、さかん(盛)おほし(多)大きい、厚い、肥えてゐる②穀物のできの良きこと③ゆたかならしめる、ゆたかにす④易の卦の名

豨部

豨

シ

豨 豨 豨 豨

①のこ、ゐ、ぶたの類の家畜

三二六畫

豨

トン

豨 豨 豨 豨

①家畜の一、ぶた、豨の一種にして形の小さなもの②土を物につみみて積みしもの、土俵③あしくひ(足を擧げずに踵を曳ずり行くこと)

豨

シヤウ

豨 豨 豨 豨

①ざう、ざうこつ②かた、かたち③あや④きざし⑤かたどる

豨

クワン

ケン

豨

①やしなふ(穀物にて動物をやしなふ)轉じて利を以て人をいざなふ②穀物にて飼ふ家畜の總稱

七一九畫

豨

カウ

豨 豨 豨

①すぐれる、又其人②たけし、つよし(強)又その人、そのこと③野獸の一、やまあらし④け(毫)に通ず⑤わづか、すこし

豨

ヨ

豨 豨 豨 豨

①たのしむ(樂)②かねて、あらかじめ③前以て備へる、あらかじめす④疑ひためらふさま⑤古の九州の一(河南省の全部及山東省の曹州、湖北省の襄陽隕陽等の地方)⑥易の卦の名

豨部 豨・豨・豨 豨部 豨・豨・豨

豨

チヨ

豨 豨 豨 豨

①野生の豨、ゐのし、ゐ②ゐのこ、小さき豨、又豨の子③みづたまり(瀆)

豨部

豨

チ

豨 豨 豨 豨

①むし、足なきむし②ゆるむ、とく(解)③國訓むじなへん

三二五畫

豨

ヘウ

豨 豨 豨 豨

①猛獸の一、へう、虎に似て小さし

豺

サイ

豺

豺

豺

①狼の類、やまいぬ。②豺の如き悪人、又は無慈悲なる人に譬ふ

貂

テウ

貂

貂

貂

鼠の属、てん

六 畫

貉

キウ

貉

貉

貉

猛獸の名、昔は之を馴らして戦争に用ゐたといふ

貉

カク

貉

貉

貉

①狸の属、むじな。②支那北方のえびす(貉)

貉

バク

貉

貉

貉

①支那北方のえびすの名。②しづかにす(靜)しづか

七一〇畫

貌

パウ

貌

貌

貌

①物の形状、かたち、すがた、形容、さま。②かんばせ、顔色。③ふるまひ、みえ、うはべ、表面。④つゝしむ態度。⑤かたちす、かたどる(人物の形を寫す)はるか(適に同じ)

狸

リ

狸

狸

狸

たぬきの属の總稱

貌

ヒ

貌

貌

貌

猛獸の名、形虎に似て熊に類す

貝部

貝

バイ

貝

貝

貝

①かひ、水中の介蟲類にして石灰質の殻を有する頭足動物、かひがら。②殻を鳴り物に造り吹きならすもの、ほらがひ。③かね(古代介類を貨幣として用ゐたもの)。④美しい織物の一

二 畫

貞

テイ

貞

貞

貞

①たゞし、心が正しい。②女子が操を守りて動かぬこと。③易のうらなひの内卦(外卦の悔の對)

負

フウ

負

負

負

①おふ、せおふ、になふ。②背にす、うしろにす。③債務を有す、金を借りてゐる。④うける。⑤以上の物事、おひめ、責任、擔任、義務。⑥わすれる、そむく、たがふ、みすてる、はなれる。⑦たのむ、たのみ、たよる。⑧まけ

貝部 貝・貞・負・財・貢・負

財

サイ

財

財

財

①たから、おかね、しなもの。②たつ、きる、きりもり。③はたらき、才能。④わづかに(織)

貢

コウ

貢

貢

貢

①みつぎ、みつぎもの。②みつぎものを上る。③夏の時代の税法の稱。④すゝむ、薦擧する。⑤つぐ(告)

四 畫

負

ビン

負

負

負

①まづし、とぼし(乏)少い、才徳學問などが乏しい②まづしいこと、びんぼうなること③まづしき人、貧弱なる人

貨 クワ 貨 貨 貨

①だから、必需品、かね、金品②しろもの、しなもの、又商品③だからにす、だからを贈る、賄賂をつかふ

販 ハン 販 販 販

①ひさぐ、うる(賣)安く買ひ高く賣る②あきなひ(商)あきなふ

貪 タン トン 貪 貪 貪

むさぼり、むさぼる、又むさぼる人、愛し惜しむ

母 貴 クワン ワン 母 貴

①ぬく、つらぬく、よこぎる、うがつ(穿)つき通す②まとめる、統べる③達す、しとげる④あてる、あたる、的中する⑤せにさし(無)なれる、ならはし(慣)すぢみち(條理)⑥にんべつ、名籍⑦ひく(引)⑧昔の通貨の單位(錢)⑨千文の稱、徳川時代には九百六十文にして今は金十錢⑩重量の單位(千匁)⑪昔武士の知行高の換算に用ひし單位(十石を以て一貫とす)

主 貴 サク シヤク 主 貴

①せむ、せめる、とがめる、なじる②當然なすべきこととを其人に求めること③せめ、とがめ④つとめ、職務

五 畫

貯 チョ 貯 貯 貯

①たくはふ、藏す、積み備へ置く、かこふ②たくはへ、たくはへたる物

貴 セイ 貴 貴 貴

①現金を拂はずに品物を買ふ、かけて買ふ、おぎのる(除)②ゆるす(赦)③國訓もらふ(譲り受ける、贈られる、迎へ入れて我物とす、助力を受ける、つりこまれる)

賈 シ 賈 賈 賈

①しんだい、だから②はかる(量)

貳 ニ ジ 貳 貳 貳

①ふたつ(二)に同じ、證書の数字に用ゐる②両端を持つ、ふたつにす③そふ(副)④かさね(重)⑤うたがふ(疑)⑥たぐひ(匹敵)⑦ふたごころ(二心)⑧二心を持つ⑨かはる(變)⑩心がはり⑪かふ、かはる(代)⑫はなる(離)⑬ひかへ、そへ

貴 キ 貴 貴 貴

①たつとし、たふとし、たかし②たつとぶ、たふとぶ、うやまひあがめる、重んず、大切にする③ねがふ、のぞむ、欲する④たつときこと、又其人⑤尊稱の接頭語

貶 ヘン 貶 貶 貶

①おとす、官位をさげる、そしる、しりぞける、けなす②少くす、へらす、又それ等のこと

買 バイ 買 買 買

①かふ、購求する、金にて快樂を求める、求め受ける、招く、來す②かひ、買ひとる③國訓かふ(ねうちを認める、喧嘩のあひ手になる、買ひとる)

貸 タイ 貸 貸 貸

①かす、すけてやる、みのがす、ゆるす、おほめに見る②かす、かけて買ふ、又それ等のこと③國訓勝ち越し

賤 キヤウ 賤

①あたふ、たまふ②他人に對する敬語、くださる③く  
だされもの、たまもの(賜)

④つひやす、使用する、つかふ、へらす⑤つひえ、つ  
ひやす所の金品⑥いりめ、ものいり⑦つひゆ、金品が  
へる、缺乏す⑧功用のひろく大なること

⑨つく、はりつける、寄り附く、粘著する⑩借金のか  
たに置く、質におく⑪薬の包みを敷へる數詞

⑫のこす(遺)後にとゞめる⑬おくる(贈)歸與す

⑭あたふ、たまふ  
⑮つひやす、使用する、つかふ、へらす  
⑯つひえ、つひやす所の金品  
⑰いりめ、ものいり  
⑱つひゆ、金品がへる、缺乏す  
⑲功用のひろく大なること  
⑳つく、はりつける、寄り附く、粘著する  
㉑借金のかたに置く、質におく  
㉒薬の包みを敷へる數詞

①かふ、互にうりかひす、交易、互市、又かふ(買)②  
目のかすむ貌

③よるこびをのべる、いはひよろこぶ④いはひ、よろ  
こび⑤物品を贈り祝ふ

⑥かざり、かざる、あや、光彩⑦易の卦の名⑧いきど  
ほる(憤)⑨わく(噴)⑩はしる(奔)⑪人の名

⑫かふ、求める、來す、まねく⑬うる、物をひきく  
あきなひ(商賣)⑭あきんど、あきうど(商人)⑮あたひ  
(價)ねだん、ねうち

⑯おびやかす(劫)ぬすむ(盜)又その者⑰ころす(殺)そ  
こなふ(殘)⑱さまたげる(妨)あやまらせる⑲國家を亂  
すもの⑳外國より攻めて來るあだ㉑稻の節を食ふ害蟲

①あたふ、たまふ②他人に對する敬語、くださる③く  
だされもの、たまもの(賜)

④つひやす、使用する、つかふ、へらす⑤つひえ、つ  
ひやす所の金品⑥いりめ、ものいり⑦つひゆ、金品が  
へる、缺乏す⑧功用のひろく大なること

⑨つく、はりつける、寄り附く、粘著する⑩借金のか  
たに置く、質におく⑪薬の包みを敷へる數詞

⑫のこす(遺)後にとゞめる⑬おくる(贈)歸與す

⑭あたふ、たまふ  
⑮つひやす、使用する、つかふ、へらす  
⑯つひえ、つひやす所の金品  
⑰いりめ、ものいり  
⑱つひゆ、金品がへる、缺乏す  
⑲功用のひろく大なること  
⑳つく、はりつける、寄り附く、粘著する  
㉑借金のかたに置く、質におく  
㉒薬の包みを敷へる數詞

①かふ、求める、來す、まねく②うる、物をひきく  
あきなひ(商賣)③あきんど、あきうど(商人)④あたひ  
(價)ねだん、ねうち

⑤おびやかす(劫)ぬすむ(盜)又その者⑥ころす(殺)そ  
こなふ(殘)⑦さまたげる(妨)あやまらせる⑧國家を亂  
すもの⑨外國より攻めて來るあだ⑩稻の節を食ふ害蟲

⑪かざり、かざる、あや、光彩⑫易の卦の名⑬いきど  
ほる(憤)⑭わく(噴)⑮はしる(奔)⑯人の名

⑰かふ、求める、來す、まねく⑱うる、物をひきく  
あきなひ(商賣)⑲あきんど、あきうど(商人)⑳あたひ  
(價)ねだん、ねうち

㉑おびやかす(劫)ぬすむ(盜)又その者㉒ころす(殺)そ  
こなふ(殘)㉓さまたげる(妨)あやまらせる㉔國家を亂  
すもの㉕外國より攻めて來るあだ㉖稻の節を食ふ害蟲

①あたふ、たまふ②他人に對する敬語、くださる③く  
だされもの、たまもの(賜)

④つひやす、使用する、つかふ、へらす⑤つひえ、つ  
ひやす所の金品⑥いりめ、ものいり⑦つひゆ、金品が  
へる、缺乏す⑧功用のひろく大なること

⑨つく、はりつける、寄り附く、粘著する⑩借金のか  
たに置く、質におく⑪薬の包みを敷へる數詞

⑫のこす(遺)後にとゞめる⑬おくる(贈)歸與す

⑭あたふ、たまふ  
⑮つひやす、使用する、つかふ、へらす  
⑯つひえ、つひやす所の金品  
⑰いりめ、ものいり  
⑱つひゆ、金品がへる、缺乏す  
⑲功用のひろく大なること  
⑳つく、はりつける、寄り附く、粘著する  
㉑借金のかたに置く、質におく  
㉒薬の包みを敷へる數詞

①おぎのる(賈)かりる、かけて買ふ、かけて賣る(賈)はるか(賚)ながし(賚)ひさし(久)おそし(賚)おごる、おごり(賚)

②まらうど、お客(賚)みちびく(導)お客を接待する(賚)たがふ(賚)しりぞく(賚)

八 畫

③(賚)ライ 賚 賚 賚 賚

④(賚)シ 賚 賚 賚 賚

⑤たまふ(賚)たまもの(賚物) ⑥たまふ、くだされる(賚)きよとける、ゆるす(賚)たまもの、くだされもの、めぐみ

⑦(賚)ハイ 賚 賚

⑧(賚)シャウ 賚 賚 賚

⑨(賚)ケン 賚

⑩かしこし、りこうである、又その人(賚)すぐれる、まさる、うはてである(賚)かしこき人としてほめ尙ぶ(賚)他人の物事に冠して敬意を表する語(賚)他の語に冠して尊稱(賚)第二人称を形づくる語

⑪(賚)マイ 賚 賚 賚 賚

⑫うる、ひさぐ、あきなふ(賚)あざむく(賚)てらふ(賚)もとめる(賚)うらぎり(賚)味方の内情を敵に知らす

⑬(賚)セン 賚 賚 賚

⑭いやし、等級が低い、身分がひくい、ねがやすい、おとる、又それ等のもの(賚)いやしむ、あなどる(賚)かろんず(賚)

⑮(賚)フ 賚 賚

⑯ねんぐ、貢物、租税、又軍費(賚)租税其他の物品を賦課して徴收すること(賚)うく(賚)さづかる、與へられる(賚)詩歌を作り又は詠ずること(賚)古代の詩の一體、又韻文の一體

⑰(賚)シツ シチ 賚 賚

⑱もの(物)(賚)もと、したち、どだい、根本、基礎(賚)飾らぬこと、ぢみ(賚)うまれつき(賚)資質(賚)本是非をきはめる、たいす(賚)こたふ(賚)対(賚)ちかひ(賚)盟(賚)ま(賚)的(賚)物をきる臺、罪人の首をきる臺(賚)てがた、證券(賚)しち、抵當物(賚)しちとして渡す、又人(賚)ちとなる(賚)に(賚)

九 畫

⑲(賚)ト 賚 賚 賚

⑳(賚)ライ 賚 賚 賚

㉑たのむ、よる、あてにする(賚)たのみ、たより(賚)あたかもよく、さいはひ(賚)國訓たのむ(こと)づける、願ふ、求める(賚)たより(賚)しらせ、おとづれ、消息

一〇 畫

㉒(賚)タン 賚 賚 賚

①すかす、だます、すかさる、商人に欺かれて物を高く買ふ②國訓すかす(子供をだましなだめること)

賻 フ 賻 賻 賻

死者の家族を弔ふために金品をおくる、又その金品

賻 コウ 賻 賻 賻

①あがなふ、もとめる、買ふ②賞をかけて募る③古に通ず

賽 サイ 賽 賽 賽

①おれいまわり、願の叶ひたる御禮として神佛に参り又祭をすること②雙六又は賭博に用ゐる立方形の具、さいころ、骰子③轉じて勝負優劣を争ふこと

一一畫

贄 シ 贄 贄

に(古代面會のとき身分に應じて相手方へ差し出したる禮物)仕官をする時や教を乞ふ時にも行ふ、みやげもの

贄 セイ 贄 贄 贄

①むだ、よけいなもの②無用のことを云爲すること③こぶ(瘤)④むこ(婿)いりこむ⑤あつまる(聚)あつめる

一二畫

贈 ソウ 贈 贈 贈

①おくる、やる、おくり與へる②言辭を言ひやる、死後に朝廷から官位を賜ふ③つかひもの、おくりもの④死後に追賜せられし官位に冠する語

贄 サン 贄 贄 贄  
①ほむ、賞揚す②ほめことば(讚)③たすく(助)④漢文の一體、又書畫の傍に書く詞、歴史の記事に添へる議論  
贄 ガン 贄 贄  
にせもの、にせ、偽物

一三一—一五畫

贏 エイ 贏 贏

①あます、あまる、まうかる、まうける②あまり、まうけ③つむむ(包)④のぶ(伸)ゆるむ⑤うく(受)⑥かち、勝利

贄 ジン 贄 贄 贄

贄 ヒ 贄 贄  
①はなむけ、餽別②はなむけをおくる、はなむけす  
①品類は大いに力を出す貌②品類は特に目をかけてひきたてる、又偏愛、えこひいき  
贄 ショク 贄 贄 贄  
あがなふ、金品を出して罪を免る、又貿易すること

赤部

赤 セキ 赤 赤 赤

①あか、朱色②あかし、まごころがある③あかくす、赤色にす④空しい、から、何物もない⑤ありのまま、はだか、むきだし⑥露西亞勞農政府派の徽章の色に因み過激思想の意

四一九畫

赦

シヤ

赦 赦 赦

①ゆるす(宥免)②ゆるし、寛假

赧

タン

赧 赧 赧

①はぢて顔を赤くする、赤面②はぢる貌③周代最後の王の名

赧

カク

赧 赧

①赤き貌②ひかる(光)かゞやく(耀)③明らかに著しきさま④勢ひの盛んなるさま⑤怒る貌

赧

シヤ

赧 赧

①赤色のつち、あかつち、轉じて禿山②あか、あかし(赤)赤土の色

走部

走

ソウ

走 走 走

①わしる、はしる、かける、逃れる、敗北する②つく、おもむく(赴)③はしらす、かけらす、おひはらふ④小使、めしつかひ、又自己の謙稱⑤すべて地上をはしるもの

二畫

赴

キウ

赴 赴

たけき貌、つよきさま

赴

フ

赴 赴

①おもむく、至る、行く、向ふ、投ず②應ず、したがふ③つぐ(告)おもむき告げる、死去をつけ知らず、又そのこと

起

キ

起 起 起

①おこす、立たせる、縦にする、建築す②はじめ、盛んにひらく(開)悟らしめる、目を覺させる③又人を擧用す④おこる、はじめまる⑤おこり、もと、はじめたつ(立)おきる、おこす、目がさめる、奮發す⑥生きて活動すること

五畫

起

チン

起 起

おふ(逐)おつかける

超

テウ

超 超 超

走部 起・起・超・越・超

①こゆ、こす、とびこす②まさる、すぐれる、又順序によらずして進む、又餘計になる③こゑる貌、すぐれるさま

越

エツ ヲチ  
クワツ ヲツ

越 越 越

①こゆ、こす、過ぐ、度をすごす、通りすぎる②年月がたつ、又順序をふまずに進む③おとす(落)おつ、うしなふ(失)④ちる、ちらす(散)⑤發語のことば、こゝに⑥春秋戦國時代の國名(今の浙江省地方)⑦種族の名(江浙閩粵地方に住居せしもの)⑧恐の下部にある孔⑨蒲にて織りし席⑩國訓こす(おこす、又居所をかへる)こし(昔の國の名、今の三越の地)

七一〇畫

趙

テウ

趙 趙 趙

①春秋戦國時代の國の名(今の直隸省の南部)②五代の次に起りたる宋代の天子の姓

趣

シユ  
ソク

趣 趣 趣 趣

①おもむく、走り至る、往き向ふ②おもむき、心の向ふ所のすぢみちの歸著する所、むね、やうす、けしき、ふぜい③うながす、催促す④すみやかに

趨

シユ  
スウ

趨 趨 趨 趨

①はしる(走)小足にてはしる(貴人の前を通る時の禮)②おもむく、むかふ、したがふ③すみやかに④せく、うながす(促)

足部

足

シユク  
シウ

足 足 足 足

①あし(下肢)脚、身體の下部、足の形したもの②あるく、あゆみ③たる、全くなる、十分である、ありあまる④其事に可なる意を示す語⑤たす、加へる、全くする、缺を填補する⑥すぐ(過)⑦國訓あし(せに、船の水につかる部分、船の速力)そく(はきものを敷へる數詞)

四畫

跬

ケツ  
ケイ

跬 跬

①かける、はしる(奔)馬が早く走る②ふむ

跬

フ

跬 跬 跬 跬

①足を組合せて坐る②物の臺、物の脚

趾

シ

趾 趾 趾 趾

①あし(足)②物事のあと、城のどだい

五畫

跋

ハツ  
バツ

跋 跋 跋 跋

①ふまへる、ふむ②あるく(山野を行くを跋といひ、水中を行くを涉といふ)③物のにぎりどころ、もと④書物の終りに書きしるす文章、おくがき

跌

テツ

跌 跌 跌 跌

①つまづく(躓)たがふ、あてがはづれる②すぐ(過)しまりがなからける、はしる

跼

ダ  
タ

跼 跼

つまづく(跼)時機を失ふ、又そのさま

跣

セキ

跣 跣

①人名(秦の大盜賊)②あしのうち

跛

ヒ  
ハ

跛 跛 跛 跛

①びつこ、あしなへ、ちんば②ちんばをひく③かたよる、片足にて立つ

距

キヨ

距 距 距 距

①へだつ、さる、へだゝる、へだゝり②いたる(至)いたす(致)③ふせぐ(防)こぼむ(拒)④たがふ(未)けづめ、雞の足の後にある爪⑤とびこえる⑥祕密の事をさぐり出す⑦おほいなり(巨大)

六畫

跟

コン

跟 跟 跟 跟

①かゝと(踵)くびす②隨行す、人に従ひ歩く



跡

セキ シヤク

跡 跡 跡

①あしあと、あと②追ふ、あとをつける

跳

セン ソン

跳 跳 跳

①すあし、はだし②はだしにて歩く

跨

クワ コ

跨 跨 跨

①のりこす、またぐ②また、またがる、馬乗になる、又自分の所有とす③わたる(互)連互す

跪

キ

跪 跪 跪

①ひざまづく、膝をつき禮拜す②あし(足)主として蟹の脚にいふ

躑

キョウ キョウ

躑 躑 躑

あしあと、又人の居るけはひ、あるくひびき

路

ル

路 路 路

①みち(道)すぢみち、物事の條理②地位、樞要なるところ③しかた、方法④みちす、奔走す、往來す⑤あらはる(露)⑥くるま(輜)⑦おほいなり(大)⑧宋代の行政上の區劃の稱にして今の省の類

跳

テウ タウ

跳 跳 跳

①はぬ、をどる、はねあがる②飛ばす、をどらす③のがる(逃)

七 畫

躑

キョク

躑 躑 躑

①脊をかどめて歩く、せぐままる②行きなやむ、又恐れる貌

踉

リヤウ ラウ

踉 踉 踉

①はねまはる、をどる②よろめく、又ゆるく歩く貌

踴

ヨウ

踴 踴 踴

①をどる、はねる、舞踏す②のぼる(上)③支那にて喪式の時身をもだえて悲しむこと④足きりの刑を受けし者のはきもの⑤國訓をどり(樂曲にあはせてをどるまひ)

八 畫

踏

タフ

踏 踏 踏

ふむ(踏)あるく(歩)あしふみをする

踐

セン

踐 踐 踐

①ふむ(履)したがふ(從)其位につく、履行す、まもる(守)②つらなる(列)又その貌

踔

タク

踔 踔 踔

①はるか(遙)とほし(阜)②すぐる、まさる(優)③片足にて行くこと④こゆ(踰)⑤はしる(走)

躐

セキ

躐 躐 躐

①ふみこえる、ふむ②つゝしむ(敬)③すばやき貌

躑

キョ

躑 躑 躑

①膝を立ててすわる、うづくまる②こしかける

躑

チ

躑 躑 躑

行きなやむ、たちもとほる、しりごみする、ためらふ、躊躇

踣

イ キ

踣 踣 踣 踣

①あしなへ、ちんば口かたわれ、かた〜、ひとつささがし、けはし(峻)②よる(倚)③さはる、ふる(觸)

踣

シヨウ  
ウ

踣 踣 踣

踣の異體

九 畫

踣

ユ  
エウ

踣 踣 踣

①こす、こゆ、よぎる、とびこす、のりこす②またがる、わたる、又をかす(犯)③ます〜、はなはだ、いよ〜④はるか(遊)

踣

シヨウ

踣 踣 踣

踣

ク

踣 踣

①きびす(跟)くびす、かよといたる(至)②ふむ(踏)あとを追ふ③つく、ひきつく、接す④しきりに(頻)

踣

テフ

踣 踣 踣

①ふむ(履)②行く貌

踣

ジウ

踣 踣

ふむ(踏)ふみあらず、ふみにじる

踣

テイ

踣 踣

①獸の爪、ひづめ②あし(獸の足)③わな(兔置)

一〇 畫

蹇

ケン

蹇 蹇 蹇

①あしなへ、ちんば、びつこ②なやみ苦しむ貌③忠義を盡す④たかぶる、おごる(奢)⑤衣をからげる、か〜(掲)⑥ぬく(拔)⑦とどまる(停)⑧易の卦の名

蹇

タウ

蹇 蹇

①ふむ、ふみしだく、ふみつける②喜びて小をどりすること③實行す、ふみおこなふ

蹇

サ

蹇 蹇 蹇

①つまづく(蹇)つまづき倒れる②くひちがふ、時機を失ふ、又それ等のこと

蹇

ケイ

蹇 蹇 蹇

①こみち、小徑②わたる、すぐ(過)

蹇

サウ

蹇 蹇 蹇

①ふら〜と動く貌②巧みにたちまはる、舉動に威儀あるさま

蹇

セキ

蹇 蹇 蹇

ぬきあし、さしあし、又足をつままだて重ねる貌ともいふ

蹇

ヒツ

蹇 蹇 蹇

①さきばらひ、又それを行ふこと②天子の行幸

蹇

シユク  
ソク

蹇 蹇 蹇

①せまる、ちぢまる、又くるしむ②せばむ、ちぢめる、くるしめる、又追ひつめる③しかむ、しわをよせる④ける(蹠)

躑 セキ シヤク 躑 躑 躑 躑

①あとかた、あと(迹)②したがふ(從)

躡 セキ 躡 躡 躡 躡

①ふむ(履)②かよと、又足のうら

躡 シヤウ サウ 躡 躡 躡 躡

よるめく貌

躡 テキ 躡 躡

①たゞむ(付)足ずりする、又足ぶみす②ひづめ(躡)③なく、なげすてる

①あと、足跡、ゆくへ、あとかた②人の後に随ひ行く、追隨、又古人の事蹟③はなつ(縦)

一二畫

躡 ショウ 躡 躡 躡 躡

①しやがむ、ちづくまる(躡)②舞ふさま③行儀正しきあるきかた④あつむ(聚)

躡 シユク シウ 躡 躡 躡 躡

①ける、はねとばす②慣むさま③不安なるさま

躡 ケツ ケイ 躡 躡 躡 躡

①つまづく(躑)くつがへる(躑)やぶれる、くじける、蹠踏②つまづかす、やぶる、たふす③はね起る、とびたつ④ける(蹠)⑤敏捷なる貌⑥うごく(動)うごかす

躑 同 躑 躑

躑 ケウ キヤク 躑 躑 躑 躑

①あぐ、足をあげる②つよきさま③かんじき(履)わらぐつ(鞋)あしだ(履)④おごる貌⑤人名(楚の大盜)

一三畫

躑 サウ ソウ 躑 躑 躑 躑

さわがし、さわぐ

躑 ヘキ 躑 躑

あしなへ、むざり、腰ぬけ

躑 チヨク タク 躑 躑

①あぐ、行きなやむ、又あしづり②あと、あしあと、足迹③古人の行ひしあと、事蹟

躑 チヨ チヤク 躑 躑 躑 躑

①ためらふ②こゆ、あわて、飛越える

一四畫

躑 チウ 躑 躑 躑 躑

ためらふ、猶豫する

躑 セイ サイ 躑 躑

のぼす(登)のぼる

**躑** ヤク  
テキ  
とびあがる、をどる、身をふるはせてよろこぶ。心がうごく、勢がさかんになる、又それ等のこと。をどり、又はやく走る貌

一五畫

**躑** レフ  
ロフ  
こゆ(踰) ①ふむ(踐)

**躑** テキ  
躑 躑 躑  
躑 躑 躑

**躑** テ  
躑 躑 躑  
躑 躑 躑

**躑** テ  
躑 躑 躑  
躑 躑 躑

**躑** チユ  
ユウ  
つまづく(蹇)中途にてしくじる、やぶれる、頓挫す、又それ等のこと  
ためらふ(蹇)

一六一二〇畫

**躑** リン  
躑 躑 躑  
躑 躑 躑

**躑** セン  
躑 躑 躑  
躑 躑 躑

**躑** デフ  
躑 躑 躑  
躑 躑 躑

**躑** デフ  
躑 躑 躑  
躑 躑 躑

# 身部

**身** シン  
ケン  
①み、からだ、肉體、轉じて木の幹又は物の容積。自分、われ、みづから、又自己の意思言行。はらむ(孕)  
②身毒は天然(今の印度國) ③國訓み(し)むら、果瓜等

**躑** クワク  
躑 躑 躑  
躑 躑 躑

**躑** チヨク  
躑 躑 躑  
躑 躑 躑

あしざり、又あと

の内部の肉、蓋のある箱の物を容れる方をいふ、代名詞の第二人称

三一五畫

**躬** キユウ  
躬 躬 躬  
躬 躬 躬

**躑** 體の  
俗字  
躑 躑 躑  
躑 躑 躑

九一七畫

**躑** 國字  
躑 躑 躑  
躑 躑 躑

**躑** につけ、禮儀作法等を仕込む、又禮儀作法に適ふ身のこなし  
躑 躑 躑  
躑 躑 躑

からだ、み、むくろ(骸)

軀 國字 骸

●やがて、まもなく、其うちに、ほどなく(と)とりもなほさず、そのまゝに

車部

車 シヤ キヨ 車 車 車 車 車

①くるま(牛車・馬車・汽車・自動車・電車・荷車などの總稱)又回轉する輪の總稱(はぐき(轆) 國訓くるま(人力車の略、くるまの輪の形))

一 二 畫

軋 アツ 軋 軋 軋

①きしる、すれあふ(不和になること、反目する)

軌 キ 軌

①車の車輪の間(車)のあと、わだち(轍) ②みち、のり、きそく(した)がふ(循) ③よこしま(邪)

軍 クン グン 軍 軍

①いくさ、兵隊、支那周代の兵制にて兵士一萬二千五百人の稱(戰爭、陣どる、たむろす) ②罪を蒙り邊境の地に流されること ③宋代行政區劃の稱

三 畫

軌 ゲツ 軌 軌 軌

馬車の轆の端にあるくびきを支へる横木

軒 ケン 軒 軒 軒

●支那にて大夫以上の者が乗る車(あぐ(舉)あがる) ②ひさし、のき(たかし(高) 得意のさま、笑ふ貌) ③樂器を室の三面にかけること ④家、又家を敷へる語

四 畫

軛 ヤク 軛 軛

くびき、車の轆の横木に附屬し馬の首にあたる部分

軟 セン ナン 軟 軟

やはらか(柔)意思節操等がしつかりして居らぬ、やさしい、柔弱、又水に鐵物質が雜らぬこと

五 畫

軫 シン 軫 軫 軫

①車の箱の前後左右に取付たる横木(もとる(戻)むすぶ(結) ②まがる(曲) ③うれ(憂)いたむ(痛) ④車の多くある貌 ⑤星の名、二十八宿の一

軸 チク 軸 軸 軸

①車の輪の中心となつて轂をさへるもの、しんぼう、圓きもの又は巻物の中心にさす棒(かけもの、まきもの) ②活動又は回轉の中心、又物事の樞要なる地位(やむ(病) ③一つの圓形の各部が一つの直線に對して對稱状態にあるときの直線の稱(物體が一直線上にて回轉する時の直線、又は其に相當する假設線) 國訓ちく(俳句・川柳などの評點者の句、筆の柄・草の莖・羽莖等の稱、巻物を敷へるにいふ語)

軛 シ 軛 軛

①車の軸の端②車旁の木を組み立てる縦の木

軻 カ 軻 軻 軻

③車の進み難き貌④思ふまゝにならぬ貌⑤人名(孟子)

軼 イツ テツ 軼 軼 軼 軼

①すぐ(過)ぬく(抜)車にて走りすぎる②をかす(侵)おちる(落)ぬける、ちる③たがひに(逃)④わだち(轍)

六 畫

軾 シヨク シキ

軾 軾 軾 軾

①車の前の横木②車中の横木に伏して敬禮を行ふこと

輅 カク カウ

輅 輅

①車の箱の左右の板の上に曲り出たる部分にて車中に立つ時につかまる所②車の箱、人の乗る所③あらそふ(争)きそふ(競)④くらぶ(較)⑤や、ほゞ⑥あきらかなる貌

輅 ロ ヲク カク ラク 輅 輅 輅 輅

①くるま、大なる車②おほいなり(大)③天子の服御の物に冠する語④むかふ(迎)⑤人力にてひく小車

輅 チウ 輅

①ながえ(輅)主として人を乗せる馬車にしかけたるながえ②つよし(輅)

輅 サイ 輅 輅 輅 輅

①のす(乗)うける(受)②用意す、もつ(持)又書きしるす③のる、のぼる④はじめて(始)はじめ、はじまる、はじむ⑤すなはち(則)⑥みつ(滿)⑦こと(事業)⑧ふみ、書物、文書⑨盟約の文書⑩とし(歳)

輅 チ 輅 輅 輅

七 畫

輅 テフ 輅 輅 輅

①車箱の兩傍の板をはめたる部分②すなはち(則)③たやすく、容易に④直立して動かぬ貌

輅 ベン 輅 輅 輅 輅

①ひく、前方より曳く、人を舉用す②人の死を悼む詞

輅 ホ フ 輅 輅

①ほゞばね(頰骨)②車のそへぎ、又積荷の落ちることを防ぐため輿の兩傍につける板、或は車の輾の下にはめこみて動かぬやうにするものともいふ③たすく(扶)④たすけ、そへ、副介⑤帝都に近き地

輅 ケイ 輅 輅 輅 輅

①かるし、ひくい、いやしい、てがる、たらぬ②かるんず、あなどる、いやしむ③少くする、かるくす、へらす④かるきこと、又かるきもの⑤かるはづみ、かるがろし、そゝつかしい、あさはかなり⑥むやみに、かるくしく、容易に

八 畫

輅 ゲイ 輅 輅

①半車の輾の端にあり輾をしばるもの

輅 リヤウ 輅 輅

車の敷を示す数詞、又俗に車

輻 シ 福 福 福 福

①にぐるま、荷物又兵糧などを載せる車②ほろぐるま、おほひある車③車輻の敷に入る部分の稱

輝 キ 輝 輝 輝 輝

①かじやく、かじやくかす、光を發す②かじやく、ひかり

輞 マウ 輞

は、車輪の外周を包むたが、車のは

輳 テツ 輳 輳 輳 輳

とむむ、やむ、とまる(止)

輳 レン 輳 輳 輳 輳

①てぐるま、特に天子の御車②てぐるまにてひく③國訓てごし(手でかく輿)

輦 ハイ 輦 輦 輦 輦

①ともがら、やから、同輩、なかま、比類②ついで、順序③ならぶ(班)くらぶ(比)

輪 リン 輪 輪 輪 輪

①わ、車の輪、又車、總て廻轉する装置のもの②まるくめぐる、又そのさま③高大なるさま④たて、南北のひろさ⑤車を造る人⑥花の大き、りん、又花を敷へる語

輟 シツ 輟 輟 輟 輟

①あつむ(蒐)をさめる、あつめよせる、書物の材料をあつめる②あつまる、より合ふ③やはらぐ(和)むつまじくす④愛嬌よく物を言ふ

九 畫

一〇 畫

輶 イウ

輶 輶 輶 輶 輶

①かろし(輕)②かるき車

輸 シユ

輸 輸 輸 輸 輸

①いたす(致)つくす②おくる(送)③やぶる(破)④まける、まけ(敗)⑤勝負(主としてかけこといふ)⑥にもつ、おくる物品

輹 フク

輹 輹

車の心棒を縛りつけるもの

輳 フク

輳 輳 輳

や、車のや、車の敷と輪とをさゝへる木

輳 テン

輳 輳

①まろぶ(轉)めぐる②さしる(轆)

輿 ヨ

輿 輿 輿 輿 輿

①こし、車上の箱、轉じて物事の基礎の意、のりもの、くるま②になふ(荷)おふ(負)③こもの、めしつかひ④つち(地)⑤はじまる(始)⑥おほし(衆)⑦こしを造る人⑧てごし、兩手にて昇ぐこし

輳 コク

輳 輳 輳 輳 輳

①こしき、車輪の中心となれるもの②くるま(車)③人をすゝめ用ゐること④しめくゝる

輳 カツ

輳 輳 輳 輳 輳

①車輪が軸より抜け離れぬやう軸端の穴にさしこむもの、くさび②とりしまる、物事のとりしまり③車の聲

轆 エン 轆 轆 轆

車のかちぼう、ながえ

一一一畫

轆 ロク 轆 轆 轆

①轆轆は圓木を回轉させ重き物を軽く動かす仕掛、又其器②車の走る音の形容

轉 テン 轉 轉

①まろぶ、ころぶ、たふれる、こける、ひるがへる(轆)②めぐる(回)かはる(變)うつる、又間接の意③うたゝ、いやましに、いとゞ④ころばす、かへす、たふす、まはす⑤道家にて長生不死の薬を煉ること⑥衣類をいれる薬

一二畫

轆 テツ 轆

①わだち、車輪のあと②過ぎ去つた事柄のあとかた

轆 ケフ 轆 轆 轆

①かご、山かご、たけごし②あげごし、又ひつぎぐるま

轆 リン 轆

①きしる(軌)②車のきしる音の形容③盛んなるさま④かどぐち

一三一六畫

轆 カン 轆 轆 轆

①車の進み難きこと②意の如くならず、不平に堪へぬさま

車轆 クワウ カウ 車轆 ガウ

①とどろく(轟)多くの車のごろ／＼ひびく聲、大砲雷鳴等が鳴りひびく、又名聲がひろまる、驚き又は心配して胸がおどるさま②とどろかす、ひろめる③とどろき、ひびき

轆 ヒ 轆 轆 轆

①たづな、馬の轡に取りつけて馬をつかふ綱②國訓くつわ(馬の口に食ませる具)

轆 レキ ラク 轆 ラツ

①きしる(軌)互にくみあふ、仲たがひする、反目する②車が踐みにじる

轆 ロ 轆

①絶えずつゞくさま②轆轆は器の名、起重機の類

辛部

辛 シン 辛 辛 辛

①からし(五味の一)むごい、ひどい、くるしい、つらい②からみ、からい味③十千の第八位、かのと④あたらし(新)⑤國訓からし(からみのある一種の野菜)から(からうじて、やつと)

五一六畫

辛 辛 辛 辛



①とが、つみ(罪)②神を祭る時犠牲を殺しさらすこと  
③かならず(必)④そむく

辟 ヘキ ヒ  
解 解 解

⑤きみ、君主、天子、又諸侯の敬稱⑥のり、法律、おきて⑦めす、召し出す⑧かたよる(偏)よこしま、ひがむ(僻)一方に偏して中正を缺く、へんびの土地⑨つみ、つみす、處罰⑩ひらく(開)土地を開墾する、ひらける、又よけさせる⑪むねうつ、悲しみて胸をたたく⑫みざり(聲)⑬雷のとどろく⑭辟⑮よける、さく(避)さがる⑯たとへば(譬)⑰ならむ(譬)

七一九畫

辣 ラツ  
辣 辣 辣

からし、味が辛い、きびしい、むら

辨 ベン  
辨 辨

①つとむ(力)又その人②そなふ(具)調へる

辨 ベン  
辨 辨 辨

③わかまふ、わかたつ、區別す、考へ定む④わかまへ、わかち⑤そなふ(辦)⑥古の辨官の略語

一二一四畫

辭 ジ  
辭 辭 辭

⑦ことば、言語、ふみ、文章、美文韻文等の詞⑧ことわる、謝す、禮をいふ、又いなむ、應ぜぬ、受けぬ、やめる⑨別れを告げる、暇乞する⑩文體の一

辨 ベン  
辨 辨 辨

辰部

辰 シン  
辰 辰 辰 辰

①十二支の一、たつ、方角は東南、時刻は今の午前八時②えと、十二支③日月星辰の總稱、又日月の交會する所④ひ(日)子の日より亥の日に至る十二日⑤とき、時刻、時節⑥星の名、北極星、大火星

三一六畫

辱 ジヨク ニク  
辱

農 ノウ  
農 農 農

①田畑の仕事、又百姓②つとむ(勉)

走部

走 シ  
走

③なべる(滑)位を退く、退出す、居ながらにじり移る、失脚す

一一二畫

込 國字

込 込

こむ、こもる、やる、入る、雜鬧す、群集す、事が多い、せまる(迫)手数がかゝる、又それ等のこと

辻 國字

辻 辻

つじ、ちまた、十字街、みちばた、路傍

三 畫

迪 テン

迪

①たどる、ゆる／＼ある／＼ 國訓たどる(探りながら行く、次から次へと考へ求める)

近 ウ

近 近

①とほし(遠)うとい、まはりどほい、又それらのこと  
②まがる(曲)まぐ③や(良)すこし

迄 キツ

迄 迄

①まで、いたる(至)いたるまで②つひに(竟)

迅 シン

迅 迅

すみやか(速)はやし、とし

四 畫

迪 チュン

迪

進まぬ貌、たちもとほる

迎 ゲイ

迎 迎

むかふ、てむかへる、未來を待受け、人の氣に入るやう努める、又それらのこと

近 キン

近 近

斜につらなるさま

たかし(高)とほし(遠)又その貌

迄 タイ

迄

斜につらなるさま

回 ケイ

回 回

とほし(遠)はるか(遙)又其こま

迎 ケカ

迎 迎

①釋迦は佛の名②梵語の「カ」音をあらはすに用ゐる字

迄 ダイ

迄 迄

いたる(迄)およぶ(逮)

迪 テキ

迪 迪

五 畫

迪 國字

迪 迪

①とて、といつて、さりながら、とも②到底、とても

返 ハン

返 返

①もどる、かへる、去る、回復す、再來す②もどす、かへす③度敷をあらはす語、たび④國訓かへる(反對になる、うらはらになる)かへす(借物をもどす、こたへる、返事をする)かへし(こたへ、へんじ、かへりごと、おくられし歌に對して歌で答へること、又其歌)

返 ハン

返 返

①ちかし、よく似て居る、時間又は距離が少い、分り易い、あさはかである、したしい(親)よくあてはまる、それらの副詞、ちかく②君主の左右の侍者③みより、親戚

返 ハン

返 返

①このごろ、ちかごろ②側によせる、ちかづく、親しむ

迢 テフ

迢 迢

走部 返・迎・迢・迨・迥・迤・迨・迪

①ふむ(蹈)實行す②みち、道德③みちびく(導)④いたる(至)

追 ハク 追 追 追

①ちかづく、せまる、きはまる、くるしむ(窘)②迫り苦しめる、縮む③急ぐ、きりつまる

送 テツ イツ 送 送 送

①かける、たがひに②かはりあふ、たがひにすかたみにする③すぐ(軼)をかしゆく④にぐ(逸)

逃 逃の 俗字 逃

迹 シユツ ジユツ 迹 迹 迹

のぶ(陳)依りしたがふ、意見をのべる、説をかき記す、又それらのこと

六 畫

廻 クワイ エ 廻 廻 廻

①めぐる、かへる②よこしま③そむく

迷 メイ 迷 迷 迷

①まどひ、まよひ、疑惑、又まどふ、まよふ、わき道に入りてさまよふ②まよはず、まどはず、横道に引入れる③明かならぬ貌

送 ハウ ヘイ 送

①ほとばしる、ほとばしらす②はしる(走)はしらす③しりぞく、退散させる

迹 セキ 迹 迹 迹

①あと、あしあと、あとかた、成績、先例②たづね、たづねる、あとを追ふ

追 ツキ タイ 追 追 追

①おふ(逐)おひのける、おひはらふ、又おひつく、既往にさかのぼる②ついて、つづいて③釣鐘を懸ける紐④みがく(琢磨)

退 タイ 退 退 退

①しりぞく、しざる、さがる、へりくだる、ゆづる、まかる、まかり出る、官職などを辭す、世をのがれる②おとす、さげる、とほさける③へる(減)又氣を弱くもつ

送 ソウ 送 送 送

①おくる、つかはす(遣)やる、人を見おくる、さしこむ②おくりもの(贈品)又みおくり

适 クワツ 适

①はやし(疾)②人名(魯の大夫)

逃 タウ 逃 逃 逃

にぐ、のがる、にげさる、脱す、まぬかれる、まじろぐ、よける(避)たちさる

送 コウ 送 送 送

あふ(選)めぐりあふ

逆 ゲキ ギヤク 逆 逆 逆

①さかふ、順はぬこと、さからふ、てむかひす、そむく(反)たがふ②さかさま、反對、轉倒③道德にそむく、道を守らぬ者、又その者④むかふ(迎)まちまうける、推測す⑤前以て、あらかじめ

七 畫

逋 \* 逋 逋 逋

①にげる、のがる、にげかくれる、又脱税②未納の税金、賦税のおひめ

道 セウ 道 道 道

道邊はぶらつく、散歩すること

透 トウ 透 透 透

①すく、とほる、すきとほる②すかす、とほす、通過させる

逐 チク 逐 逐 逐

①おふ、おひかける、おひはらふ、おひまくる、つきまどふ②放つ、斥ける③あらそふ(争)きそふ④ともに行く、あとをつける⑤おはる、放される、出される⑥物一つく数へる

逡 キウ 逡

①あひて、つれあひ、配偶②あつめる、一致させる

途 ツト 途 途 途

みち、道路

逡 ケイ 逡 逡

①こみち、徑路②いたる(至)みちす、こみちを通る③みち、門前の路④ちかし(近)眞直でみじかい

逡 テキ 逡

①とほし(遠)②とほざく、遠ざかる

逗 トウ 逗

とどまる(止)

這 ゲン レヤ 這

①むかふ(迎)②この、これ(是)③國訓はふ(はらばふ、蟲がある)

通 ツウ ツウ 通

①とほる、いたる(至)およぶ(及)ゆきわたる、とどこほらぬ、つらぬきとほる、すぎる(過)②ゆきかふ、かよふ、往來す③とほし、通過せしむ、かよはす④あきらかに知る⑤すべく、る⑥傳へて知らしむ、又のべつげる⑦さしまねく、すべて⑧したしむ(親)⑨男女がひそかに情を通すること⑩文書又は手紙等を敷へる語⑪つら(人情)にさしく遊藝・花柳界の事などに明るきこと⑫合格すること⑬みちすぢ⑭つゞける⑮しげく行く、どちらにもあてはまる、にる(似)⑯商人が注文

品の種類目及代價をしるす帳面、通帳、かよひ

逡 セイ 逡 逡 逡

①ゆく(行)すぐ(過)さる(去)すむ(進)又死ぬこと②發語の辭、こゝに

逡 テイ 逡

①たくまし、たくましくす②こゝろよし(快)③ゆるめる(緩)のぶ④しめ括る(檢束)

逡 ソク 逡 逡 逡

①はやし、すみやか、とし②はやめる、すみやかにす、いそぐ(急)③すみやかに、早く、いそいで④めす(任)まねく(招)よぶ(呼)

① つくる、こしらへる(拵)② はじむ、はじめて(始)③ きたる(來)いたる(至)出頭する、きはめる④ しあげる、成就す⑤ とき(時)時世、時代⑥ 國訓みやこ(朝廷に奉仕する文武百官の總稱)

送 シュン 送 送 送 送

しりぞく、しざる、しりごみ

逢 ホウ 逢 逢 逢 逢

① あふ(會)であふ(遇)② むかふ(迎)③ おほいな(大)④ 受身の助動詞、らる

連 レン 連 連 連 連

① つらぬ、つゞける、ならべる(並)② つらなる、かゝりあふ③ つゞく(續)永くつゞく④ つゞきあひ、親類⑤ 周制にて十國を連と稱す⑥ しきりに(頻)つゞけさま⑦ 國訓むらじ(古昔の八姓の一)つれ(同伴者)

八 畫

送 送 送 送

送に 同じ

送 クワン 送 送 送 送

にげる、のがる

逮 タイ テイ 逮 逮 逮 逮

① およぶ(追)たつす(連)いたる(至)② およぼす、達せしむ③ およ(追)④ おだやかなる貌

週 シウ 週 週 週 週

① まはり(周)めぐり、主に時間に關係する場合に用ゐる(七日を一週といふ類)② 日・月・火・水・木・金・土の七曜日、一まはり

進 シン 進 進 進 進

① すゝむ、のり出す、前へ出る、すゝめる② 擧げて用ゐる、又擧げ用ゐらる、仕官する③ 登る、のぼす、又良くなる、よくす、加へる④ よせる、ちかづける⑤ たてまつる、獻ず⑥ 仕官して俸祿を受ける⑦ しんもつ(進物)おくりもの

送 キ 送 送 送 送

おほぢ(九達する道路)又車九輛をならべて通行し得る大道、都會の大通り

送 送 送 送 送

計に行く貌

逸 イツ イチ 逸 逸 逸 逸

① あやまる、あやまつ(過)あやまち、過失② にげる(逃)はしる(奔)③ かくれ人、世に現はれぬ人④ すぐれる、又すぐれたる人⑤ かくれる、世に知れぬ⑥ 安んじ樂し

九 畫

逼 ヒヨク ヒキ フク ヒツ 逼 逼 逼 逼 逼

① ちかづく、せまる、をかす(侵)② 痛切なる感を與へる③ 強いて行はしめる、無理に勤める④ つまる、おしつまる、手づまる、土地などがせままる

逾 ユ 逾 逾 逾 逾

① こす、こゆ(越)すぎる(過)わたる(渡)② ます〜、いよ〜(愈)

遁 トン ドン シュン 遁 遁 遁 遁

① にげる、のがる、にげかくれる、さける(避)たつ(絶)又それ等のこと② めぐる(巡)③ しざる(送)

遂 スキ 遂 遂 遂

①つひに、其結果①とぐ、しとげる、かなふ、をへる  
②そだつ、生育③すゝむ(進)ひきあげ用ゐる、前へ出  
る④のびくしたるさま⑤ためらふ、ぐづくする⑥  
もつばらにす(專)⑦周代の田制に於ける小溝の稱⑧周  
代の行政區劃の名(王城から百里以外の地)

遑 セン 遑

すみやかに、しばし

遇 グ 遇 遇 遇

①あふ(逢)ぶつかる、てくはす、たま〜あふ②時め  
く、時世にかなふ、又それ等のこと③もてなす、もて  
なし、取扱ふ④たま〜(偶)⑤受動の助動詞、らる(被)

運 ウン 運 運 運

①めぐる(旋)まはる(回)めぐらす、回轉させる②又工  
夫する、はたらかす③はこぶ、うつす(移)④めぐりあは  
せ、まはりあはせ⑤土地の南北の稱(東西を廣といふ)

遠 テイ 遠 遠 遠

①うかどふ(偵)②國訓さすが(流石)

遊 イウ 遊 遊 遊

①あそぶ、たのしみなぐさむ、他郷に出る、無職で居  
る、ひまで居る、友とし交はる、所屬なく離れちる②  
あそびす、たのしみます③あそび、なぐさみ、ひま④自  
説を説きまはる、遊説⑤ともだち、朋友⑥たび(旅)⑦  
遊と通じて用ゐる、今は遊を「およぐ」とのみ訓む

遍 ヘン 遍 遍 遍

①あまねし(徧)②たび(度)回数を示す語

過 クワ 過 過 過

①すぐ、あまる、度を超える、まさる②すすごす、餘計  
になる、又すぎたこと③あやまり、あやまち、過失、  
つみ、とが④あやまる、あやまつ⑤せむ、とがむ⑥と  
ほる(通)へる(經)通過する⑦たちきる、よぎる⑧すすぎ  
さりし時、過去

遏 アツ 遏 遏 遏

①とどむ、やむ(止)やめる(停)禁ず、ひきとめる②と  
どまる、停止す

遐 カ 遐 遐 遐

①とほし(遠)はるか(遙)②いづくんぞ、なんぞ

迨 クワウ 迨 迨 迨

①いとま、ひま、心のゆつくりせること②あわてる(皇)  
おちつかぬ貌、又ひまなき貌

道 シウ 道 道 道

①せまる(迫)②かたし(固)③あつまる(聚)④つく(盡)  
⑤つよし(勁)

道 タウ ドウ 道 道 道

①みち、みちすぢ、守り行ふべき條理②學問・技藝・禮  
樂・刑政等③方法、しかた、やりかた④老子の教、道教  
⑤したがつ(順)⑥行政上の區劃にして唐代には天下を  
分ちて十道とせし稱⑦一篇の文章⑧いふ(言)⑨よる  
(由)したがふ⑩から、より(從)⑪をさむ(治)⑫みちび  
く(導)

達 タツ 達 達 達

①いたる(至)つく(著)およぶ(及)②おくりつける、と  
どける(届)③とほる(通)行きわたる④とほす、心の通  
りにする⑤世に知られる、あらはれる、さかえる⑥人

を擧用す①さとの(覺)物事によく馴れる、又そのこと  
②わがまゝ、ほしいまゝ③人員の複数を示すことば、  
だち、ら、ども④官より申しわたす、又そのこと

遼 十 遼 遼 遼

①ちがふ、たがふ、もとの(悖)そむく(叛)②さる(去)  
さける(避)にげる(逃)遼さがる、離れる③ちがひ、差  
異④よこしま(邪)

通 國字 通 通

あつばれ、讀數のことば

一〇畫

遘 一〇畫 遘 遘 遘

あふ(遇)てくはず

遼 エウ 遼 遼 遼

①はるか、遠くへだゝる②さまよふ、ぶらぶら歩く③  
はるかに④國訓かけはなれて、より以上に

遼 ソン 遼 遼

①にげる、のがる(通)②ゆづる(讓)③へりくだる(謙)  
④したがふ(順)つゝしむ(敬)

遼 テイ 遼 遼

①かはるゝ、たがひに②交互にす、かたみになす③  
次へ〜と傳へ送る、又其馬車・人夫等④つぎば、し  
ゆくば、傳驛

遼 ャン 遼 遼

①とほし、おくぶかい、時間又は距離が長い、親しく  
ない、うとい、かけはなれる、又それらのこと②とほ  
く、ながく③おひのける、とほざける④とほざかる、  
とほのく、はなれる

遼 ソ 遼 遼 遼

①さかのぼる、過去をたどる②水流に順ひ下る③うつ  
たふ(懸)

遼 ケン 遼 遼 遼

①やる、はなつ(放)おくる(送)おふ(逐)離縁する、は  
らす(晴)もらす(漏)②つかはす、やる、さし立てる③  
しむ(使、令)せしむ④葬式の時君主より物を下賜せら  
れること⑤國訓つかはす(與へる、してやる)つかふ(使  
用する)

一一畫

遼 ガウ 遼 遼

あそぶ(遊)

遼 セキ テキ タク 遼 遼 遼

①行く(行)おもむく(赴)いたる(至)歸す、とつぐ(繼)  
②あてはまる、かなふ、又自得する、任意③まさに、  
たま〜④つねに(恒)おわづかに、たゞ⑤あと〜り、  
よつぎ(適)⑥もつぱら(專)其事に熱中す⑦驚く貌⑧せ  
む(適)

遼 サウ 遼 遼

①あふ(遇)②めぐる(巡)③せらる、らる④回数をあ  
らす語、たび(次)

遼 シヤ 遼 遼 遼

①とどめる、さへぎる、蔽ひ隠す、へだつ(隔)たちふ  
さがる②この、これ(俗語の這に通ず)

遼 遁の 本字 遼

一二畫

遯 チ 遯 遯 遯

①おそし、にぶい(鈍)のろい②おそくなる、おくれる、又ゆるくす③ころほひ、ころ、其時④まつ(待)⑤そこで、すなはち(乃)

遷 セン 遷 遷 遷

うつす、うつる、かへる(易)あらためる(改)又罪してしまながしにする

遯 リン 遯

①はどかる、かたんず(難)又行き悩む②むさぼる(吝)③えらむ(選)

遯 ジュン 遯

したがふ(服)より沿ふ、従ひまもる

遯 セウ 遯

めぐらす(繞)めぐる、かこむ(圍)

選 セン 選 選 選

①よる、えらぶ、えりとる②抜きえらびて任用す、又其者③しばらく(少時)かぞふ(算)

遯 イツ 遯

したがふ(循)②發語の助辭、こゝに③よこしま(邪)

遺 キ 遺 遺 遺

①わする(忘)すてる(棄)とりおとす、もらす(漏)見はなす、關係をたつ②のこる(殘)もれる、あまる(餘)おちる(落)③のこす、後にとゞめる④ゆばり、いばり、小使⑤おつ、おとす(落)又そのもの⑥おくる(贈)つかはす

遼 レウ 遼 遼

①はるか(遼)とほし(遠)ひさし(久)②朝の名(契丹種族の立てし國にて趙宋に對立し九主二百九十三年にして金に亡されしもの)③川の名(盛京省奉天を経て海に注ぐ)

一三畫

遼 キヨ 遼 遼

①あわたゞしく、にはかに②あはてる、おそれおのゝく③はや馬、驃馬、はいま、又はやかし

遯 ヒ 遯 遯 遯

にげさる、さく、さる(去)かくれる(隱)はづす、のがれる(遁)忘み遠ざかる、いとふ(厭)

遯 エウ 遯 遯 遯

むかふ(迎)よぶ(呼)まねく(招)道ならぬ物を受けると

遯 イ 遯 遯 遯

①ゆく、さる(去)月日がたつ②つとむ(勞)はげ

遯 カイ 遯 遯 遯

あふ(遭)思ひがけなく人に出逢ふ、めぐりあひ

還 クワン 還 還 還

①かへる、もどる(戻)ふりかへる②かへす、もどす、つぐなふ(償)③かへつて(卻)然るに之に反して④めぐらす(環)めぐる⑤以還・而還等と連用してこのかたとよむ⑥すなはち(即)⑦また(又)また⑧挙動の敏捷なること

遯 スキ 遯 遯 遯



とほし(遠)ふかし(深)くはしい(詳)道理等の玄妙なる

一四一一九畫

通

ジ

通

①ちかし(近)みちかい(短)通俗である②ちかづく、ちかよる、距離を短くす③近き所④ちかまの者

邊

バク  
マク

邊

①とほし、はるか、又そのさま②かるんず(輕)あなどる、しのぐ(凌)③愁へる貌

邊

ヘン

邊

①あたり、ほとり、ちかま②きし(岸)くにざかひ(國境)かたるな(僻邑)はて(涯)方面③國境のまもり④ちかし(近)⑤多角形をとりまきたる線

遷

ラ

遷

①めぐる(巡)とりまく(回繞)見まはる、巡察す②みまはり、巡查③山をとりかこむ煙・霞・雲・霧の類

邑部

邑

イフ  
オフ

邑

①むら、人家の集合せる大なる里②天子直轄の領分、又ひろく領地・知行所等の意③微弱なる貌④うれへる(悒)又その貌⑤國訓おぼざと(字畫の旁となつての形をなす時の稱)

三一四畫

邕

ヨウ

邕

①やはらぐ(雍)②ふさぐ(雍)③人名(東漢の學者)

邛

キョウ

邛

①やむ(病)つかる(勞)②地名(四川省寧遠府境)

邗

ナ

邗

①いかなぞ、なんぞ、何とて②いかな(奈)奈何、如何③いかなせん、いかにす④おほし(多)⑤やすし(安)⑥あの、かの⑦いづれ、なに(何)⑧語勢を助けるに添へる無意味の字

邦

ハウ  
ホウ

邦

①くに(國)天子より下賜されし土地、封土②領地をあてがふ、くにす、封ず、又領地を占有する

邑部 邕・邛・邗・邙・邙・邙部

邙

村に  
同じ

邙

五畫

邙

ジャヤ

邙

①よこしま、ゆがむ(歪)ねぢける、又其人②有害なる物ごと、不祥事、あしき事③な、め(斜)④疑問又は詰問の辭、か、や(耶)

邙

カン

邙

①地名(戰國時代の趙の都、今の直隸省大名道に屬す)②人名(秦の二世皇帝の將、章邯)

邙

タイ

邙

國名(周の先祖后稷の始めて封ぜられし所にして今の陝西省武功縣の地)

邱

キウ

邱

郈

ヘイ

郈

鄆

セウ

鄆

郕

テイ

郕

邾

チユ

邾

①をか(丘の假用)②地名③姓名(左傳の作者の左丘明)

④地名(鄭の地)⑤人の姓(漢の丙吉)⑥よろこぶ貌

人の姓(召公)

①やしき、第宅(特に諸侯又は高位の人の宅)宿舎②第宅を構へた地所、宅地③そこもと

六 畫

春秋時代の小國(後に郚と改めしものにて今の山東省鄆縣の地)

郚

イク

郚

①文運の盛んなるさま②香氣の盛んなる貌③花が美しく開きて香を放つさま

郛

シツ

郛

①人の姓②いたる(至)のぼる(登)

郞

カウ

郞

①んなか、都のそと、郭外、さかひ(境)(周制にて國都を距ること五十里以内を近郊百里以内を遠郊といふ)②町はづれ③たんぼ、はら④天地のまつり(支那にて冬至の時天子親ら南の郊外に至りて天を祭り夏至の時北の郊外に至りて地を祭りしこと)又そのまつりを行ふ

七 畫

郚

カウ コウ

郚

(もと文王の子の封ぜられた所にして春秋時代には宋に屬す、今の山東省城武縣内)

郕

ラウ

郕

①魯の地名②つかさ、役人、又官名(秦のとき宿衛を掌りしもの)後に尙書を助けるものとなりてより侍郎といふ、我が國の次官に相當す③をとこ(男)④をつと、婦人が其夫を呼ぶ語⑤だんな、めしつかひが主人を呼ぶ語⑥男子のよび名に添へて用ゐる語

郕

カフ

郕

地名(周の成王が寶鼎を此地に定めて將來を卜したる所にして今の河南省洛陽縣内)

郕

ゲン

郕

郕

エイ

郕

①周以來宋以前までの行政上の區劃の稱②國訓こほり(國又は府縣の下にして村の上にある區劃の名)地名(春秋時代の楚國の都にして淫猥の風の盛んなりしたため有名なりし所、今の湖北省江陵縣内)

八 畫

郕

ベ

郕

郕

クワク

郕

郕

クワク

郕

①都の外周を圍ふ壁、くるわ、そとぐるわ(都)そとまはり、かこひ、縁周(鄒)國訓くるわ(いろざと、遊里)

鄒 タン

春秋時代の國の名(今の山東省鄒城縣の地)

郵 イウ

①傳達を取次ぐために設置した飛脚發着所、しゆくば、しゆくつき(郵)とがむ(尤)とが(罪過)②政府にて營む文書物品の運送制度、又其文書物品の類

九 畫

都 ツト

①宮城のある首府、みやこ(周制にては諸侯の一族及卿大夫の封邑をもいふ)②みやこす、都を築め設けること③周代行政上の區劃の稱で邑より大なるもの④みやびやか(上品)⑤嘆美の語、あゝ(をる)居(其地位に居る)⑥すぶ(統)すべをさめる(治)すべて、ことごとく(悉)

鄆 ガク

①外部に見はれる貌(鄆)おどろく(愕)②正直にいひ争ふ貌③春秋時代の楚の地名(今の湖北省武昌縣内)

一〇 畫

鄆 シウ

①魯の國の名(孟子の生れし所にして今の山東省兗州府の内)②人の姓(漢景帝時代の學者)

郷 キヤウ

①さと、むらざと、みなか(田舎)周代の行政區劃の名にして一萬二千五百家(郷)ふるさと、生地(郷)ところ、場所(郷)ひびき(響)②響に通じ用ゐる(郷)さきに(響)往日(郷)むかふ(向)

一一 畫

鄆 ヒ

①ひな、かたゐなな、田舎、又風俗などのひなびたること②いやしむ、みさげる、きたない、心がいやしい、又いやしとす(郷)いやし、いやしきもの③自分のことに冠していふ謙辭

鄆 キン

漢代の地名(今の浙江省寧波府内の地)

一二 畫

鄆 トウ

①春秋時代の國の名(今の湖北省襄陽縣内)②人の姓

鄆 テイ

①春秋時代の國の名(今の河南省新鄆縣内の地)②隋末の王世充の建てたる國の名③鄭重はしば(郷)又ねんごろ(郷)

鄆 リン

①となり、連接せる物事又は所、きんじよ、ちかく、又つれ(郷)となりす、となる、連接す②周代の行政區劃の名にして五家の稱③車のとゞろく聲の形容

鄆 ハ

鄆陽は地名 今の江西省饒州府又湖名

鄆 タン

鄆郷は都名

# 酉部

酉

イフ

酉 酉 酉

①とり、十二支の第十位、季節にては仲秋、方角にては西方、時刻にては午後六時より八時迄に相當する。國訓ひよみのとり（漢字畫上左旁にある時の稱、とりへん）

## 二一三畫

酌

テイ

酌

酌

酌

系ふ、大いに酒に酔ふ、酌酌

酌

シヤク

酌

酌

酌

①さけ②さかもり、さけを飲む

## 四一五畫

醜

タン

醜

醜

醜

①ふける、酒に溺れること②一種の毒鳥③鳩に通ず

醜

ダ

醜

系ふ、酒に酔ひて顔が赤くなるさま

醜

ソ

醜

醜

醜

①す、酸味漿、醋に作る②すし、味がすい、すみ③むくゆ、主人に返杯する（主人が客に返杯するを酬といふ）

醜

カン

醜

醜

醜

①さけ（酒）②くむ、酒をつぐ、しやくをする、又酒を飲む、さかもり③水をしやくふ、すくふ、くみとる、彼此照しあはせて取捨す

配

ハイ

配

配

配

①ならぶ（排）あふ（合）つゐになる、夫婦になる②ならべる、あはす、對にする③他の神佛を合せ祀る④夫婦、つれあひ⑤わかづ、くばる、まくばる、わりあてる、諸方に及ぼす⑥ながす（流）鳥ながし、又それ等のこと⑦従へる、つける

配

イ

配

①米にて造りし清酒、又黍にて造りしすみたる粥ともいふ②米の餅

酒

シニ

酒

酒

酒

酒

①たけなは、酒宴のさかり、轉じて物事の最中の時、又物事のさかり過ぎてまだ衰へぬ時②酒を飲み機嫌よき貌③風景がのび／＼して爽快なる貌④花の開き盛るさま

醜

コ

醜

醜

醜

①ひとよさけ、一夜づくりの酒②うる（賣）酒を賣る③かふ（買）酒を買ふ

## 六畫

醜

メイ

醜

醜

醜

①系ふ、酒に酔ふ、泥酔②あまざけ、甘酒、醜

醜

ラク

醜

醜

①牛・羊・馬などの乳にて造りし滋養飲料②果樹の汁より造つた飲料

酬

シウ  
酬 酬 酬

①むくゆ、主人が客に杯をかへすこと、轉じて報ず、かへす、謝禮す、又手紙などにて返事をする②むくい、返事、かへし

七 畫

醒

テイ  
醒 醒 醒

わるよひ、ふつかをひ、宿醉

酴

ド ト  
酴 酴

①にこりざけ、どぶろく、もろみざけ②もと、酒のもと

醕

カウ  
醕 醕

①わく、酒の出来る時わきたつこと②さけのもと、酒母③かす(糟)酒のかす

醎

コク  
醎 醎 醎

①はげし、酒の氣がはげしい、轉じてきびし(嚴)むこい、又それ等のこと②はなはだ(甚)はなはだし③うらみ(恨)

醑

サン  
醑 醑 醑

①す、すい味ある漿液の總稱②すし、すつばい③いたむ、かなしむ(哀)④いたまし、つらい⑤酸素の略

醅

ライ  
醅 醅

醅 醅

そとぐ、酒を地にそとぎ神を祭る

醕

ホ  
醕 醕

①天子が人民に酒食を下賜せられること、又その酒食、賜饌②國家の慶事を祝して國民が集り酒を飲むこと

八 畫

醎

リヨク  
醎 醎

よいさけ、うまさけ、芳醇

醎

ラン  
醎 醎

①ほしがき②桃のつけ物③國調さはす(柿の澁をぬく、水に浸して酒す)

醎

エン  
醎 醎

①鹽につける(鹽藏)又其漬物②鹽藏の魚

醎

ハイ  
醎 醎

①わく、醱酵する②にこりざけ、どぶろく、もろみざけ

醇

ジュン  
醇 醇 醇

①こし(濃)酒の味が濃厚である、又其酒②もつばら(純)純粹である③あつし(淳)丁寧である④うやく(しい、謹慎)

醇

スキ  
醇 醇

①まふ、酒にまふ、舟車其他すべて物にまふこと、物事に心を察はれる、まどふ(惑)まよふ(迷)②まはす、まよはす③まひ、まよひ

醎

ソク  
醎 醎 醎

す(醎)又すつばい

九 畫

醜

ダイ

醜 醜 醜 醜 醜 醜

醜は①牛酪の精純なるもの②佛性、佛の深妙なる教義③清酒、すみたる酒④すぐれたる人物

醜

鹹の俗字

醜 醜

醜

コグ

醜 醜 醜

醜の字解を見よ

醒

セイ

醒 醒 醒 醒 醒 醒

①さむ、酒の酔がさめる、迷ひがきえる、夢がさめる、さとする(悟)②さます、さとしめる

一〇畫

醜

シウ

醜 醜 醜 醜

①みにくし、ふきりやう、けがらはしい、きたない②にくむ(悪)③はぢ、恥、はづ④しこ、恥づべきもの、にくむべきもの、きらふべきもの、ふきりやうの人、又きたなきこと⑤ひとし(均)たぐふ(比)⑥もろく(衆)なかま、ともがら、衆人⑦くらぶ(較)

醜

ウン

醜 醜

①かもす(醜)酒をつくる、又その酒、かまへる(構)②おくゆかし、しとやか

醜

カイ

醜 醜

①しむびしほ(乾肉をきざみて麴・鹽・酒等に漬けしもの)今のしほからの類②刑罰として人體を醜づけにせしもの、又それ等のこと③にる(烹)

一一畫

醜

リ

醜

①うすき酒②しる(汁)酒より醇味を搾り取りしあとの汁

醜

ラウ

醜 醜

にこりさけ、どぶろく、濁酒

醜

イ

醜 醜 醜 醜

①くすし、いやし②なほす、病を治す③病氣を治療する學問技術

醜

シャウ

醜 醜 醜 醜

①ひしほ(麥・麴・豆・米などをねかして鹽をまぜたる食料)みそ②したぢ

一二一三畫

醜

セウ

醜

①酒を供へて神を祭る②祭壇を設けて神に祈禱すること③元服又は婚姻の儀式に酒を飲むこと④やつる(醜)

醜

ハツ

醜 醜

①酒を重醸して濃くすること②わく、俗に發酵の發に誤り用ゐる

醜

ヂョウ

醜 醜

①濃き酒②こし(濃)物事があつひ、又おほい

醜

レイ

醜 醜

①あまざけ、ひとよざけ②うまき水の涌出する泉

醜

キヤク

醜 醜 醜

① 金銭を出しよりて飲食す、又其金銭及び飲食を或目的をもつて金銭を出し合ふこと

一四一九畫

釀 クン 醱 醱 醱 醱

② 糸ふ(醱)酒くさし、酒氣

釀 宴に 同じ

釀

釀 チヤウ

釀 釀 釀 釀

③ かもす、酒をつくるを(か)まへる(構)の(さ)け(酒)

釀 キン

釀 釀 釀

① 牲の血を器に塗りて神を祭る、ちぬる(す)きま(間隙)ひま(隙)不和(隙)香料をからだに塗ること(う)ごく(動)

釀 シ ショ 釀

② したむ、旅にて酒をこす(酒)の粕に水を注ぎ搾りたる薄きしる

采 部

采 ベン

采

③ わかつ(國)調(調)の(調)

一一三畫

采 サイ 采

① とる(採)手に取る、手にてとる、えらぶ、用ゐる(採)いろどり(彩)② こと、しごと、官職、又其ことを勤める③ 臣下の領地、知行所(采)すがた、かたち④ くぬぎ(襟木)⑤ 物事の多くある貌(采)美しき貌(采)采に通ず(采)さい、すごろくの賽、又昔の戦具にして細長き紙のたばに勝軍木の柄をつけ大將が指揮するに用ゐしもの

采 イウ 采

① ひかり(光)つや(艶)② うはぐすり、陶器にかけてつやを生ぜしめる薬

釋 セキ シヤク 釋 釋 釋

① とく、説明する、解きあかす、又いひとく、いひわけす、疑をはらす② とろける、ゆるめ薄くす、水にとかす③ はづす、ぬぐ、ぬげる④ すつ(捨)やめる、さる(去)⑤ はなつ、ゆるす、にがす⑥ おく(舍)⑦ ときあか

し、解説、講義(釋)釋迦は佛の稱號、轉じて僧家の稱、又姓、佛教、佛法

里 部

里 リ 里 里

① さと(邑)② むどころ、土地③ 周代の行政区劃にて二十五家の稱④ みちのり、道程を計る單位(支那にては三百六十歩を一里とし我邦にては古昔は六町、現今は三十六丁を一里とす)⑤ うれふ、心配する⑥ 國調さと(嫁)塔等の實家、子の養育を託する家、遊廓

二一四畫

重 チョウ チュウ 重 重 重

①おもし、おもたい、おもしくし、落ついて居る、権力・地位・名望等が高い。②必要である、大きい、甚だし、丁寧である、厚い、多い。③おもくす、おもしくす、おもんず、尊重す。④ははなはだ(甚)⑤おもみ、おもさ、めかた。⑥かさなる、かさぬ、つもる、つむ、くりかへす、しばくす、増し加へる。⑦またしても、かさねて。⑧かさなり、かさね、又それ等のこと。⑨國訓へ(重りの一つ)。

野 ヤ 野 野 野

⑩の、のはら、郊外、町はづれ、はたけ。⑪かざらざる、鏡、ひなびてゐること、禮儀作法などに馴れぬこと。⑫民間、しもんく。⑬星のやどり。⑭未開なること。⑮分に過ぎたる希望。

五一一畫

里 リヤウ 量 釐

①ます、物のかさをはかる標準器。②かさ(容積・輕重・長短・多少などの數)。③心がら、きまへ、リヤウケン。④はかる(輕重・大小・長短・多少等の量をはかる)かんがへる、思案する、はからふ、かげんする、おし、かる、推測、想象。

釐 キリ 釐 釐 釐

⑤小數の一、りん(一の百分の一)尺度の單位(分の十分の一)目方の單位(分の十分一)錢高の單位(昔の分の十分一にして今の錢の十分一)⑥わづか(僅)すこし⑦をさむ(治)⑧ふたつ(雙)⑨倍に通ず⑩ひろろぎ(祭のとき神に供へる肉)⑪さいはひ(禮)⑫人の姓

金部

金 キン コン 金 金 金

①かね(金銀銅鐵等の鐵物の總稱)かなもの、鐵物製の器物、ぜに(貨幣)はもの(刃物)②わうごん、こがね、黄金色、こんじき③ほこ・かたな等の武器④金にて造りたる樂器⑤或物の上に冠して貴重なる意味を示す語、又極めて固き意味を示す語、又美しき意を示す語⑥數字の下に添へ則又は兩と等しく用ゐる數詞⑦つぐむ(禁)⑧朝の名(女眞族にして完顔氏といひ遼及北宋を滅し滿洲・蒙古及支那の北部に據り後元に滅されるまで通じて十世百二十年續きしもの)。

二 畫

釘 テイ 釘 釘

①くぎ、金物の一口釘を打ちつける。 釜 フ 釜 釜 釜

①かま、金屬製の厨具。②樹目の名、支那にて六斗四升(我國の約五六升)。

金部 釘・釜・針・釣・釐・釐

針 シン 針 針 針

三 畫

釣 テウ 釣 釣 釣

①つる、つりをする、魚を釣上る、もとめる、おびきだす。②つりばり、又つり。③國訓つる(ぶらさげる、垂れる、懸垂)つり(つりせん、貼紙)。

釐 コウ 釐 釐

①ひも、衣服につけるひも。②ちりばむ(鏤)③たゞく(叩)④國訓ぼたん(洋服・シャツ等の下前に縫ひつけて上前の穴にはめるもの)。

釐 セン 釐 釐 釐



①うては(腕環)②國訓くしろ(古代使用したる一種の腕かざり)

釵 サイ  
サイ  
かんざし

釵 釵

四 畫

鈍 ドン

鈍 鈍 鈍 鈍

①にぶし、なまくら、のろい、勢がよわい、又それらのこと②にぶる、にぶらす、にぶくする、にぶくなる

鈔 セウ

鈔 鈔 鈔

抄に通ず①かすむ(掠)とる(取)②かきうつす、ぬきがき、うつしとる③さつ、紙幣④政府より發行する受取證、官符

鈎 キン

鈎 鈎 鈎

①めかた三十斤の稱②陶器製造の器械に附屬する輪、物事の樞機③ひとし(均)ひとしくす④多く書翰文に用ゐる敬語

五 畫

鈴 レイ

鈴 鈴 鈴

①すい②物の鳴る聲③りん、振り又は打ちたゞきて音を出す金器、ベル

鈿 テン

鈿 鈿 鈿

①かんざし(花簪)②あをがひ、又その細工

鉄 テツ

鉄 鉄 鉄

鉄の古字

鐵の俗字とするは誤

鉅 キョ

鉅 鉅 鉅

①堅質の鐵②おほいなり(巨)③つりばり(鉤)④いづくんぞ、なんぞ⑤にはか(遽)

鉋 ハウ

鉋 鉋 鉋

大工道具の一、かんな

鉗 ケン

鉗 鉗 鉗

①刑具の一、くびかせ②物をはさみとる物③勢力を以て他をおさへ制す④とづ(拵)⑤妄行不誠のさま、むてつばう

鉛 エン

鉛 鉛 鉛

①鐵物の一、なまり②おしろい(鉛白)③したがふ(滑)

鉞 エツ

鉞 鉞 鉞

大なる斧、まさかり、古昔征討の主將が威信を賊徒に示す爲め天子より賜はりしもの

鉢 ハツ

鉢 鉢 鉢

①僧侶の食器、轉じて僧の樂道②はち、めしびつ、大皿、植木ばち、兜の頭にかぶさる部分、頭の頭蓋骨の部分

鈎 コウ

鈎 鈎 鈎

①劍に似たる曲つた武器にして敵を引きかけ殺す具②かぎ、物をひきかけ取る金物③おびどめ④つりばり⑤ひきかける、隠れたるものを引きかけつりだす、かぎにかける、ひつばりあふ

鉦 シヤウ

鉦 鉦 鉦

①どら、かね、軍中の樂器②鐘の中腹③ふせがね、伏せて叩き鳴らす佛具

銑 ジユウ 銑 銑 銑

④斧の柄を挿しこむ孔⑤こづ

六 畫

鉶 ケイ 鉶

鼎の一種、祭の時あつものを盛る器

鉸 カウ 鉸 鉸

①かなもの、金具②はさみ(剃刀)

銀 ギン 銀 銀 銀

④鍍物の一、しろがね、銀の如き白い色⑤銀の貨幣⑥ぜに(金銭)

銅 トウ ドウ 銅 銅

①金屬の一、あかがね、あかやねいろ②銅の貨幣、又は器具

銑 セン 銑 銑

①黄金中にて最も光澤強きもの②そとぐ(澀)③鐘の口の兩角④づく(鐵鍍をとかし其鐵分のみを採りしもの、鑄鐵)

銓 セン 銓

①はかり(權衡)②はかる、輕重をはかる、人物をしらべて官に任ず

銖 シュ 銖 銖 銖

鐵の古字

①めかたの稱(一兩の二十四分の一)②小數の名、専ら利率に用ふ(一割の十分の一、分)③すこし、わづかにぶし(鈍)④朱に作る、舊貨幣の一分の四分の一

銘 ベイ ミヤウ メイ 銘 銘 銘

①鐘などに鑄込み又は石碑に刻みたる文章②刻文を記す③文體の一④記憶す、深くおぼえこむ⑤製作者が其作品に己の名を記したるもの、落款⑥葬式の時に死者の官位姓名等を記した旗⑦いましめの詞⑧特製物に冠せしめる語

銑 エウ テウ 銑

①飲食物を温める具、てうし②すき、かる(刈)③銑子は儀式の酒を盛る器、轉じて爛徳利

銑 カン 銑 銑 銑

①くつばみ、くつわ②ふくむ、口につける、口にくはへる、うけたまはる③うらむ(怨)④つゝみもつ(包有)⑤くらむ(位階)

七 畫

銳 エイ タイ 銳 銳 銳

①するどし、はげし(剛)さとし、つよし(強)はやし(早)先が尖つて細い、よくねれて居る②するどくす③ほさき、きつきき、尖端、はげしくす④するどき武器、よくねれて強き兵士⑤ちひさし(小)こまかい(細)⑥ほこ(矛)

銷 セウ 銷 銷 銷

①とく、金屬がとける(鎔解)又とかす②衰へる、へる、又へらす、弱らせる③ちる(散)消える、又消す、ちらす

銹 シウ 銹 銹

①さびる、鐵の面が酸化すること②さび、さびて生ずる物

鉄 ケフ 鉄 鉄

①つるぎ(劍)②かなばし(鐵鉗)③つか(劍把)④國訓はさみ(兩刃をくひ合せ物を剪る刃物、蟹の爪のはさみ)

鋒 ホウ 鋒 鋒 鋒

①ほさき、ほこさき、矢おもて②はもの、ほこ、つるぎ③さきて、軍隊の先陣

鋟 シン 鋟

きざむ(刻)ゑる(彫)ほる

鋤 ショ ジョ 鋤 鋤 鋤

①すき(鋤)田の草を除き土をおこす農具②すく、ほる

鋪 ホ 鋪 鋪 鋪

①門の環の金具②しく(布)ならべる(並)つらねる、又つらなる(連)ならぶ③やむ(病)④みせ(店)

鋏 國字 鋏

びやう(釘の一種にして頭大きく打つけて物を固め又飾とするもの)

八 畫

鋸 キヨ 鋸 鋸 鋸

①のこぎり、鋸にてひく②刑罰の一、のこぎりで足をきるもの

鋼 カウ 鋼 鋼 鋼

はがね、ねりがね

録 ロク 録 録 録

①かき記したるもの、文書②しるす、記載す、明かにす、あらはす、心にとめて忘れぬ③とり扱ふこと④書物又は品物の題をしるしたるもの⑤凡庸にして役たず、又人に従ふ貌

鏑 シヤウ 鏑 鏑

①くはし(精)②國訓さび(金屬が酸化して生じたる者)

錐 スキ 錐 錐 錐

きり、錐のごとく小さく細きこと、又先の尖りし形

錘 ツキ スキ 錘 錘

①おもり、ふんどら②めかたの名(八銖)③金屬を鍛へる器

鎚 シ 鎚 鎚

①六兩の重さの稱、又八兩ともいふ、算法に於て十黍を黍、十黍を銖、二十四銖を兩、六兩を鎚とする②すこしのめかた

錚 サウ 錚 錚

①どら(鉦)かね②金の聲の形容

錠 テイ チヤウ 錠 錠 錠

①たかつき、祭具の一②銀貨の名稱③じやう、じやうまへ、又一片のひらたい塊に製したる藥の稱

錡 キ 錡 錡

①かま、三本足の釜②兵器を懸けて置くもの③鑿の類

錢

セン

銭 銖 銖

①かね、ぜに、貨幣②農具の一、すき③貨幣の單位(圓の百分の一)

鍍

テツ

鍍 鍍

①馬の鞭の先に附ける金物②國訓しころ(鍍)

錦

キン

錦 錦

①織物の名、にしき、にしきにて仕立てし衣服、錦の模様(の美しきもの)②尊稱の意味にて添へる形容詞

錫

セキ シヤク

錫 錫

①金屬の一、すじ②たまもの、たまふ(賜)③しゃくじやう、道士や僧侶の用ゐる杖

銅

コ

銅 銅

①かためる、ふさぐ(塞)②罪人の自由を奪ふ、一室にとちこめる、公権を奪ふ③ながき病氣(痼)

錯

サク

錯 錯

①いりまじる、まじはる、又まじふ②かざる(飾)金屬にて裝飾する③たがひに(逃)交互に④といし、あら砥⑤そむく、たがふ、又あやまつ⑥ひどがきれる⑦おく(措)やめる⑧すゑる、おちつかせる⑨ほどこす(施)おこなふ(行)安んず⑩人名(漢の政治家)

九 畫

錯

ベウ

錯

船具の一、いかり

鍊

レン

鍊 鍊

①ねる、金屬にやきを入れきたへる、薬をねり造る、熟達せしむ②ねり上げたる美しい金屬

鍋

クワ

鍋 鍋

なべ、金屬製の廚具

鍍

ト

鍍 鍍

めつき(鍍金)

鍔

ガク

鍔 鍔

①劍のきつさき、又刀の刃ともいふ②國訓つば(刀劍類の鍔)

鍛

タン

鍛 鍛

鉄

セウ

鉄 鉄

①すき(鍔)②國訓くは(農具の一)

鋤

トウ チユウ

鋤 鋤

眞鍮は①一種の銅鍍②銅十と亜鉛三の合金

鍵

ケン

鍵 鍵

かぎ(鑰)又錠にさしこむ金

鐵

シン

鐵 鐵

①はり、うちばり、ぬひばり②うちばりの術、はりさす

鐘

シヨウ シユ

鐘 鐘

①あつまる(聚)あつむ②ますめの名、支那量にて六斛四斗、又八斛とも十斛ともいふ③さかづき、コツブ

一〇畫

鎌  
レン  
具の一、かま、又鎌の如く曲れること

鎔  
ヨウ  
①とく、とかす、とろける②いがた(鑄型)

鎖  
サ  
①くさり(鏈)②じやう(鏡)轉じて樞要③しめる、とざす④罪人の頭にはめる鐵のなは⑤くさりにてつなぐ⑥チーエンは英國の里程の單位にて一哩の八十分の一(我が十一間三寸八分餘)

鎗  
サウ

鎗 鎗 鎗 鎗 鎗 鎗

①鐘のなる聲②やり(槍)

鎗  
ツキ  
かなづち(金槌)又それにてうつこと

鎗  
シ  
農具の一、くは

鎗  
カイ  
①よろひ、戰場にて被る衣(皮のものを甲、金屬製のもの)を鎗といふ②よろひを衣る、よろふ、武裝する

鎗  
カウ  
①なべ(鍋)②周の武王の都の名(今の陝西省西安府内の地)③光り耀く貌④國訓しのご(刀身の兩側に隆く通る筋)

鎗  
カウ  
①なべ(鍋)②周の武王の都の名(今の陝西省西安府内の地)③光り耀く貌④國訓しのご(刀身の兩側に隆く通る筋)

鎗 鎗 鎗 鎗 鎗 鎗

鎮  
チン

①しづむ、をさめる、おさへる、やすんず、靜止させる②しづまる、をさまる③しづめ、おさへ④一地方に在りて安撫守備の任に當るもの⑤つねに、ながく(多く詩に用ゐる字)とこしへに

鎰  
イツ

金貨の目方の名、二十四兩、又三十兩とも二十兩ともいふ

一一畫

鐵  
ソク

鐵 鐵 鐵 鐵 鐵 鐵

鏈  
レン

①鉛の鐵石②くさり(鎖)

金部 鎮・鎰・鐵・鎗・鎗・鎗・鎗・鎗・鎗

鎗  
テキ

かぶらや②やじり(鐵)

鎗  
アウ

オウ

鎗 鎗 鎗 鎗 鎗 鎗

鎗  
カウ

カウ

鎗 鎗 鎗 鎗 鎗 鎗

鎗  
シャウ

サウ

鎗 鎗 鎗 鎗 鎗 鎗

鎗  
マン

マン

鎗 鎗 鎗 鎗 鎗 鎗

壁を塗る具、こて

鏡

キヤウ

鏡 鏡 鏡

①かゞみ、てほん②かんがみる鑒明かに察す③めがね

鏤

ロウ

鏤 鏤 鏤

①をる、ちりばむ②屬鏤は古名劍の名

一二畫

鐘

ダウ

鐘 鐘

①ちんがね、どら、軍用の小さき銅鑼②奏樂に用ゐる

鏞

シヨウ

鏞 鏞 鏞

鐵

テツ

鐵 鐵 鐵

①金屬の一種、くろがね②鐵のごとく黒き色③武器、はもの④他語にそへて堅き意又は動かぬ意を示す字

鏝

クワン

鏝 鏝

鐸

タク

鐸 鐸 鐸

一三畫

鏝

アツ

鏝 鏝

①しころ(鏝)②國訓びた(金質の不良なるせに、びたせん)

おほすゞ、昔教令をふれる時鳴らしたるもの、大鈴

一四畫

鑄

シユ

鑄 鑄

いる、金屬をとかし型に流し込みて器物を造ること、鑄じて人才を鍛へ養ふ

鏝

クワク

鏝

かま、かなへ、無足の大なべ

鑑

カン

鑑 鑑 鑑

①かゞみ(鏡)てほん、模範、めき、めがね、をしへ、いましめ②かんがみる、のつとる、かゞみに映し観る、手本とする、人を見て我身のいましめとす、かんがへる(考)又それらのこと

一五畫

鑛

クワウ

鑛 鑛

あらがね、鑛石

鏝

シヤク

鏝 鏝

①とがす、金屬を熔解す、とろかす②とける、とろける③うるはし(美)④老いて強き貌

鏝

リヨ

鏝 鏝

①やすり②やすりにてこする、する

鏝

ヘウ

鏝

①くつわ、馬銜②盛んなる貌

一六一一九畫

鑪 口 鑪

①ひどこ、火をいけておく所、ゐるり酒うり場

鑪 ヤク 鑪 鑪

じやうまへ、じやう(鍵に合せて開閉するもの)

鑰 サン 鑰 鑰 鑰

①きる、錐にてきりもみす、穴をあける、轉じて物事を深くきはめる日きり、みつめぎり

鑿 ラン 鑿 鑿 鑿

天子の御馬車につけたる鈴、轉じて其馬車

鑿 サク サウ 鑿 鑿 鑿

長部

長 ラヤウ 長 長 長

①のみ、木に穴をあける道具口うがつ、ほる(掘)穴をあける、通ずる②追窮する、無理に理窟をつけて調べ、又うまく急所にあてる③しらぐ、米をつき白げる④あざやか、鮮明⑤あな(孔)

①ながし、せいが高い、たげが多い、時が久しい、大きい、距離が遠い②ながきこと③とこしへに、ながく、永久に、つねに④まさつてゐる、すぐれてゐる、たけてゐる⑤かしら、をさ、首領、又としうへ⑥めうへの人、長上、又老人⑦としうへである、成人する、年をとる、年がよる、又日上を尊長す⑧そだてる(育)⑨そだつ、大きくなる⑩たけ、ながさ、寸法、せい⑪あまり、あまる

門部

門 モン 門 門 門

①かど、かどぐち、い(家)家の前口い(がら)家柄②官吏が己を推薦せし人に對して稱する語③物事の重要な位置を占めるもの④分類上の區別、又學術の一種類⑤大砲を敷へる語⑥入口を攻める⑦なかま、ともがら、みうち、家⑧こぐち、いとぐち、端緒⑨國訓もんがまへ(漢字の構造を示す語)

一一三畫

門 サン セン 門 門

門をとぎす横の棒、くわんぬき

門部 門・門・閃・閉・開

閃 セン 閃 閃 閃

①ひらめく、ちらつく、又ひらめかす②ひらめく貌、ちら／＼と見える③身をかはし避ける貌

閉 ヘイ 閉 閉 閉

①とぎす、とづ、ふさぐ、しめる②かくす、おぼふ、しまる、ふさがる、又それ等のこと③やめる、事を終へる、すます④かぎのあな、かぎあな⑤ゆだめ

四畫

開 カイ 開 開 開

①ひらく、ひろがる、あける、又ひろげる、あく②さとる、啓發する③はじめる、おこす、又はじまる、おこる④のびる、のべる⑤道が出来る、通ずる、新たに

七二七

田畑をつくる、花がさく、文明になる、数学にて乗根を  
求めること、國訓ひらく(良くなる、發展する、集會な  
どを閉ぢる)ひらける(かたくなでない、さばけてゐる)

閨

ジュン

𠄎 𠄏 𠄐 𠄑 𠄒

うるふ、曆の上にて平年より日月数の多きこと、又  
其年月(太陽曆にては一日増して三百六十六日となり  
太陰曆にては一箇月増して十三箇月となる)日餘りの  
もの、又は正當ならざるもの

閨

カン

𠄓 𠄔 𠄕 𠄖 𠄗

しづか(静寂)しづかに口のどかにいとま、ひま  
とどめる、ふせぐ(防禦)なれる、ならふ(習)のり、  
きそく、ませ、廐のしきり、車の動く貌、人の往來す  
る貌、廣く大なる貌

閨

カン

𠄘 𠄙 𠄚 𠄛

あひだ、すきま、中央、あな、われめ、あはひ、あ  
ひま、雨つの物のなかの場所、ところ(所)又ころほひ、  
ころ(あたり、そこら、うち(内)ま、へや、家の室  
ホいる(容)へだつ(ひま、いとま、てすき(しづか(静)  
ちかごろ、このごろ(しのび、まはしもの、問者(仲  
をさく、親しみを妨げる(へだてる(隔(いゆ(癒)  
か、はる、あづかる(そしる(誹(かまじる(混(あひ、  
なかつたがひ(しばらく(少時)ひそか(六尺の稱

閨

ビン

𠄜 𠄝 𠄞 𠄟

あはれむ(憫)つとむ(勉)人の姓(孔子の弟子閨  
損)うれふ(憂)うれへ

五一六畫

閨

ダウ

𠄠 𠄡

さわがし、かまびすし

閨

カク

𠄢 𠄣 𠄤 𠄥

たな(棚)物品を載せるたな(やくしよ(官署)たか  
どの(樓閣)内閣の略(かけはし(棧道)さしおく、  
とむ(擲)蛙の鳴く聲(正しき貌

閨

カフ

𠄦 𠄧 𠄨 𠄩

くゞりど、耳門、小門(ねま、へや、寢室)やくし  
よ、ごてん、官省(太閤は關白を辭して内覽の宣旨の  
みを有する者、又關白職を子に譲りし者

閨

バツ

𠄪 𠄫 𠄬 𠄭

いへがら、門地(いさを、功績)出身を同じくした  
る者の黨派

閨

コウ

𠄮 𠄯 𠄰 𠄱

たふ(職)とき、ときのこと

閨

ケイ

𠄲 𠄳 𠄴 𠄵

小さい門(宮中の小門)婦人のねま、ねや(男女の  
關係)婦人に關すること

閨

ミン

𠄶 𠄷

支那東南地方の人種、又其土地の稱(國名(五代十國  
の一にして王審知の建てたるもの)

七畫

閨

コン

𠄸 𠄹

しきみ、門限、戸内と戸外の限界(城郭の門

閨

ラウ

𠄺 𠄻

ひろし(曠)むなし(たかし(高)



闕 リヨ

村の門、周制にて二十五家を圍む門、轉じて二十五家(里)の稱(里)と、みなか、邑里

闕 エツ

けみす、あらためる、しらべる、又よむ、かぞへる、點檢す(過)す(過)へる(歴)えらぶ(簡)てあふ(て)がら、いさほ(い)へがら(い)れる、いる(容)いれられる(蟲)ぬけがら(蛻)うく(裏)

八 畫

闕 シヤウ

天上世界の門

闕 エン

闕 闕

闕 アツ エン

里中の門、小路の門(ちまた巷)闕(闕)は地獄の大王ふさがる(塞)ふさぐ(匈奴)單于の嫡夫人(闕)與はゆるやかなる貌

闕 コン

もんばん、特に宮門を守る人(宮門)ごしよのごもんヨク キキ

九 畫

闕 アン

くらし(暗)おるか(暗)くらむ、くらす、又くらくす(くら)がり、やみ、よる(くら)き貌(喪)にこもる(庶)室(國訓)やみ(くら)き夜、惑亂して事理を辨(ぬ)こと

闕 闕

闕 キ

宮中の小門、又宮中(内)室、奥座敷(官吏)の登用試験場

闕 イン

城の二重門・又は城(曲)まがる(曲)ふさぐ(塞)

闕 クツ

ひろし、大きい、はるか、遠い、心がひろくして小事にかゝはらぬこと(疏)とほくし、世事に通ぜぬ(くる)しむ(苦)大きくす、ひろくす、又ゆるめる

闕 ケツ

いこふ(休)やすむ(なく)なる、つく(盡)むなし(空)をはる(終)やむ、すむ

闕 ラン

らんかん、かうし、やらい(さ)ぎる(遮)ふせ(防)たけなは(附)みだりに(妄)

闕 ジャ

城のものみ、うてな、又城門(倍)倍を火葬すること

闕 タフ

いやし(賤)樓門の屋根

闕 カフ

とびら、門扉(と)とさす(閉)とつ(す)べて、舉りて(天國)の門(なん)ぞ(蓋)

闕 ケツ

闕 闕

①宮城の御門、轉じて宮城(缺)たるぬ、はぶく(省)又かけ、あやまち(う)がつ、ほる

闕 チン 了 同

①うかゞふ(視)口頭を出す貌(突)突き入る

一一畫

闕 キ 覘

のぞく(窺)うかゞふ、さぐり見る

闕 クワン ワン 闕 闕 闕

①くわんぬき(門)口とさす、とづ(穿)つ、はめる(塞)き、せきしよ(港)の口(物)事の出入する口(し)めく(り)物事をとりしまるもの(か)はる(拘)あづかる(與)り(防)鳥のなく聲(から)くり、機械(官)文書(主)として照會の文書(ひ)く(變)カ國訓せき(せ)きしよ、力士の筆頭、又力士の敬稱

一二一三畫

闕 カン 一 飛

①うかゞふ(窺)のぞむ(望)虎の怒りほえる聲の形容

闕 キフ タフ 飛

①てぼこ、車の護衛に備へる小さき矛(お)ちつく貌(た)ゞずむ(イ)いやし(賤)

闕 セン 闕 闕 闕

ひらく(開)あける、明々にす

闕 ヘキ ビヤク 闕 闕 闕

①あける、ひらく(開)開通、荒地をひらく(よ)ける(遊)はつきり分れる、ひらける

闕 タツ 闕 闕

①小さき門、又其なか(宮)中の小門、又宮中

阜部

阜 フウ プ 阜 阜

①をか、つちやま(土山)くが(陸)口おほいなり(大)さかんなり(盛)こゆ(肥)おほし(多)おほいにす、さかんにす(國)訓こざと(漢)字畫上左にある(字)の稱、こざと(へん)

三一四畫

阡 セン 阡 阡

一二一三畫

阡 カン 一 飛

①うかゞふ(窺)のぞむ(望)虎の怒りほえる聲の形容

阡 キフ タフ 飛

①てぼこ、車の護衛に備へる小さき矛(お)ちつく貌(た)ゞずむ(イ)いやし(賤)

阡 セン 阡 阡 阡

ひらく(開)あける、明々にす

阡 ヘキ ビヤク 阡 阡 阡

①あける、ひらく(開)開通、荒地をひらく(よ)ける(遊)はつきり分れる、ひらける

阡 ヤク アイ 阡 阡 ①田間の畦道(東西を隔、南北を阡といふ、又東西を阡、南北を陌ともいふ)古代井田の制度にて定めし田地の區劃、又道路の區劃にもいふ(は)かばのみち(草)のしげりたるさま

阡 アイ 阡 阡 ①ふさがる(塞)くるしむ(苦)通路の塞がる土地(く)るしみ(苦)けはしくせまき所

阡 ハン 阡 阡 阡 ①つゝみ(堤)堤防(さ)か、坂、山の傾斜した所(大)阪

阡 カウ 阡 阡 阡 ①あな(坑)大穴(穴)におとして殺す、あなにす(阜)をか

阡 ゲン 阡 阡 阡

①周代の國の名(今の甘肅省涇州の地)②人の姓

阼 シ

①ふもと(麓)もとゐ(基)②あと(趾)③交趾は安南地方の國名

防 ハウ  
パウ

①ふせぐ、さへぎる(遮)さへへる、せきとめる、用心する、そなへる②つみ(堤)③ふせぎ、用心

五 畫

阻 シヨ  
ソ

①けはし(險)又その所②なやむ(備)くるしむ(苦)③はばむ(沮)④とどむ(止)へだてる(隔)⑤うたがふ(疑)⑥たのむ(恃)己の力などをほこりたのむ⑦へだて、へだてる(隔)

阼 ソ  
サク

①祭祀の時などに祭主が堂に昇る東方の階段②天子が即位して祭祀を行ふ時には東階より昇ることに因み天子の位をいふ③ひもろぎ、祭肉

阿 ア  
オ  
ヲク  
アツ

①をか②よる(倚)たのむ③へつらふ、おもねる④くま、曲隅⑤むね(棟)のき(檐)⑥梵語「ア」音のあて字⑦發聲の語、又人を呼ぶ時に親しみの意をあらはして上につける語⑧阿難は佛弟子の名⑨女の名に冠する敬稱

陀 ダ  
タ

①土地の高低ある貌②梵語「ダ」音のあて字

陟 ハ  
ヒ

①つみ(隄)②ためいけ(貯水池)③さか(坡)④平かならぬ貌⑤なまめ(斜)かたむく(傾)よこしま(邪)

附 フ  
①つく、ちかづく、親しむ、よりつく、つきしたがふ②加へる、ます、つけたす③よせる、わたす、あはせまつる(合祀)

六 畫

阨 ロウ

①せまし、狭小②みにくい、いやし、劣る

陌 ハク

①田間の畦道(東西に通れるもの)②町の中道、又まちも(百)③はちまき(陌)

降 カウ  
コウ

阜部 阝・陌・降・限・陟

限 ゲン

①さかひ、かぎり、しきみ(門闕)きまり、ほど、時日場所などのとり定めたる範圍②かぎる、きめる、くぎる、一定の程度に止める③隔てる、界を設ける、區劃す

陔 ガイ

①きだはし、きざはし、階段②天上世界の階段

七 畫

陞 セ  
ハイ

七三五

①きざはし(宮殿の階段) ②陛下は天子の敬稱  
 陝 カフ ケフ  
 せまし(狭)

陞 ショウ  
 のぼす(升)のぼる

陟 チョク  
 ①のぼる、其地位につく、高きにあがる ②のぼす、官爵を進める

院 トウ  
 ①そばだつ(峠) ②にはか(頓)

院 キン エン  
 ヲン

①かき(桓塔) ②桓塔にてかこむし宮殿、やくしよ(官衙) ③てら(寺) ④學校 ⑤上皇・法皇、又その御所

陣 チン  
 ①軍隊をしきならべる、軍の備へを立てる ②軍隊の排置、軍營、又軍隊 ③ひとしきり ④ならび(陣)ならぶ

除 チョ  
 ①きざはし、きざはし ②とりさる、のぞく、のける、きよめる、はらふ ③新たに官職を授ける ④わりさん、除法

八 畫

陪 ハイ ベ  
 バイ

①主に附従ふ、おとも、随伴、又其者 ②たすく(助) ③かさね(重)かさなる ④またげらい、臣の臣

陬 ソウ ス  
 スウ シウ  
 ①すみ(隅) ②正月の異名 ③地名(孔子の生れし所)

陰 イン オン  
 アン

①易學上の語(陽の對にして靜・閉・下・伏・藏・柔・後・地・女・臣・夜・月などの消極性又は女性の意味を有す) ②くもり(曇)くもる ③かげ、ひかげ、又物に蔽はれて隠れたる所 ④きた(北)山の北 ⑤みなみ(南)川の南 ⑥物のうしろ、背面 ⑦ひそかに(密) ⑧男女の生殖器 ⑨電氣又は磁氣の消極 ⑩忌服にとちこもる家

陳 チン  
 チン

①ならべる、つらぬ、つらなる、又ならべ立て、言上する ②のぶ(述) ③ふるし(古)又其物 ④ならび(列次) ⑤國の名(周初舜の子孫を封じた所にして今の河南省開

封府以東から安徽省亳州地方に至る地) ②朝の名(南北朝時代に陳霸先の建てた國にして五代三十三年を経て隋に亡されしもの)

陵 リョウ  
 ①をか、大阜 ②みさゝぎ(天子の御墓) ③しのぶ(陵)あなどる(侮)をかす(侵) ④次第に衰へ傾く ⑤土地が次第に低くなる

陶 タウ  
 ニウ  
 ①すゑもの、すゑ、せともの ②せとものを造る ③哀しく思ふ、氣が塞ぐ ④よろこぶ(悅) ⑤陶器を造る如く人を教へ導くこと ⑥馬を走らせる貌 ⑦人名(舜の臣) ⑧和らぎ樂しむ貌 ⑨列をなして進む貌

陷 カン  
 ①おとしあな、人を欺く計略 ②おちいる、くづされる、やぶられる、はまる、おちこむ、だまされる ③おとし

陸

リク  
ロク

陸 陸 陸 陸

①くが、をか、土の出てゐる廣き土地、歩行又は車馬などにて交通し得る地②をどる(跳)③数字の六に代用す④碌に通ず⑤連続する貌⑥凹凸高低のなきこと

九 畫

陽

ヤウ

陽 陽 陽 陽

①易學上の語(陰の對にして動・開・上・現・剛・前・天・男・君・晝・日など積極性又は男性の意味をあらはすもの)②ひ、太陽③ひなた(日向)④きた(北)川⑤北みなみ(南)山の南⑥明かなる貌⑦得意なる貌⑧うはべだけ、あらはに⑨男子の生殖器⑩十月の異稱⑪電氣又磁氣の積極

隄

テイ

隄 隄

どて、つゝみ(堤)きし

隅

グ  
グウ

隅 隅 隅 隅

①すみ、はて、はづれ、かど、方角②正しきこと

隆

リュウ

隆 隆 隆 隆

①たかし(主に中央の高きにいふ)位又身分が尊い②さかんなり(盛)③さかんにす④たかめる、たかくす⑤たとぶ(尊)

隈

ワイ

隈 隈 隈 隈

①くま、水曲、水が岸に曲り入る所、又山がまがり入り込む所②國訓くま(物の陰の闇き所、わだかまり、くもり氣、色が相接觸する所、光と影と接合する所、役者の顔の色どり)

隊

タイ  
ツキ

隊 隊 隊 隊

①くみ(伍)くみあひ、兵士のくみ、數多の人の整列するもの②おとす(墜)おつ

隋

ダイ  
ズキ

隋 隋 隋 隋

①おつ(墮)②こばん形、楕圓③朝の名(始め隨といひ文帝楊堅が南北朝を混一するに及び隋と改め四帝三十九年を経て唐に禪りしもの)

隍

クワウ

隍

城のからぼり、水の無きぼり

階

カイ

階 階 階 階

①きだはし、きざはし②はし③物事の案内手引④梯子をかける⑤物事のこぐち、はじまり⑥官等の順序⑦樓の層を數へる語

一〇 畫

隔

カク

隔 隔 隔 隔

隘

アイ  
ヤク

隘 隘 隘 隘

①けはし(險)又けはしき所②せまし(狭)せまくきたなし、心がせまい③ふさぐ

一一 畫

隙 ケキ

隙 隙 隙

①ひま、すき②間暇③なかたがひ

際 サイ

際 際 際

①しほ、をり、まぎは、其場合、あひだ、あはひ、あひめ②まじはり③かぎり、きは、はて④であふ、其機會にあふ

障 ショウ

障 障

①ふさぐ(塞)さふ(支)おほふ、へだつ②さかひ、へだて、しきり③まもり、とりて④さはる、さはり、じやま、つかへる⑤あぜみち、つみみ(隄)⑥屏風、ついたて

一四一三畫

隣 リン

隣 隣

となりきんじよ近く又つれ

墮 タイ

墮 墮

①くづす(頹)くづる、崩壊す、又そのひびき②柔順なる貌③つかる(疲)やむ(病)

隧 スキ

隧 隧

①はかみち、棺を埋める穴、あなみち②トンネル、地中をくりぬいて造りたる道③まろぶ(轉)

隨 ズキ

隨 隨

①したがふ、つれだつ、ともなふ(伴)ひきつゞく、よりそふ、まかす(任)②したがつて、よつて、つけて、なすがまゝに、まに③易の卦の名

險 ケン

險 險 險

①けはし(險)あぶない(危)腹がくろい、又それ等のこと②きはどし、冒険である③不時の難儀

一四一六畫

隰 シフ

隰 隰

①さは、低くして濕氣ある地②みぎは、水邊

隱 イン

隱 隱

隱 隱

①かくす、おほふ(蔽)かばふ、秘密にす、外部に現さぬ②かくる(匿)にげかくれる、世をすてる、世間に遠ざかる、又その人③隠事、秘密④かくれたる所、奥ぶかき道理⑤あはれむ、いたむ⑥なぞ(謎)⑦くるしむ(困)⑧かき、低き牆⑨よる(寄)もたれる(凭)⑩おもくしき貌、又盛大なるさま⑪やすら(安)おだやか(穩)

隳 キ

隳 隳

やぶる(破)くづれる(頹)

隴 リョウ

隴 隴

①地名(今の甘肅省鞏昌府)②はたけ(畠)うね③山の凸起したる所

隸部

八畫

隸 レイ

隸 隸

①つく、したがふ②けみす③罪人

隹部

二一三畫

隹 セキ 隹 隹 隹 隹

①ひとつ(單)②かたわれ(寄)かたぐ、一對の半分(軍艦等を數へる語)

隹 シュン ジュン 隹 隹 隹

鷹の一種、はやぶさ

雀 シヤク ジヤク 雀 雀 雀 雀

①小鳥の一、すゞめ②こをどりすること

四畫

雁 ガン 雁 雁 雁 雁

水禽の一、かり、かりがね

雄 ユウ 雄 雄 雄 雄

①をん、をす、を(主として鳥類にいふ)②勇まし、つよし(強)さかん(壯)を、しい、又其者③優る、勝つ

雅 ガ 雅 雅 雅 雅

①たゞし(正)②詩の六義の一、正樂の歌③もとより、つねに、つねに④みやびやか、人の文詞の敬語

集 シフ 集 集 集 集

雇 コ 雇 雇 雇 雇

①あつまる、つどふ、より合ふ②そろふ(揃)なる(成)③あつむ、あはす④をさめる(治)やすんず(耕)⑤とりて、國境の城壁⑥詩文を集めたるもの

①鳩の一種②やとふ、賃金を出して人を使ふ、人をたのみつかふ③やとひ、又やとはれし人④國訓やとひ(官署・會社などにて定員以外に使用する人員)

五畫

雉 チ 雉 雉 雉 雉

①野禽の一、きじ、きどす②尺度の名(一丈四方を堵、三堵を雉といひ主として城の牆をはかるにいふ)③かき(城牆)④牛の鼻繩

雉 コウ ク 雉 雉

なく、雉の雄の鳴くこと

雉 セン レン 雉 雉 雉 雉

①うまき肉、こえたる肉、又味よきこと②すぐる(從)又其人③人の姓

雌 シ 雌 雌 雌 雌

①めん、めす、め(主に鳥類の女性)②にぶい、よわい、め、しい、又其もの③おとる(劣)まける

雍 ヨウ 雍 雍 雍 雍

①むつまじい(睦)やはらぐ②天子の學校③地名(支那九州の一、今の陝西・甘肅・青海地方)

八一九畫

雕

テウ

彫 彫 彫 彫

①わし(鷲)の大きなもの(彫)ある(彫)玉を彫刻する、又一般に彫刻すること(彫)しほむ(湖)かれる(枯)

雖

スキ

雖 雖 雖 雖

①推量する語、いへども、とも、とても(文勢)を轉ずる箇所に用ゐる語、たとひ、もし

一〇畫

雙

サウ

雙 雙 雙 雙

①そろひ、つゐ、二つ揃つてあること(たぐふ、ならぶ、匹敵)一對づゝ(一對)のものを數へる語

雛

スウ

雛 雛 雛 雛

①もと雛の子の稱、後弘く鳥の子の意味に用ふ、ひな、ひよこ(ひながた、原物を縮少して作る模形)鳥の名、風風の類(小兒、こども、一人前にならぬ者)國訓ひな(てく、人形)

雛

サフゾフザツ

雛 雛 雛 雛

①まじはる、まじる、はさまる、いりくむ、みだれる(亂)又それ等のさま(まじふ、はさむ)煩はしい、こまかい(細)

雛

ヨウ

雛 雛

①やはらぐ(おほふ(蔽)ふさぐ(蓋))

雛

ケイ

雛 雛 雛 雛

家禽の一、にはとり、やこゑのと

離

リ

離 離 離 離

①はなる、はなす、わかる、わかれる、絶える、去る、とほざかる、不和になる(かゝる、あふ(遇)つく(著))  
②ならぶ(兩)つらぬ(陳)つらなる(わかつ(分)雲の長くつゞく貌)しげる(繁)穂が實つて垂れるさま(避ける、親しまぬ、散りはなれる)易の卦の名(藜草の名、せんきゆう)たちきる、取りさる

難

ダンナン

難 難 難 難

①かたし、むづかしい、又そのこと(かたしとす、かたんず(うれ(憂)わざはひ、心配)いく(き)せむ(責)なじる、とがめる)せむ(き)缺點、おちど(ふせ(防)はむ)互に相敵すること(木の葉の茂るさま)はかる

雨部

雨

ウ

雨 雨 雨 雨

①あめ、あめふり、又雨ふる(降)ふらす

三一四畫

雪

セツ

雪 雪 雪 雪

①ゆき、六花(ゆきふる)すゝ(きよめる)季節の名

霽

ダン

霽 霽 霽 霽

しづく、したゝり



雲 ウン 雲 雲 雲

①くも、雲の如く多く集るもの、又は高くあるもの、形容②雲の如く見えるもの③そら、天空

五 畫

零 レイ 零 零

①ふる(降)雨がふる②おつ(苔の假字、草の枯れおちるを苔、木の枯れおちるを落といふ)おちぶれる(零落)③整数に満たぬ数④あまり、はした⑤から、セロ

雷 ライ 雷 雷 雷

①いかづち、かみなり、大なる音聲、音響の大なるもの、又あらし性行に喩ふ②一所になつてさわぐ、附和③うつ(播)太鼓をたたく

電 ハク 電

ひよう、へう、ひさめ

電 デン 電 電 電

①いなびかり、いなづま②他人に對する敬語、雷の如く明らかにてらす③電光の如くはやい④宇宙に存する陰陽二種の勢力、でんき⑤でんわ(電話)でんしん、でんばう

六一七 畫

霽 シユ 霽 霽 霽

①ほつす(欲)もとむ(索)②もとめ、要求③いりよう、又必需品④ためらふ(猶豫)⑤まつ(待)⑥易の卦の名

霄 セウ 霄 霄

①そら(空)②太陽の周圍にあらはれる雲氣

霆 テイ 霆

①雷鳴の長く引く音響、又烈しきかみなりともいふ②いなびかり、いなづま

震 シン 震 震

①ふるふ、動きゆれる、おそれる(駭)ふるひおこす、ひびきわたる、雷が落ちる②うごかす、とどろかす、驚かす、おびやかす③いきほひ、勢威④大地のゆれ動く現象、ぢしん⑤はらむ、たかぶる⑥易の卦の名

霽 ハイ 霽 霽 霽

①降雨の盛んなるさま②おほあめ、大雨

八 畫

霍 クワク 霍

①刀劍の光りがひらめく貌②疾きさま、にはかなる貌③國名(周の武王の弟霍叔の領地にして今の山西省霍州)

霏 ヒ 霏 霏

①もや(霧)きり(霧)②雪又雨などのほそく飛ぶ貌③草の茂る貌④雪の走り飛ぶさま⑤電光のきらめき光る貌⑥物事の續くさま⑦霜のおくさま

霈 テン 霈 霈 霈

しめる、うるほふ、恩恵をうける、又それ等のこと

霓 ゲイ 霓 霓

にじ(蜺)

霖 リン 霖 霖 霖

三日以上ふり續く雨、ながあめ

九 畫

霜

サウ

霜

①露の凍りしもの、しも②鬢髪の白き形容、又其鬢髪  
③年をふる、又年數④霜にて草木が枯れることに因み  
きびしきこと

霞

カ

霞

①あさやけ、ゆふやけ、日光が空中の雲氣に映りて赤  
く照るもの②はるか(遙)③國訓かすみ(春季のもや、鳥  
を捕へる網)

一〇一一畫

雷

リウ

雷

①あまだれ②あまだれうけ③したゝり(溜)④へや(穴  
居時代室のあかり窓より雨だれの落ちしよりいふ)

霧

ブ ム  
ボウ

霧

きり、地上にたゞよふ氣、霧の如く集散すること

霽

イン

霽

十日以上つゞけて降る雨、ながあめ

一一一一三畫

霰

セン  
サン

霰

①あられ(粒狀に凍りて降る雨)②國訓あられ(白く粒  
状をなしたるもの)

露

ロ

露

①つゆ②あらはる、ばれる、はだかになる③あらはす、  
はだかにす、むきだしにす、さらす④露の如くはかな  
きことの譬⑤つかる、つからす⑥うるほす、ぬらす、  
恩恵を受ける⑦國名、露西亞の略

霽

ハ

霽

①大名のかしら、はたがしら、武道を以て天下を治め  
し者②一方に割據して勢力を振ふもの③旗がしらとな  
ること

霽

ヘキ

霽

霹靂ははたき、はたき、雷鳴の急激なること、又  
落雷

一四一一七畫

霽

セイ

霽

はる、雲霧が散じて天氣になる、心がきはやかになる、  
きげんがなほる、又それ等のこと

霽

レキ

霽

霹靂と連用して青天霹靂などの場合に用ふ(霹の字を  
見よ)

霽

アイ

霽

①もや②雲氣のたなびく貌

靈

レイ

靈

①たましひ、たま、主たるもの、死人のたましひ、人  
體の精氣、鬼神のみたま、活動の元氣②神妙不可思議  
にして人智にては測り知りがたきもの③神々しく尊し  
④さいはひ、めぐみ⑤不思議なるきゝめ、又しるし  
よし(善)

霽

アイ

霽

① 霽は雲が盛んにたゞよふ貌、たなびく(目)めがね(眼鏡)を始めて支那に齎したる西域人の名にもとづきていふ)

青部

青

セイ シヤウ

青

① 五色の一、あを、あをし(目)しげる(善)② 春・東・わかし等の意味に用ふ(赤)地名(九州の一)にして今の山東省の登・萊・青の三府及奉天の遼陽地方)

五十一八畫

靖

セイ

靖

① やすんず、しづめをさむ(目)はかる(謀)② やすし、静かである

靜

セイ ジャウ

靜

① しづか(動の對)おだやか、しとやか、音聲の無きこと、休止せること(目)しづかに、しとやかに、おだやかに(目)しづむ、しづまる、しづかにす、又しづかになる

非部

非

ヒ

非

① ひがごと、正しからざること(目)わるしと認めること  
② うちけしの字、否定の意を示す(目)そしる(誹)③ 否定の語、あらず(不)字の下には多く虚字を用ひ非字の下には主に實字を用ひる(反)語の意味をあらはす語、あらずや(目)なし(無)

七一一畫

靠

カウ

靠

もたれる、よる(倚)よりかゝる

靡

マ ビヒ

靡

① なびく、服す、したがふ、又したがはず、なびかす(目)おごり、おごる(奢)② うつくし(美)③ なし(無)④ なかれ(勿)⑤ 亂れ敗れる貌(目)ゆるくと歩くさま(目)ほろぼす(滅)ほろぶ(目)つひやす(費)⑥ する(摩)

面部

面

メン

面

① おもて、つら、かほ(顔)② そとがは、うはべ(目)むき、方面、方向③ あふ(會)④ むかふ(向)むける、對す⑤ まのあたり、又その場、その人の前(目)そむく(背)⑥ 顔の形に作りしがぶりもの、めん、假面⑦ 物體のそとづらの限界面⑧ 物の稜角を少しく削りて平らかにすること⑨ 平たき物の名に添へていふ語

七一一四畫

靦

テン

靦

① まのあたり、向ひ合ひてみる(目)はづ(慙)恥ぢいる(目)面目ありて人を見る貌

靨

エフ

靨 靨 靨

ゑくば、笑ふ時顔に出るくほみ

革部

鞞

カク キヨク

鞞 鞞 鞞

か、毛を去つた獸皮、かはにて作りし武具、よろひかぶとの類。あらたむ、あらたまる(改)。鳥がかける皮を張りたる樂器。かはの手綱のたれ。易の卦の名。せまる(迫)すみやか(咳)病氣が危篤になること

三一四畫

鞞

ジン ニン

鞞

鞞

キン

鞞 鞞 鞞

しなやか。國訓うつほ、ゆぎ

鞞

クワ

鞞

はづかしむ、いやしめる。兵車を曳く四頭立の馬の中にある二疋、服馬。馬の胸部にあてゑる組緒、むながい

かはぐつ、くつ

鞞

イン チン

鞞

ひきづな、むながい、牛馬の胸部にあてゑる組緒

鞞

ハウ

鞞 鞞

なめしがはの細工をする人。國訓かばん(革又はツツク製の容器)

五一六畫

鞞

アウ

鞞 鞞 鞞

むながい(斬)革紐。きづな(鞞絆)ほだし。うらむ(快)になふ(荷)満足するさま

鞞

國字

鞞

古代の武具、とも(弓)を射る時左臂につける革製の圓き物)

鞞

アイ カイ

鞞 鞞

くつ(靴)わらぢの類。國訓わらぢ(わらにて造りし履しきはきもの、わらんぢ、わらうづ)

鞞

アン

鞞 鞞 鞞

くら、牛馬の背の上に置くもの。牛馬などにくらを置く、くらす

革部 鞞・鞞・鞞・鞞・鞞・鞞

鞞

キヨウ

鞞 鞞

つかぬ(束)くくりしぼる。かたし(固)

七一五畫

鞞

セウ

鞞 鞞 鞞

さや、刀劍を納める筒。總て鞞の如き形したる物

鞞

キク キウ

鞞 鞞 鞞

まり、けまり。やしなふ(育)そだつ(告)かむ(曲)きはむ(鞞)罪をたゞし調べる。きはまる、困りはてる。多きこと、餘分。からぢ(鞞)をんなかづら

鞞

ヘン ベン

鞞 鞞